

茨城県筑西市

炭 燒 戸 東 遺 跡

— つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書3 —

2009

茨 城 県 筑 西 市
筑 西 市 教 育 委 員 会
有 限 会 社 勾 玉 工 房 Mogi

茨城県筑西市

炭 燒 戸 東 遺 跡

— つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書3 —

2009

茨 城 県 筑 西 市
筑 西 市 教 育 委 員 会
有 限 会 社 勾 玉 工 房 Mogi

例言

1. 本書は、茨城県筑西市松原 599 番地ほかに所在する炭焼戸東遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び報告書作成は、道路開発事業に伴う事前調査として筑西市より委託され、市教育委員会の指導の下に有限会社勾玉工房 Mogi が実施した。
3. 発掘調査および整理作業は下記のとおり実施した。

発掘調査 平成 20 年 9 月 25 日～平成 20 年 11 月 25 日 (対象面積 2,200m²)

担当者：伊藤康倫 (有限会社勾玉工房 Mogi)

整理作業 平成 20 年 11 月 26 日～平成 21 年 3 月 10 日

担当者：田中暁穂 (有限会社勾玉工房 Mogi)

4. 発掘調査で得られた出土遺物およびその他の資料は、筑西市教育委員会に保管している。遺跡略号は「SMI-E」である。
5. 発掘調査参加者は以下のとおりである。

大関きよ子 北原隆 国府田かおり 坂本正江 杉山ミヨ 中島伊一 中島亨 中島宏 藤倉秋之助
松崎初江 森田美代 吉田農 吉田部弘 関美代子 富田たか 渡辺フク

6. 整理作業は、以下の構成で行った。

遺物・遺構図面整理 岩崎美奈子 大賀さつき 木村春代 越川範子 小山郷子 廣井さやか

デジタル編集 川口和之 大賀智章 大賀文香

経理・事務 宇佐美薫

7. 本書の編集は田中が担当した。第 1 章第 1 節を筑西市教育委員会が、第 2 章第 6 節・第 3 章第 1 節を大賀健が執筆し、その他は田中が執筆した。

遺物観察表は大賀健・大賀さつき・田中で作成した。遺物写真撮影は墨書き器赤外線撮影を田中が行い、その他を川口和之・大賀智章が行った。

8. 遺構平面図は航空測量により作成した。

9. 座標値は世界測地系第 IX 系を使用した。挿図の方位は座標北を示し、高さの数値は標高を示している。

10. 土層説明および遺物観察表中の色調表記は、「新版 標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を参照した。

11. 地形図は国土地理院 1/25,000 「筑波・真壁」を使用した。

12. 本書の挿図および写真図版の縮尺は、基本層序 1/80、遺構全体図 1/200・1/1000

遺構個別図 1/60、遺物実測図・遺物写真 1/3・1/4

13. 本書に用いたスクリーントーンは右の通りである。



黒色処理



赤色顔料



磨痕



煤付着範囲



灰釉



墨痕



炉・火床面

14. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸氏、諸機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。(順不同、敬称略。)

篠原正 林田利之 松田政基 宮内勝巳 有限会社カワヒロ産業 芦田測量
株式会社エイティー 株式会社スカイサーべイ

目次

例言

目次

第1章 序章

 第1節 調査に至る経緯 1

 第2節 調査の経過 1

 第3節 遺跡の位置と環境 1

第2章 検出された遺構・遺物

 第1節 調査の概要 5

 第2節 古墳時代 5

 第3節 平安時代 6

 第4節 中近世 13

 第5節 時期不明遺構 13

 第6節 縄文・弥生時代の遺物 14

第3章まとめ

 第1節 6号住居跡山上滑石製模造品について 15

 第2節 墨書き土器 16

 第3節 各時期の遺跡の性格について 17

引用・参考文献

抄録

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 2 第5図 「院」の字体の分類 17

第2図 海老ヶ島城・松原村絵図 4 第6図 「貝」扁の変化 17

第3図 基本土層 5 第7図 遺構の主軸方位 18

第4図 灰焼戸東遺跡調査範囲 6

表目次

表1 周辺の遺跡一覧 3 表12 遺物観察表(9) 30

表2 上坑計測表 20 表13 遺物観察表(10) 31

表3 ピット計測表 21 表14 遺物観察表(11) 32

表4 遺物観察表(1) 22 表15 遺物観察表(12) 33

表5 遺物観察表(2) 23 表16 遺物観察表(13) 34

表6 遺物観察表(3) 24 表17 遺物観察表(14) 35

表7 遺物観察表(4) 25 表18 遺物観察表(15) 36

表8 遺物観察表(5) 26 表19 遺物観察表(16) 37

表9 遺物観察表(6) 27 表20 遺物観察表(17) 38

表10 遺物観察表(7) 28 表21 遺物観察表(縄文・弥生土器) 39

表11 遺物観察表(8) 29 表22 遺物観察表(石器) 39

表23 未掲載遺物重量表 40

図版目次

- 図版 1 遺跡全体図
図版 2 遺構分割図(1) 西区 1・2
図版 3 遺構分割図(2) 中央区 1・2
図版 4 遺構分割図(3) 東区 1
図版 5 遺構分割図(4) 東区 2
図版 6 遺構分割図(5) 東区 3
図版 7 遺構個別図(1) SI1・2・6、SD1
図版 8 遺構個別図(2) SI3～5
図版 9 遺構個別図(3) SI7～11
図版 10 遺構個別図(4) SI12～14
図版 11 遺構個別図(5) SI15・16、SB1
図版 12 遺構個別図(6) SB2ab・3
図版 13 遺構個別図(7) SB4、SE1・2、
SD2～4・6～8・10
図版 14 遺構個別図(8) SK1～11・
13～20・25・27・28
図版 15 遺構個別図(9) SK29～33・35～38、
P3・7・10・16・19～21・151・
168・169
図版 16 遺物実測図(1) 1～26
図版 17 遺物実測図(2) 27～66
図版 18 遺物実測図(3) 67～85
図版 19 遺物実測図(4) 86～112
図版 20 遺物実測図(5) 113～139
図版 21 遺物実測図(6) 140～169・171
図版 22 遺物実測図(7) 170・172～193
図版 23 遺物実測図(8) 194～215
図版 24 遺物実測図(9) 216～232
図版 25 遺物実測図(10) 233～269
図版 26 遺跡全景
図版 27 調査区西側・中央・東側、6号住居跡
図版 28 1～8・10号住居跡
図版 29 9・11～15号住居跡、5号溝
図版 30 16号住居跡、1～3号掘立柱建物跡
図版 31 3号掘立柱建物跡、1～4号溝
図版 32 6・7号溝、1・2号井戸、20号土坑
図版 33 出土遺物(1) 1～45
図版 34 出土遺物(2) 46～91
図版 35 出土遺物(3) 92～122
図版 36 出土遺物(4) 123～174
図版 37 出土遺物(5) 175～219
図版 38 出土遺物(6) 220～269
図版 39 墨書き器(1)
図版 40 墨書き器(2)

第1章 序章

第1節 調査に至る経緯

平成19年9月4日付け筑土木第86号にて、筑西市長富山省三(建設部土木課(現:土木部土木課)扱)から、筑西市松原地内におけるつくば明野北部工業団地進入路整備工事に伴い「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて(照会)」が提出された。筑西市教育委員会は、遺跡の取扱いについて筑西市建設部土木課と協議を行い、工事の計画変更是困難であることから文化財保護法第94条に基づき、平成19年9月7日付け筑土木第89号にて、筑西市長富山省三から茨城県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財発掘の通知について」が提出された。その後、平成19年9月25日付け文第1003号にて、茨城県教育委員会教育長から筑西市長あて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」により工事着手前に発掘調査を実施するよう勧告があり、記録保存を目的とした発掘調査が実施された。

発掘調査は、平成19年度において予定路線の一部、約900mを実施せりし、残りの未調査部分について、平成20年6月23日付けで筑西市土木部長より、発掘調査を実施し全線を工事着手することについて打診を受けた筑西市教育委員会は、筑西市土木部土木課と発掘調査の実施に向けて調整を図り、調査を有限会社勾玉工房Mogiに委託することとした。調査に際しては、筑西市、筑西市教育委員会、有限会社勾玉工房Mogiの三者により「埋蔵文化財に関する協定書」を締結するとともに、有限会社勾玉工房Mogiにより平成20年8月20日付けで、茨城県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財の発掘調査の届出について」が提出された。調査経費については筑西市が全額負担し、筑西市教育委員会の指導のもと、有限会社勾玉工房Mogiが同年9月25日から11月25日まで現地での発掘調査を実施することとなった。

注1) 林 邦達・小野麻人・市瀬俊一 2008『筑西市埋蔵文化財調査報告書 第5集 炭焼戸東遺跡』筑西市教育委員会・株式会社東京航業研究所

第2節 調査の経過

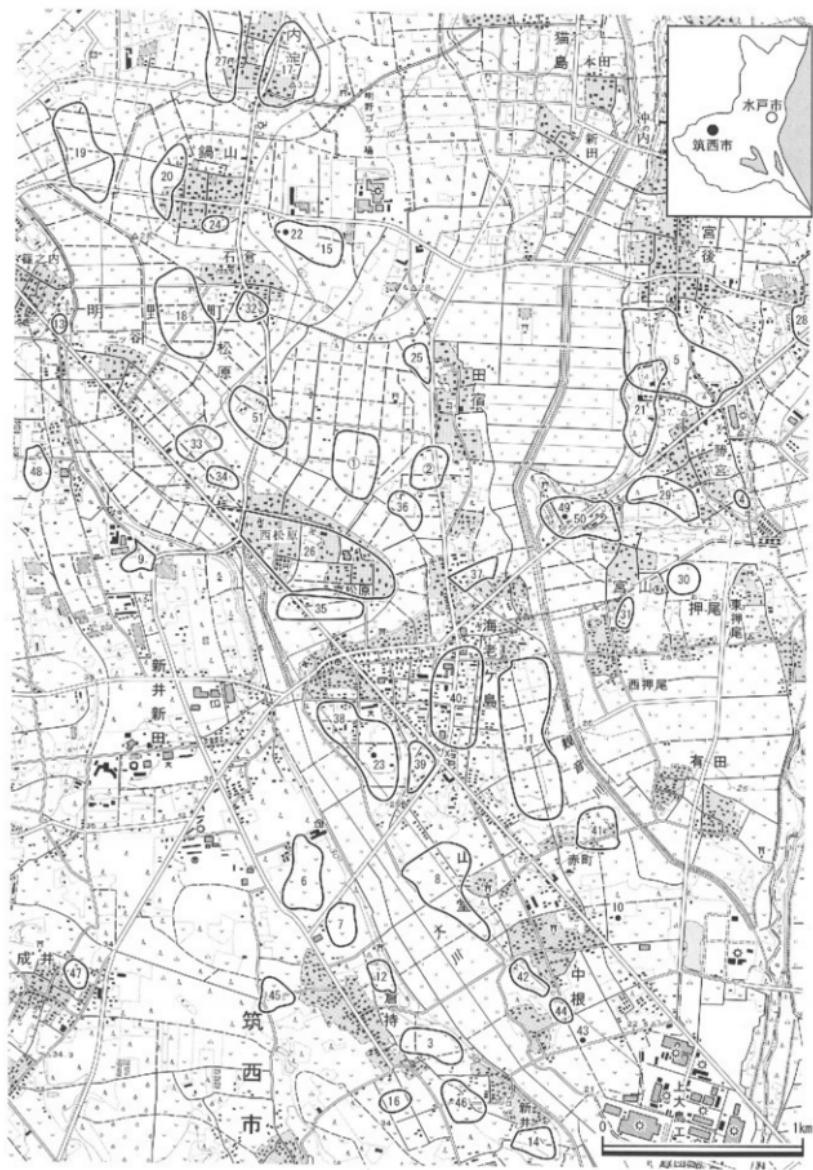
本発掘調査は平成20年9月25日に調査範囲を確定し、表土掘削を開始した。表土掘削終了後、作業員を投入して遺構精査及び確認を行い、10月10日遺構確認状況を撮影した。10月14日ベンチマーク・グリッド杭を打設した。その後遺構発掘作業に入り、遺構半截・断面記録作業を行って完掘した。11月12日空中写真撮影及び航空測量を行った。11月17日市教委から調査終了確認後埋戻し作業を行い、11月25日調査を終了した。

整理作業は平成20年11月26日～平成21年3月10日に行った。12月中旬までに遺物水洗・注記を終了し、随時接合・実測・トレースを行った。1月以降遺物撮影・報告書執筆・編集を行った。

第3節 遺跡の位置と環境(第1・2図、第1表)

炭焼戸東遺跡は筑西市松原599番地ほか(旧明野町)に所在する。周辺の地形は筑波山の西麓に真壁台地があり、西に小貝川、東に桜川が南流している。遺跡は標高約27mのその台地上に立地し、東に親音川、西に大川排水路が流れている。周囲の低地との比高差は約2m、現況は畑地である。台地上には縄文～中世の遺跡が多く点在している。

縄文時代の遺跡としては早期で中表(倉持)遺跡(3)がある。前期は大地遺跡、中期では中表(倉持)遺跡(3)・天神遺跡(5)・久保山遺跡(6)・宮北遺跡(7)がある。後期には鶴田石葉山遺跡・台山遺跡(9)などが見られる。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (国土地理院発行 1/25000『真壁』『筑波』に加筆)

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世
1	炭焼戸東遺跡		○			○	○	27	内淀西遺跡				○	○	○
2	菰冠北遺跡		○		○	○	○	28	宮後金井遺跡				○	○	
3	中妻(倉持遺跡)	○	○	○	○	○	○	29	帝西遺跡		○		○	○	
4	向台遺跡				○	○		30	矢尻遺跡				○	○	
5	大神遺跡		○		○	○		31	坪内遺跡				○	○	
6	久保山遺跡		○		○	○		32	石倉東遺跡				○	○	
7	宮北遺跡		○		○	○	○	33	中根遺跡				○	○	
8	山王堂遺跡		○	○	○	○		34	新堀遺跡				○	○	
9	台山遺跡		○		○	○		35	城ノ内遺跡				○	○	
10	赤町(中根)十三塚遺跡				○	○		36	菰冠南遺跡				○	○	
11	館野遺跡	○		○	○	○		37	戸張遺跡				○	○	
12	宮前遺跡			○	○	○		38	岡山遺跡	○			○	○	
13	稻荷前遺跡				○	○		39	久保新田遺跡				○	○	
14	倉持前輝遺跡				○	○		40	海老ヶ島東原遺跡				○	○	
15	鍋山東原遺跡	○		○	○	○		41	赤町遺跡				○	○	
16	原久保遺跡	○		○	○	○		42	狹間遺跡				○	○	
17	北浦遺跡			○	○	○		43	台遺跡				○	○	
18	石倉西遺跡				○	○		44	笠前遺跡				○	○	
19	西明遺跡				○	○		45	水落遺跡				○	○	
20	星敷付西遺跡					○		46	富士山遺跡	○			○	○	
21	宮山古墳群				○			47	十三塚遺跡	○			○	○	
22	八坂神社古墳				○			48	原遺跡				○	○	
23	稲荷塚古墳群				○			49	宮山觀音古墳				○		
24	星敷付南遺跡					○		50	宮山遺跡	○	○	○	○	○	
25	田宿炭焼戸遺跡					○		51	炭焼戸西遺跡				○		
26	海老ヶ島城跡					○									

表1 周辺の遺跡一覧

周辺の遺跡は中期を中心とするもので、晚期から弥生中期までの遺跡はほとんど確認されていない。

弥生時代後期になると遺跡が見られるようになり、更に古墳時代に入ると遺跡数が増加していく。古墳時代の前期までは台地上に立地するが、中期以降になると低地にも遺跡が見られるようになる。古墳は中期以降のものが見られ、後期の群集墳の段階には増加傾向が窺える。古墳では全長100m超の前方後円墳、宮山觀音古墳(49)や円墳では稲荷塚古墳(23)、鍋山東原遺跡(15)がある。集落は宮山遺跡(50)・鍋山東原遺跡(15)・石倉東遺跡(32)・中根遺跡(33)・新堀遺跡(34)・台山遺跡(9)・菰冠北遺跡(2)・菰冠南遺跡(36)・戸張遺跡(37)・岡山遺跡(38)・海老ヶ島東原遺跡(40)・館野遺跡(11)などがある。

奈良・平安時代には当地域は常陸國白壁郡となり、延暦4(785)年に真壁郡と改称される。郷域を比定することは難しいが、大林(村)郷とするのが通説である。筑波山を挟む東には国府が所在する古河市がある。本遺跡の中心時期である9世紀中葉～10世紀前半は在地有力者層の成長が見られ、特に当該地域では旧羽野町東石田に将門の伯父国香の居館が所在したとの伝承がある。遺跡は大川・觀音川流域の台地縁辺部に集落が營

まれ、台山遺跡(9)・岡山遺跡(38)・中根遺跡(33)・蘿冠北遺跡(2)・蘿冠南遺跡(36)・城ノ内遺跡(35)・戸張遺跡(37)・海老ヶ島東原遺跡(40)・館野遺跡(11)などの遺跡が所在する。

中世の遺跡としては田宿炭焼戸遺跡(25)・炭焼戸西遺跡(51)・岡山遺跡(38)・海老ヶ島東原遺跡(40)・館野遺跡(11)が周辺に見られる。中でも遺跡の南400mには旧河道と見られる低地を隔て戦国期の平城である海老ヶ島城跡(26)が当地域の重要な遺跡となる。海老ヶ島城は寛正2(1461)年から普請が行われたが、応仁元(1467)年に下総結城氏の当主結城成朝の嫡男秀千代が入城し、以後結城・小田方の両者により城主は頻繁に交替する。永禄12(1569)年佐竹義重に攻略され、佐竹領となり、城主となった宍戸外記が海老ヶ島新左衛門と称したとされる。慶長7(1602)年佐竹氏の秋田転封に宍戸氏が同行し、元和元(1615)年一国一城令により廃城となった。

近世の遺跡周辺の様子は慶應3(1867)年に写しが作成された「海老ヶ島城・松原村絵図」(図2)に見られる。寛永3(1626)年作成と伝えられるこの絵図には海老ヶ島城本丸の北側に集落が展開され、旧河道であろう部分が田となり、北に畠地や入会地が広がる様子が窺える。本遺跡は畠地に位置している。



第2図 海老ヶ島城・松原村絵図(『明野町の村絵図』1986より転載)

第2章 検出された遺構・遺物

第1節 調査の概要

調査区のグリッドの設定は、世界測地系第IX系により10mの方眼を設定し、西から東へA～Z、a、bとし、北から南へ4、5、6・・・と設定し、その組合せにより表記した。調査区のK11の座標はX=28920.000、Y=18050.000、U12の座標はX=28910.000、Y=18150.000である。

基本層序は市教委による試掘調査時の土層断面に拠った。模式図(図3)に図示したように3層に分層される。一部中世以降の遺構でI層下から掘削されているのが確認されたが、調査区内は後世の耕作により削平されたと見られ、基本的にはIII層上面を遺構確認面とした。

土坑・ピットについては基本的に遺物の出土も少なく、所属時期が明確ではないものが多いため、遺構一覧表に掲載した。本調査に先立って、遺跡範囲内では既に4ヶ所において調査が行われている(図4)。全体として中世の遺構について密接な関連が見られるが、



基本土層A

- 耕作上
- 黒褐色土 しまり、粘性ややあり、赤色粒含む。
- 明褐色土 しまり、粘性ややあり、赤色粒多量。

基本土層B

- 耕作上
- 黒褐色土 遺構覆土、ローム粒少量含む。
- 暗褐色土 ローム粒、赤色粒多量。

第3図 基本土層(S=1/80)

特に隣接する平成17年調査区では古代の遺構について同一遺構や、同時期と推定される遺構などが見られた。

第2節 古墳時代

6号竪穴住居跡(図版3・7・16・17・27・28・33)

O・P11グリッドに位置する。規模は東西7.92m、南北4.8mになる。床面標高は26.34～26.68m、深さは26～39cm、主軸方向はN0°Eである。周溝は確認されなかった。中央に炉A、その南に炉Bが検出された。北西隅には貯蔵穴が検出され、上陣器甕が出土した。その他に径20cm前後のピットがいくつか見られるが、小規模で方形の平面形を有するものと想定される。床面には炭化材が点在しており、床面上出土遺物が多く残存率が高いことなどから、焼失住居と考えられる。

遺物は古墳時代中期末葉である和泉期に属し、土師器甕(1～6)、上陣器甕(7)、土師器高环(8～13)が出土した。1は東北隅の床面で横位の状態で出土した。口縁に降帯があげられ、二重口縁を模倣している。石田川II式の甕である。2・4は貯蔵穴付近に集中するが、床面～10cm前後のレベルのため貯蔵穴には伴わないと考えられる。3は北壁寄り中央付近に下半が横位の状態で出土、その周辺に破片が散在していた。また滑石製模造品(有孔円板・剣形)が出土した(31～44)。併せて砥石・原石・荒削状未成品・剥片・形割状未成品などの製作工程を示す資料(14～30)も出土し、本遺構で滑石製模造品製作が行われたことが窺える。成品は殆ど覆土からの出土であり、出土位置・層位は不明である。しかし剣形模造品(32)は北壁際中央付近床面から10cmの高さで出土しており、周辺で荒削の破片(21)、形割片(28)、剥片(23・24)がほぼ同レベルで出土している。また砥石(14)・滑石原石(15)はやや離れた北西隅貯蔵穴の南で出土している。西壁際調査区壁付近にも原石(17)、住居西側中央付近で荒削(22)・剣形(25)、形割(27・30)が出土している。概ね滑石製模造品に関する遺物は住居の覆土2層に属する。製作工程など詳細については第3章第1節において述べる。この他鉄製品(45)が出土した。鋳造品であるが、残存する部分からは何であるか不明である。



第3節 平安時代

当該期の竪穴住居の特徴を挙げると、棚状施設を持つ9号住居がある。類例として東京都清瀬市下宿内山遺跡、日野市南広間地遺跡、埼玉県大里郡寄居町樋ノ下遺跡、県内でもひたちなか市武田遺跡群、結城市峯崎遺跡、真壁郡真壁町小山遺跡が挙げられている [川津法伸 1996]。本調査区に北接する平成19年度調査区においても同様の住居が検出されている。9・13・14号住居に見られる床下土坑は栃木県芳賀町免の内台遺跡 [山武考古学研究所 1992] など北関東で7世紀頃から見られ、奈良・平安時代に発掘例が増加する施設である。住居の防湿のために灰などを埋めたものとも言われるが、その目的は明らかにされていない。また、竈を2ヶ所設置する住居も見られ、3・15号住についても北竈と東竈を有し、茨城県内の竈の設置方位が10世紀に入るあたりで北から東に変わる傾向が指摘されている [茨城県立歴史館 1995]。さらに、12号住については東と南に竈が検出されている。

土器の年代は9世紀代に属するため、須恵器の出土量は少ない。甕が多く、転用甕も5点ある。主に胎土により分類を行ったが、産地は常陸国内であると推定される。9世紀代に操業している大規模窯跡群として新治・木葉下・堀ノ内窯があるが、木葉下窯は9世紀中頃まで続くものの、供給地域ではないのか、本遺跡では該当する製品が見られなかった。各胎土の出現傾向は、胎土Aに甕が多いこと以外には特に挙げられない。遺構間の相違も確認されなかった理由は点数が少ないのであろう。観察表には備考欄に以下に掲げた分類記号を記載している。

胎土A 新治窯跡群の製品。長石・石英などの大きい粒子を含む。特に雲母を多量に含むのが特徴。焼成は軟質な場合が多い。本遺跡では器種は甕が多い。

18点 (68.80 ~ 83.102, 116.130, 177, 178, 181, 183, 184, 185, 212, 216, 220, 222, 240, 248)

胎土B 長石・石英の粒を含むが、雲母は含まない。縮まりが硬質でやや暗い色調である。埴敷部周辺に窯が存在すると想定されている [赤井博之 1997]。4点 (91, 241)。

胎土C 繊密な胎土で含有物が少ない。φ 2mm前後の白色粒子 (長石など) を少量含む。調整も丁寧で、良好な還元焼成である。利根川下流域に窯が想定されている [市川市教委 1996]。3点 (143)。

胎土D 微細な白色粒子を比較的多く均一に含む。焼成はやや軟質。壺では底部を一方向のヘラケズリで調整し、体部下端を幅広の手持ちヘラケズリで調整する。10点 (69.70, 72, 103, 179, 180, 211, 217, 218)。

1号竪穴住居跡 (図版 2・7・17・28・34)

B・C9 グリッドに位置する。主軸方向は N39°E である。北側約 1/2 以上が調査区外となりその概要是不明である。残存規模は南北 1.36m 東西 2m、底面高約 26.32m、深度 22cm である。貼床は見られなかつたが、周溝は深さ 8 ~ 18cm で全周する。南隅で 2号土坑を切っている。覆土は自然堆積である。遺物は内面黒色處理の土師器壺 (46) のみを掲載する。この他土師器甕・瓶、須恵器甕の小片が出土している。時期は 9・10世紀代と見られる。

2号竪穴住居跡 (図版 2・7・17・28・34)

C9 グリッドに位置する。主軸方向は N17°E である北側約 2/3 以上が調査区外であり、後世の攪乱により窓などを削除され、東接する 1号溝に切られている。残存規模は完存する北西・南東軸で 2.88m、調査区外に伸びる北東・南西軸で 1.04m となる。底面高は 26.55m、深さ約 7cm と浅い。周溝は検出されておらず、開丸で、北東壁はやや内向する。遺物は窓を中心で分布する。掲載遺物は 6 点である。土師器甕 (47, 48, 49)、土師器高台付壺 (50, 51)、灰釉陶器皿 (52) である。土師器甕 (47) 以外はすべて窓内より出土している。甕はすべて口唇を描み上げる常総型と見られる。高台付壺は高台部分のみの資料であるが、「ハ」字に高台を貼付する形態である。灰釉陶器については小片であるため施釉方法も不明だが、猿投の黒窯 90 号窯～折戸 53 号窯の時期の製品と見られる。

3号竪穴住居跡 (図版 2・8・17・18・28・34)

D9・10 グリッドに位置する。南東隅は調査区外となる。平面規模は南東・北西軸で長 5.48m、北東・南西軸で長 4.56m と東西を長軸とする長方形をなす。底面高約 26.48m、深さは約 28cm と浅く、周溝は幅 12 ~ 28cm、深さ 3 ~ 7cm で全周する。窓は北東・南東壁中央にそれぞれ検出されたが、新旧関係は不明である。南東の窓 A では主軸方向は S56°E、北東の窓 B では主軸方向は N31°E である。主柱穴は P1 ~ 3 であるが、南東の主柱穴は検出されなかった。南西壁際、窓 B に対峙する位置には出入口と考えられる P4 が検出された。また北東隅、窓 AB の間には長軸 56cm、短軸 52cm の焼土範囲が検出された。深度が浅いため正確ではないが、壁は緩やかに立ち上ると見られる。

遺物は窓のある東半に集中し、窓からは土師器を主として遺物が多く出土した。掲載遺物は土師器甕 (53) が窓 B から出土している。常総型甕で胸部外面下半の調整がヘラケズリになるが、まだ胴部の張りがある段階である。土師器壺では体部が直線的に開く古いタイプ (55 ~ 59) と内縁し楕円状を呈する新しいタイプ (60 ~ 62)

とが出土している。63・64はどちらにも含まれない9世紀前半までによく見られる器形である。灰釉陶器皿(71)は器壁が薄く口唇部が玉縁状となる。刷毛塗りによる施釉と見られ、黒窓90号窓の製品と推定される。70は須恵器で、宮都の須恵器編年における壺Gとされる器種であり、遺跡を官衛・仏教関連施設として評価する指標のひとつとされる[考古学から古代を考える会2000]。69は胴部外面に青海波文を有する須恵器甌である。66・67は転用甌と推定されるが、67には赤色顔料が付着しており、朱墨の可能性が考えられる。転用紺鍋車(72)は住居北西部の床面近くで出土し、須恵器坏底部を使用したものでヘラ記号「×」が記される。上製平玉は2点出土し、73は北西の主柱穴P2から、74は竈からの出土である。

4号竪穴住居跡（図版2・8・18・28・34）

F10グリッドに位置する。主軸方向はS77°Eである。規模は東西長3.48m、南北長3.4m、底面高は26.20～26.29m、深さ30～38cmである。周溝や主柱穴は検出されていない。竈は東壁南隅に設けられており、遺存状態は良好であった。床面は部分的に硬化しているが、貼床とは考えられなかった。

遺物は主に南東半に多く、住居の床面に近いレベルで出土している。須恵器甌(80)は床面で横位の状態で出土した。バケツ形で当て具痕はあるが、外面に叩きなどの痕跡は見られない。胴部中位にヘラ記号「×」が記される。須恵器甌(80・81・83)は胎土がそれほど粗くなく、雲母も多くは含まれないが、胎土Aに分類した。須恵器甌(82)は雲母・白色粒子が多く含まれ、胎土が粗粒であるため同様に胎土Aとした。上師器坏(76～78)は椀状に立上がり、口縁部で外反する器形で、底径が小さくやや深身である。また、高台付皿(79)には内面に「上」の刻書(焼成前)が見られる。これらの遺物が共伴することから、9世紀後半の時期の住居と考えられる。

5号竪穴住居跡（図版3・8・18・19・28・34）

N10グリッドに位置する。主軸方向はN12°Eである。完存する東西長2.44m、北側が調査区外となる南北長2.04m、底面高26.68～26.72m深さ16～17cmである。竈・周溝・主柱穴は見られない。南東隅に長軸84cm、短軸80cm、深さ約23cmのピットが検出された。土師器甌(85)・土師器高台付坏(87)は調査区壁際住居中央付近の覆土1層・住居の埋土からの出土である。土師器坏類(86～88)は椀形であり、高台は「ハ」字に貼付される。9世紀半ばでも新しい時期の可能性がある。89は提砥で、被熱している。

7号竪穴住居跡（図版3・9・19・28・34）

S11グリッドに位置する。主軸方向はS77°E、完存する東西長4.64m、殆ど調査区外となる南北長0.64m、底面高26.57m、深さ24cmである。周溝の深さは4～6cm検出された。竈は端部が北壁土層断面で確認された。南壁を南接する8号住居跡の竈に一部削平され、東に10号住居の一部が検出された。掲載遺物は90・91である。90は直線的に開く土師器坏である。91は須恵器高台付坏である。底径が大きく、体部下端に稜を持つ。胎土は新治産に似るが、雲母を含まないためBとした。遺物が少ないため時期は不明だが、9世紀前～中期に含まれる可能性がある。

8号竪穴住居跡（図版3・9・19・28・35・39）

S11グリッドに位置する。主軸方向はN22°Eで、完存する東西長3.92m、竈が一部調査区外となる南北軸で長4.32mとなる。底面高26.54～26.69m、深さ20～24cm、周溝は幅8～12cm、深さ5～8cmで北

壁を除き検出された。周溝の掘り込みは明確で、床面は平滑である。7号住居跡との重複があり、竈より西側の北壁が検出できず、新旧関係は竈が7号住居跡を壊して構築されたことから、本住居が新しいと判断した。北東隅は25号土坑に削平されている。南壁中央竈の対面に直径26cm、深さ約10cmの出入口ピットが見られた。

遺物は竈に集中しており、竈の燃焼部からは伏せた状態で高台付环(101)が出土している。椀形をした环にやや「ハ」字状に高台が付く。底部と体部の外面にヘラ記号「×」が記される。92~94は常総型の土師器甕で、93は胴部下半をヘラケズリし、94は胴部の張りがやや弱くなる。いずれも9世紀の特徴を示す。須恵器甕(102)はバケツ形で頭部に補修孔が穿たれる。胎土に雲母が多量に含まれることから胎土Aと見られる。土師器甕類(95~101)が椀形で薄手であるという特徴もあり遺構の時期は9世紀中~後期と考えられる。

9号竪穴住居跡（図版4・9・19・29・35）

T11グリッドに位置する。主軸方向はN3°Eで、東半が調査区外となる。底面高26.50~26.42m、深さ約50cmで、残存規模は南北長3.8m、東西長1.96~2.28mで西壁は北に向かいやや開く。竈は北壁のほぼ中央と推定される位置にある。竈は東袖が調査区壁で欠けるが、良好な状態であった。また竈の西から住居北西隅まで、床面から約35cmの高さに、幅1.24m、奥行き0.6mの棚状の施設が設けられている。周溝は幅10cm、深さ約10cmで全周するが、北西・南西隅では幅が広くなる。床面は平滑である。住居のほぼ中央と思われる調査区壁には南北1.2m、東西0.6m、深さ22cmの断面形が弧状の床下土坑が検出された。

遺物は土師器高台付皿(112)が住居南側で住居埋土中から出土した他は竈内に集中する。104~106は常総型の土師器甕と見られ、107は小形甕である。胴部の張りはやや弱くなり、胴部下半の調整はヘラケズリである。土師器環(108~111)はやや椀状を呈するものの、直線的な立上がりを有する。遺構の時期は9世紀中~後期と見られる。

10号竪穴住居跡（図版3・9・20・28・35・39）

S11グリッドに位置する。ほとんど7号住居跡に削平され、大半が調査区外になるが、主軸方向はN10°Eと見られる。残存規模は東西長80cm、南北長52cm、底面高26.68m、深さ14cmである。周溝や竈などは検出されていない。遺物の総量が少なく、掲載遺物も3点である。113の常総型土師器甕は最大径が肩部近くにあり、口唇部の摘み上げも明瞭である。土師器環(114・115)も直線的に立上がる形態である。重複関係にある7・8号住居の遺物よりも若干早い時期が考えられる。114の体部外面には横位で「万財」の墨書きがなされている。

11号竪穴住居跡（図版4・9・20・29・35）

V11グリッドに位置する。遺構の多くが調査区北壁の外となる。主軸方向はN6°Eで、完存する東西軸長1.8~2.12m、南北軸の残存長が0.92m、底面高約26.7m、深さ22~30cmである。ごく浅い周溝が西壁から南壁まで検出された。壁の立上がりは比較的緩く、底面は西から東に向かい低くなる。東壁は北へ向かうにつれ開くように設けられている。また東壁の一部はP141により削平されている。竈・主柱穴などは確認されなかつた。遺物の出土が少なく、掲載遺物は2点である。

12号竪穴住居跡（図版5・10・20・29・35）

Z11に位置する。完存する南北長3.4m、東が調査区外となる東西長2.92m、底面高26.35～26.41mである。その位置から平成17年度調査区のSI10と同一遺構と考えられる。SI10は東壁中央付近に竪が検出されているため、東竪を主軸とすると主軸方向はN86°E、南壁の西隅の竪を主軸を合わせると、主軸方向はN4°Wとなる。周溝は幅20～24cm、深さ約5cmで浅い状態である。西壁付近の床は擾乱を受けており、覆上中にも擾乱が多く確認された。また、北壁の調査区壁付近も擾乱を受けている。東北部分には東西長1m、南北長1.52m、深さ約13cmの浅い落ち込みを検出した。床面は他にも周溝付近に凹凸がある。灰釉陶器甕(121)は体部下端にヘラケズりが見られることから黒窯90号窯の製品の可能性がある。

13号竪穴住居跡（図版5・10・20・29・36・39・40）

Z9グリッドに位置する。主軸方向はN1°E、南北長3.8m、東北長3.88m、底面高26.6～26.65m、深さ14～28cmである。竪は北壁中央に検出されたが、主柱穴はなく、周溝はごく浅く全周している。4号掘立柱建物の柱穴であるP165と重複するが新旧関係は確認することが出来なかった。浅い床下土坑が検出され、床面はやや凹凸がある。住居北側では5号溝を切っている。

遺物は住居跡内に点在している。土師器甕(122～125)のうち器形が分かる122・123は椀状である。上師器皿は高台が欠損するものを含め3点(127～129)・土師器鉢(126)・砥石(131)が出上している。須恵器甕(130)は胎土Aで体部外面に擬格子状の叩きが施され、体部外面に大きく「院」と墨書きされる。同じく高台付皿(127)底部外面・土師器皿(128)休部外面に「院」と墨書きされている。また、上師器甕(123)は外面に焼が多量に付着しているため、すべては観測できていないが、休部外面に横位で「佛御門」と墨書きされている。新治産須恵器甕や土師器高台付皿が出土したこと、上師器甕の器形的特徴から9世紀中～後期と推定される。

14号竪穴住居跡（図版6・10・20・21・29・36）

Z7グリッドに位置する。主軸方向はN4°E、南北長3.2m、東北長3.92m、底面高26.6～26.66m、深さ16～32cmである。住居跡のほぼ中央を南北に中世の3号溝が貫いており、竪も北壁東隅寄りに僅かに痕跡が見出せるのみである。竪のすぐ南にもP159が掘削されている。西半にはごく浅い周溝が廻っているが、主柱穴は検出されなかった。壁の立上がりは比較的緩やかである。床面は凹凸が比較的多い。東南の床下には南北長1m、東西長0.94m、深さ13cmの床下土坑が検出された。覆土は黒褐色土にロームブロックが多く混入し、焼土粒を少量含む。遺物は3号溝による削平のためか深度の深い土坑に集中して残存している。土坑内から上師器皿縦型甕(132)・土師器高台付皿(140)・土師器鉢(142)・須恵器高台付皿(143)・灰釉陶器耳皿(144)が出土している。132は口唇部の摘み上げや胴部の張りがやや弱い。143は精良な胎土で堅緻な焼成であり、胎土Cと推定される。底部内面に赤色顔料が付着しており、朱墨の可能性がある。144は高台部分と耳唇折内部が無釉で、刷毛塗りで施釉がなされ、黒窯90号窯の製品と見られる。住居の時期は9世紀中～後期と考えられる。

15号竪穴住居跡（図版6・11・21・22・29・36・37・40）

Z8グリッドに位置する。西部が調査区外となるが、完存する南北長は5m、東西の残存長は3.2m、底面高26.6m、深さ約40cmである。竪は2基あり、東壁中央より南の竪Aを主軸とすると方向はN90°E、北壁中央と推定される竪Bを主軸とすると方向はN0°Eとなる。竪Aは煙道部を3号溝に切られている。竪Bの東

隣には竈が付設された痕跡が残っていた。主柱穴は検出されなかったが、周溝は幅28cm、深さ5~10cmほどで明確に全周している。住居跡中央、調査区西壁付近には長軸約40cm、深さ10cmほどの長円形のピットが見られ、南壁の竈Bに対面する位置には長軸32cm、短軸28cm、深さ約40cmのピットが検出された。それをお除けば比較的平滑な床面で、貼床が施されていた。

遺物は他の住居と比べ多く、特殊な遺物としては仏鉢(174~176・185)、土師器では火舎脚部(172)・灯明皿(163)・高环(173)・須恵器表転用鏡(180)・灰釉陶器瓶(186)、嚴治開運遺物である須恵器环転用掛錠(183・184)・金床石(191)・金属製品の鋳造鋳型と思われる破片(187~189)が出土した。墨書き土器は土師器环(153)底部外面に「匁(家)」、土師器环(157)・高台付皿(169)の体部外面に横位に「寺」と記された土器が出土した。土師器高台付皿が出土するが、土師器高台付环の体部下端に稜が見られるものがあり、須恵器が他と比較して多く共存する。このことから住居の時期は9世紀中~後期と考えられる。

16号堅穴住居跡（図版5・11・30）

Z10グリッドに位置する。ほとんどが調査区外であるため詳細は不明だが、主軸方向はN10°Wとする。南北隅は攤乱に削平される。残存規模は南北長2.52m、東西長0.96m、底面高26.53m、深さ44cmである。平成17年度調査のSI11と同一遺構の可能性があるがどちらも遺存状態が良くないため、不明である。

1号掘立柱建物（図版5・11・30）

Y・Z11に位置する。主軸方向はN90°Eで、2間×3間の東西棟の側柱建物である。桁行の柱間は心々で1.48~1.62m、梁行の柱間は1.80~1.86mである。柱穴規模は長軸80~88cmの円形あるいは方形の掘方で底面高は26.22~26.72m、深さ34~44cmである。柱痕はP1を除きすべてに見られ、直径20cm前後である。P3・9・10では柱痕が太いが、柱を抜き取った痕跡の可能性もある。上層は人為堆積の状態であったが、版築が行われたかは不明である。すべての柱穴で柱の当たりが確認された。P6・8・9からは土師器の細片が出土している。

2号a・b掘立柱建物（図版5・12・24・30・38）

X・Y11グリッドに位置する。主軸方向はN2°Wで、2×3間の南北棟の側柱建物である。桁行の柱間は心々で1.48~1.80m、梁行の柱間は1.50~1.74mである。柱痕を2本持つ柱穴があり、土層の堆積状況から、南側に2号a建物を建てた後、北に40cmほど離れた位置に2号b建物を建て替えたものと考えられる。2号b建物の柱はいずれも先にあった柱穴の北壁に柱を寄せかけるようにして建築している。このため柱穴の規模は長軸0.72~1mの円形あるいは方形をなすが、不規形を呈するものもある。底面高26.4~26.2m、深さ約30~50cmである。掲載遺物は土師器环(221)で底部外面に焼成後の刻書があるが、内容は不明である。

3号掘立柱建物（図版5・12・30・31）

Z9・10グリッドに位置する。西端は調査区外となり、建物規模は不明である。しかし1・2号建物が桁行と梁行の柱間とでは梁行の方が長いこと、2×3間の規模であることから、本遺構も南北軸を梁行とした東西棟の建物であると考えられる。このため主軸方向はN89°E、梁行2間の柱間は心々で1.86~2.10m、桁行は残存する部分で2間となり、柱間は1.62~1.80mである。柱穴は長軸0.72~1mの圓形あるいは略円形で、底面高26.5~26.28m、深さ40~60mとなる。柱痕は3本に検出され、柱の当たりはすべての柱

穴で確認できた。P3 からは上師器の細片が出土している。

4号掘立柱建物（図版 5・13）

Z9 グリッドに位置する。P160・165・166・167 が検出されたが、それ以外は調査区外となり、建物規模は不明である。3号建物同様、東西棟とするならば、主軸方向は N89° E、梁行 2 間、残存する桁行 1 間で、柱間はすべて 2m となる。長軸 1m 前後の略円形あるいは方形の柱穴で、底面高 26.3 ~ 26.48m、深さ 40 ~ 50cm 前後となる。柱痕や柱の当たりが明確な柱穴は見られなかった。P165 については SI13 と切り合っているが、その新旧関係については不明である。

1号井戸（図版 3・13・23・24・32・37・40）

L10 グリッドに位置する。直径 1.6m の円形で、底面高 24.76m、深さ 1.92m 以上になるため完掘していない。深さ 1m の位置で幅 20 ~ 30cm の中場を持ち、そこから底部に向かい狭くなっていく。土層は自然堆積をなす。新治産須恵器壺 (216)・体部外面下端に墨書きされた土師器壺 (215) など 5 点を掲載した。

2号井戸（図版 3・13・24・37・38）

Q11 グリッドに位置する。長軸長 2.28m、短軸長 0.96m の円形と推定されるが、南半が調査区外であり不明である。底面高 25.5m、深さ 1.7m 以上となるため、完掘していない。断面形は漏斗状であるが、深さ 1m の位置で膨らみを持つ。土層は自然堆積の状況を示す。最下層から新治産須恵器壺 (220) が出土している。

4号溝（図版 5・13・23・31・37・40）

X11・12 グリッドに位置する。長 7.2m、幅 1.28 ~ 2.08m。走行方向は NO° E である。北は底面に凹凸がある。中程に長径 76cm、短径 44cm、深さ 40cm のピットが検出されたが、溝に伴わない可能性が高い。出土遺物については、上師器壺 (209・210) はやや内壁するが体部と底部の境が明瞭な稜を持つ。須恵器壺 (211) は胎土 D に分類され、内面に磨痕があり転用範の可能性がある。また、火舎の脚部と見られるもの (213) も溝底面より出土している。本遺構の南端は平成 17 年度調査の SD04 に接続し、SD04 からは火舎の脚部が出土している。遺構は 9 世紀後半に属すると考えられる。

5号溝（図版 5・10）

Z9 グリッドに位置する。13号住居跡に削平されているため推定の規模となるが、長 7m、幅 0.52 ~ 0.8m、走行方向は N3° W である。底面高 26.81m、深さ 12cm と浅く、断面形は弧状である。東西端が調査区外に伸び、東側は隣接調査区の不整形な落ち込みに続くが詳細は不明である。遺物は出土していないが、13号住居跡に切られるため、古代の遺構である可能性が高い。

20号土坑（図版 2・14・24・25・32・38）

H10 グリッドに位置する。長軸長 2.76m、短軸長 1.6m、底面高 25.64m、深さ 90cm と大型で橢円形の土坑である。覆土は 13 層に及び、自然堆積をなす。掲載遺物は概ね上層と 7 層までの出土である。上端の下に緩やかな段があり底面の周縁は膨らみを持つ。上師器壺のうち 229・230 は常縦型、231・232 は小形壺である。口唇部の摘み上げは弱く、229 は胴部の張りが少ない。須恵器壺は 240 が下層に、241 が 5 層に含まれる。また、

掲載していないが上層に土師器底底部片で回転糸切りの遺物が含まれるため、遺構は9世紀後半～10世紀前半に属すると考えられる。237・238は体部外面にヘラ記号を記すが焼成後の記入と見られる。242は石製紡錘車で3層からの出土である。

第4節 中近世

1号溝（図版2・7・22・31・37）

C9・10、D9に位置する。走行方向はN10°Eである。遺物が鉄滓1点のみのため時期が不明である。しかしII層上面から掘削された遺構であるため、中世以降の溝と想定される。

3号溝（図版6・13・22・23・31・37）

Z5～9、a5～9グリッドに位置する。14号住居跡、6・7・10号溝、42号土坑と重複するが、14号住居跡の方が古いということしか確認されていない。平面形は「コ」字状を呈するが南北端は東に延伸し、平成17年度調査区のSD07・08と接続する。走行方向は南北溝がN0°Eで長32.8m、幅2.48～2.88m、北は東西溝で走行方向N90°E、長5.6m、幅2.48～2.72m、南は東西長2.6m、幅2.4mが検出された。断面形状は薬研状で、深度は0.75～1.29mとなり、底面高は北東端で26.1mであるが南に向かうに従い浅くなる。南北溝の中間あたりには長1.72m、幅0.8m、深さ約1mで一段掘り込んだ部分が見られる。土層断面の観察によれば、その土層(13・14層)はそれより上の層とは堆積状況が異なる。最下層の14層では黄白色粘質土と鉄分を多量に含んだ黒褐色土が縦まりのない薄い瓦層を有しており、その上の13層も同様の堆積であるが鉄分の含有はやや少ない。また上層の土圧のため下方へ褶曲し、14層よりは縦まりを持つ。平成17年度調査では、接続するSD07・08について上層の①～⑥層に関して人為填土としているが、3号溝の対応する土層についても人為堆積と考えられる。この掘り込みから南下すると底面高は下がりはじめ、南のコーナー部分で緩やかな段を有して約30cm低くなる。南北溝中央部の掘り込みがどのような意味を持つものかは不明であるが、区画溝の何らかの施設を有していた可能性も想定される。内耳鍋(193～196)・土師質小皿(197～199)・常滑焼甕(200)が出土しているが、200が15世紀代に遡るが、他は16世紀代に所属する。海老ヶ島城と並行する時期の溝と考えられる。県調査区でもほぼ並行する時期の溝が検出された。この他羽口(204・205)・楕形滓(206)・金床石(207)・五輪塔の一部(208)が出土した。また古代の平瓦(203)や下層には土師器甕(202)も含まれる。

8号溝（図版13）

Y12グリッドに位置する。走行方向はN7°Eである。長3.4m、幅0.76～1.12m、深さ約11cm、底面高26.75mである。南端は隣接調査区のSD05に接続する。SD05の時期は近世とされている。

第5節 時期不明遺構

2号溝（図版2・13・31）

E9・10グリッドに位置する。走行方向はN21°Eである。長7.2m、幅0.44～0.68m、深さ約20cm、底面高26.42mである。調査区を横断している。底面は凹凸が多く平滑ではない。13号土坑・P21に切られる。P38と重複するが新旧関係は不明である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

6号溝（図版6・13・32）

Z7・a7グリッドに位置する。走行方向はN87°Eである。長7.04m、幅0.52～0.84m、深さ0.43m、底面高26.58～26.73mで調査区を東西に横断する。3号溝とも直交するが、新旧関係は不明である。平成17年度調査区にはこれに接続するやや不整形な落ち込みが確認されるが、詳細は不明である。遺物が出土していないため時期は不明である。

7号溝（図版6・13・32）

Z5グリッドに位置する。走行方向はS87°Eである。東西方向の溝で長1.52m、幅0.56～0.68mで東端は3号溝と切合うが、新旧関係は不明である。底面高26.94m、深さ9cmとごく浅く、遺物も出土しなかったため時期は不明である。

10号溝（図版6・13）

Z5・6グリッドに位置する。走行方向はN87°Eである。東西方向の溝で長1.4m、幅0.96～1.04mで東端は3号溝と切合うが、新旧関係は不明である。底面高26.8m、深さ23cmと浅く、遺物も出土しなかったため時期は不明である。

第6節 繩文・弥生時代の遺物（図版24）

本遺跡において検出された縩文・弥生式土器は、17片である。このうち3片が住居跡及び土坑からの出土であるが、遺構に伴うものではない。平成17年度に行われた同遺跡の調査では、壙之内1式の埋甕が検出されているものの今回では遺構の検出はなかった。

出土した遺物は細片3点を除く14点について掲載した。

・縩文時代早期

252は縦方向に粗い撚糸文を施文するもので縩文早期前半撚糸文系の土器と判断される。口縁部を欠損するために明瞭ではないが、撚糸の施文状況より夏島段階の可能性がある。

・縩文時代前期

253は筋骨文を意識する文様が並行沈線により描かれるもので、地紋はない。胎土中に微量ながら纖維の混入が見られることより、縩文前期後半浮島1式土器と判断される。

・縩文時代中期

254～257は無節しの縩文にZ字状の結節文を横方向に施文するもので254では口縁部付近の破片であろうか折り返しが見られる。以上の特徴より、本遺物は中期初頭下野式段階の遺物と判断される。258は縦方向の沈線に沿ってLRの縩文を縦方向に施文するもので、胎土中には雲母の混入が見られる。中期前半五領ヶ台式土器と判断される。259は円筒状の工具による纖細な角押文列が描かれ角押列の間に交互刺突が加えられ、腹部下半には粗いLRの縩が施文される。縩文が施文される点より、五領ヶ台式土器の新しい段階と判断される。260は小形の壺状の把手を有する口縁部の破片である。口縁直下には断面V字形でY字状の隆帯が貼付される。雲母を多量に混入しており阿玉台1B式土器と判断される。261は胴部の破片である。縦方向に粗い沈線を描いているが、保かに角押文の痕跡が観察され、胎土中に雲母を混入することより阿玉台式土器と判断した。

・縩文時代後期

262は太い沈線により曲線状の区画を設け内部にLRの縩文を充填し、区画外は磨り消している。加曾利E4

段階から称妙寺式に移行する段階の遺物であろう。中期最終末の可能性もあるが、ここでは後期の資料として取り扱った。263は屈曲する脣部の破片である。沈線による曲線状の区画が描かれ、内部に刺突が加わる。称妙寺2式段階の資料である。264は口縁部の破片である。やや外反して開く口縁で、口縁部直下に太い沈線が1条巡る。堀之内1式土器と判断した。

・弥生時代後期

265は傳手の土器で器面には附加条第1種の縄文が施文される。同様の土器は縄文土器にも見られるが傳手であり、弥生式土器と判断される。上稲吉段階の弥生式土器の可能性を考えている。

以上縄文・弥生式土器について概観したが2006年の調査において報告でも縄文前期末の十三善掘と堀之内式が報告されており今回の調査によって得られた資料とは縄文ではないものと判断される。

石器は4点について提示した。何れも遺構覆土中からの出土であるが、遺構に伴うものではない。石材についても4点共に異なっている。266は剥片、267・269は使用痕のある剥片、268は石核である。以下各石器について詳細な観察を行う。

266はメノウの縦長剥片である。打点は表皮部分で、裏面と表面の剥離方向が逆転している。表側は表皮を残している。

267は灰褐色を呈する珪質頁岩の横長剥片である。外側縁に細かな剥離痕が認められ、使用痕と判断される。剥離は下端部で背面側にのみ観察される事から、搔扒的な用い方を行っている。

268はチャートの石核である。表皮は観察されないことより大形の原石が選択されているものと判断される。剥離は多方向より行われるもので、剥片は比較的小形の物が剥がされている。石器の製作を目的とする石核の可能性が高い。

269は黒曜石の縦長剥片である。左側縁の背面側にのみ細かな剥離痕が見られ、267同様搔扒的な使用が行われている。黒曜石中には多量の気泡(星)が混入される。

以上4点の石器について観察したが、その特徴より縄文時代の資料と判断される。

第3章　まとめ

第1節 6号住居跡出土滑石製模造品について

本遺跡で検出された住居の内、6号住居のみが占墳時代中期末葉の住居であった。他は平安時代の住居で、周辺においても該期の遺構は検出されておらず、特異な状況である。調査範囲が道路の路線内という限られた範囲であったために、周辺の状況は明白ではないが、これまでに行われてきた炭焼戸東遺跡では初見である。

6号住居跡は火災を受けている為によるものであろうか、遺物量も豊富である。この中で特に滑石製模造品の出土が特筆される。滑石製品は住居跡北西部を中心にしており、住居北部中央にはやや人形の砂岩製の砥石(14)も出土している。滑石製模造品工房にかかる資料としては、原石、荒削、研磨段階の各資料が少量ながら出土した。これらのことから、本住居内において滑石製模造品の剣と有孔円板の製作が行われていたことが判明している。下総玉造遺跡に見られるような工作用ピットの検出はなかったが、山上遺物から特に剣形模造品の製作に関する若干の工程が追えた。

・1段階(15～18)

原石は拳大ほどのものを持ち込んでおり、表皮を残す原石も見られる。露頭より大まかに割り取られて搬入されたものであろう。

・2段階(19～22)

15・16の原石に鑿状の金属によると思われる刃物の傷が平行な条として残されている。同様の傷は荒削り段階の資料18にも見られ、原石から荒削り至る工程が鑿状の、先端がやや平坦な刃物によることが観察される。木遺構では円板の未製品を検出できていない為に、断定できないが、荒削りが終了した段階で、破片の形状から円板と剣形に選別されるものと判断される。

・3段階(27～30)

資料27では荒削りした破片の側面に鏡を作るために斜め方向に研磨を開始していることが観察される。木遺跡検出の剣形品の特徴は、中央に明瞭な鈎を有する点である。他の遺跡における円板や白玉の製作工程では、板状に薄く研磨したものを鑿状の工具で刻んで形を成形するが、このことは、有孔円板と剣形模造品の作製工程が明らかに異なり、剣形模造品の欠損品からは円板や白玉の製作転換は行われなかったものと判断される。

・4段階(31～45)

研磨を全体に施した後に、片面側より金属と思われるドリルにより穿孔が行われる。完成品である剣形品は35・37・38・40では片面のみの鈎となり裏面は平坦に研磨されているが、他の31～34・36では両面に鏡が作られている。

木遺跡における滑石製模造品は、剣形品の形状を見ても又、伴った土器から判断しても初期的段階、古墳中期後半の模造品と判断される。同様のことは有孔円板にも言えるもので、通常孔は対峙した位置に2孔穿たれたものが古墳後期の資料としては一般的であるが、木遺跡の円板には中心部分に1孔のみ穿たれており、やはり古墳後期初頭段階の形状とは異なるものとなっている。地域的な特色であるのか、周辺の資料が不足している為に明瞭ではないが、ここでは時間差による型式の変化としてとらえたい。

第2節 墨書・刻書土器(図版39・40)

本遺跡出土の文字資料は3分類される。

①「院」「寺」「□(家)」という場所を示す墨書である。「院」は平成17年度調査では15点出土し、SI01出土のものを除いてすべて外面へ記される。墨痕が明瞭に観察できる資料について字体を分類すると図5のようになる。A類はウ冠を比較的丁寧に記し、全体的にも崩れがあまりない。B類はウ冠がやや崩れ、ウ冠の右下に墨点を記す。C類は「P」扁も難な印象となり、旁部分をすべて崩す状態である。しかし、SD01-70ではA・C類が一つの上器に記されていることから三者に時間差があるとは考えにくい。古代の字体を載せる『五體字類』にはこのような字体は見られないが、他遺跡の墨書土器に見出せる(図5)。「院」には建物・施設の意があるため、単独で用いられる例は少なく、方角や建物名と組み合わせることが多く、「南院」(群馬県・戸神調査遺跡)、「講院」(栃木県・下野国分寺)などの例が挙げられる。本遺跡で「院」「寺」「□(家)」に施設を特定する修飾語を冠していない理由は不明である。墨書の目的については、物品管理のためと推測されるが詳細は不明である。

②10号住十師器环(114)の墨書「万財」は「万富」「万加」などと同様の吉祥句の用法と見られる。「財」の字体は扁の「ハ」部分が省略されるが、このような例は『五體字類』に見られる(図6)。

③ヘラ記号「×」や4号溝の須恵器环(212)の墨書「米」などは記号と見られるが詳細は不明である。

「院」は官衙の施設名にも用いられるが、「院」銘墨書土器が出土した13号住では「佛御」の墨書がされた土師器环が共存し、15号住からは「寺」銘墨書土器が出土している。また、仏教関連遺物と評価される仏

鉢・火舎・宮都の編年における遺物とされる須恵器が出土しており【考古学から古代を考える会 2000】、「院」墨書き土器が寺院に関わる資料であることを示唆している。しかし、県内の国分寺や郡寺とされる遺跡からは、基壇や礎石、瓦などが検出されているのに対し、本遺跡では 3 号溝から平瓦片が 1 点出土したのみである。これらの点から本遺跡の場合、村落内寺院のような小規模なものと考えられる。



第 5 図 「院」の字体の分類 (○で囲んだ数字は平成 17 年度調査遺物の報告 No.)

第 3 節 各時期の遺跡の性格について

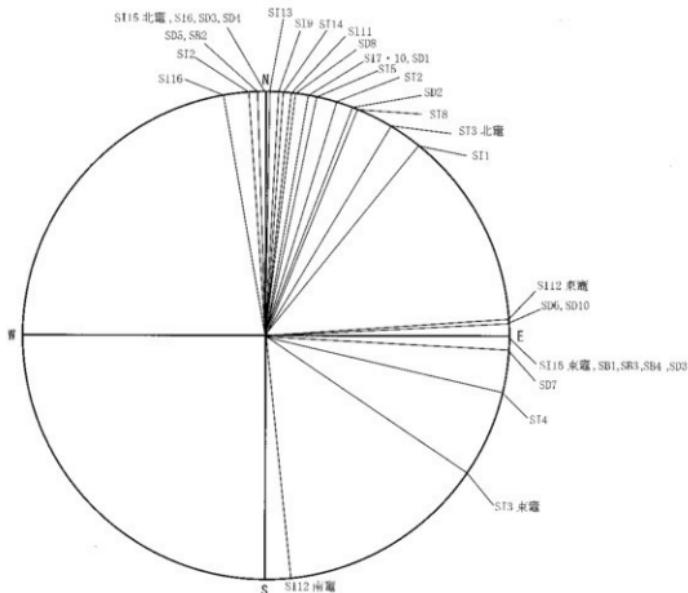
古代の遺構は、主軸方向から I ~ III 期に区分できる (図 7)。

掘立柱建物は東区にのみ検出された。4 棟のうち 2 号掘立柱建物のみが東西棟である。4 棟はすべて方位を概ね座標北に合わせており、棟を描いた配置が行われているが、南の 1・2 号建物の方は柱間が短い。2 号建物の南に位置する平成 17 年度調査の SB05 は主軸方向が N0° E と同じ南北棟であり、柱穴規模なども類似し、本調査区の 2 号建物と棟を描えている。おそらくは同時期の建物群と考えられる。また、掘立柱建物群の東にも SB06 が主軸方向 N90° E で検出されており、方向を同じくする。ただ SB06 の西脇に南北方向に柵列が検出されているため、西の建物群との区画界などの可能性も考えられる。一方、約 24m 南では平成 17 年度調査 I 区で区画溝に囲まれた SB01 ~ 04 が検出されているが、北方の建物群よりも主軸方向が 15 ~ 20° 東に振れる。また、柱穴の規模や形態についても SB05・06 とは異なることが報告されており、北方の建物群との時期差あるいは性格の相違などが考えられる。区画溝の発達時期について 9 世紀中葉との報告がされ、「院」「寺」などの墨書き土器が区画溝や SI01 から出土しているとされる。本調査区では「院」墨書き土器は 3 点すべてが 13 号竪穴住居跡から出土しているが、字体や墨書き位置・土器の年代などの共通性から同時期の遺構の可能性が高い。4 号掘立柱建物は重複する 13 号住居との新旧関係が不明であるが、1 ~ 3 号掘立柱建物と方位を描えているため、それと前後する時期で関連のある施設と推測される。また 4・5 号溝はこれら建物群を区画する溝の可能性が考えられる。

竪穴住居跡については、7・10 号住が 8 号住に切られ、遺物も他と比較しやや早い段階、9 世紀前~中期と判断されたため、I 期とした。平成 17 年度調査の成果に基づき 13 号住を 9 世紀中葉とすると、主軸方向を同じくする 2・5・8・9・11・13 ~ 15 号住も同時期と想定される。但し、15 号住については北竈と東竈があり、茨城県内の竈の設置方位が 10 世紀に入る前後で北から東に変わる傾向が指摘されているので [茨城県立歴史館 1995]、北竈を II 期、東竈を III 期と考えたい。出土遺物については II 期の遺物も入るもの、住居廃絶前の東竈段階の遺物が主体と考え、9 世紀後半の遺物と判断した。同様に 12 号住も東竈になるため同時期

と推定したが、南西側にも竈を持つため、竈の新旧関係は不明である。1・3・4号住は主軸方位が他とは異なり、位置も調査区の西端と離れているが、時期差があまり見られないため、西方に別の集落が展開すると推測される。古代の集落のピークは二期（9世紀中～後期）であり、掘立柱建物も2号b・4号建物以外はこの時期に属し、南方の掘立柱建物群もこの時期である。仏教関連遺物の存在から村落内寺院の可能性について言及したが、平成17年度調査でも南方建物群について仏教関連施設の可能性を指摘している。また、寺院遺跡周辺での鍛冶関連遺物の出土例は報告されているが、本遺跡でも輪羽口や椀形鋤など鍛冶関連の遺物が出土した。しかし茨城県教育財団鍛冶工房などの遺構や痕跡を伴わないので、現段階では村落内の小鍛治的な規模を想定している。

中世の遺構については、他の調査区で主に溝を検出している。特に平成17年度に本調査区の北方で茨城県教育財団による調査が行われた際には、同時期の遺構がまとまって検出されている。方形あるいは隅丸方形に廻る溝により区画された内側に、掘立柱建物が建ち並ぶ屋敷地跡は、15世紀後半～17世紀前半に及び、I～IV期の変遷が指摘されている。本調査区では3号溝が16世紀を主体としており、県調査のⅡ・Ⅲ期に当たる。溝の方位や掘削方向も矛盾がなく、同一集落であったことが窺える。海老ヶ島城の機能した時期ではあるが、今回検出された遺構が溝1条のみであり、遺物も少量であったため城との関係は不明である。近世になると本遺跡は畠地となったことが絵図（図2）より看取され、遺構・遺物とも希薄となる。



第7図 遺構の主軸方位

『引用・参考文献』

- 赤井博之 1997 「律令制変質期の須恵器の系譜」 古代生産史研究会『'97シンポジウム 東国の須恵器』
- 市川市教育委員会 1996 『平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告 市川市出土遺物の分析—古代の鉄・土器について』
- 茨城県教育財団 2008 『菰冠北遺跡・炭焼戸東遺跡』 第295集
- 茨城県考古学協会 2005 『古代地方官衙周辺における集落の様相-常陸國河内郡を中心として-』 茨城県考古学協会シンポジウム資料
- 尾崎喜左雄・今井新治・松島栄治 1968 『石田川 一石田川遺跡調査報告書一』
- 川津法伸 1996 「窓の脇に棚を持つ住居について」『研究ノート』6号 (財)茨城県教育財団
- 山武考古学研究所 1992 『免の内台遺跡』 芳賀町文化財報告第15集
- 茨城県立歴史館 1995 『茨城県史料—考古資料編 奈良・平安時代』
- 考古学から古代を考える会 2000 『古代仏教系遺物集成・関東』
- 筑西市教育委員会 2006 『筑西市埋蔵文化財調査報告書第2集炭焼戸東遺跡—県営ほ場整備事業(経営体)松原地区関連遺跡発掘調査報告書1—』
- 同 2006 『筑西市埋蔵文化財調査報告書第3集海老ヶ島城跡—県営ほ場整備事業(経営体)松原地区関連遺跡発掘調査報告書2—』
- 同 2007 『筑西市埋蔵文化財調査報告書第4集炭焼戸東遺跡 一つぼ明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書1—』
- 同 2008 『筑西市埋蔵文化財調査報告書第5集炭焼戸東遺跡 一つぼ明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書2—』
- 中野晴久 1994 「知多半島(常滑)窯の編年」 第2回中部都市研究会シンポジウム発表資料
- 奈良文化財研究所 2003 『古代の官衙遺跡 I 遺構編』
- 同 2004 『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺構編』
- 明治大学 木村壁研究室 1986 『明野町の村絵図』 明野町史資料第十二集

表2 土坑計測表

No.	タリヤ	平面形	筋面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	底面高(m)	切合関係	備考
1	B9	円形	弧状	0.94	0.90	0.15	26.33		レンズ堆積
2	B9	(円形)	(弧状)	0.88	(0.50)	0.15	26.36	<1件	レンズ堆積
3	C9	長方形	弧状	1.68	1.22	0.14	26.38		レンズ堆積
4	C9	円形	弧状	64.00	56.00	0.22	26.38		レンズ堆積
6	C9	円形	半円状	0.72	0.68	0.24	26.30		レンズ堆積
7	C9	円形	弧状	0.88	0.86	0.20	26.60		レンズ堆積
8	C9	円形	弧状の中端に ピット状の下端を持つ	0.80	0.80	0.42	26.13		
9	C9	円形	半円状	0.61	0.60	0.21	26.37		レンズ堆積
10	D9	—	—	1.04	(3.32)	(0.18)	26.62	<1溝	
11	D9	円形	弧状	0.88	0.72	0.07	26.54		レンズ堆積
12	D10	円形	—	1.56	1.38	0.07	26.56	>P55	
13	E9+10	円形	半円状	0.84	0.80	0.26	26.36	>2溝	水平堆積・柱痕あり
14	E9	(円形)	箱状	1.62	1.44	0.30	26.22		レンズ堆積、一部調査区外
15	E9, F9+10	(円形)	弧状	1.56	1.44	0.25	26.26	<16上杭	レンズ堆積
16	E9+10, F9+10	円形	弧状	0.88	0.72	0.16	26.44	>15土坑	單層
17	E10	円形	箱状	0.78	0.70	0.32	26.30		
18	G10	円形	箱状	1.08	0.92	0.17	26.40		水平堆積
19	H10	円形	弧状	1.06	1.02	0.22	26.34		レンズ堆積
20	H10	不整縁円形	台形状で 部中端あり	2.56	1.64	0.92	25.63		レンズ堆積
21	D10	—	—	0.60	(0.32)	0.09	26.46		大半が調査区外
22	D10	—	—	0.92	(0.50)	0.12	26.45		大半が調査区外
23	H10	横円形	—	0.84	0.46	0.08	26.45		
24	E9	(円形)	—	0.64	(0.32)	0.20	26.35		大半が調査区外
25	S11	円形	不整形	1.00	0.80	0.47	26.41	>S18	
26	Q11	横円形	—	0.72	0.56	0.20	26.75		
27	N10	—	弧状	(0.76)	0.80	0.22	26.71		大半が調査区外
28	O10	(円形)	台形状	0.68	(0.40)	0.18	26.79		1/2以上が調査区外
29	M10	(横円形)	(弧状)	(1.16)	0.66	0.14	26.53		1/2以上が調査区外
31	P+Q11	円形	弧状	1.20	1.16	0.14	26.81		
32	Q11	円形	弧状	1.04	1.00	0.15	26.80		
33	Q11	円形	弧状	1.24	1.20	0.17	26.79		
34	S11	円形	—	1.52	1.32	0.43	26.48		
35	S11	円形	台形状	1.20	1.20	0.43	26.50		
36	U11	横円形	弧状	0.96	0.80	0.14	26.81		
37	U11	横円形	弧状	1.50	1.16	0.21	26.74		
38	U11	円形	弧状	1.28	1.20	0.26	26.69		
41	Z6	不整縁円形	—	1.48	0.88	0.23	26.82		
42	Z6	(横円形)	—	1.44	(0.88)	0.42	26.63	SD3との切合不明	

法量の単位はm³を用いる。施工は最も多く～細部の質量の8倍まで粗かに土を表現する、その他の土を表現するものと用いて。

表4 運物網算表(1)

No.	重神	種類	基盤	口幅・ 厚さ	底幅・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ	底高・ 厚さ				
1	土壌層	裏	裏	17.2	31.6	7.5	2,880.0	底高が高く、平面で裏地で覆うので、裏地を中 心に持ち、口底へいくほど反す。口 底に持つて、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	壁面の形状 壁面の形状	「複数層は板子アザ」。頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザである。P1はナゲテ。	良好	砂利多い、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色
2	土壌層	裏	(11.1)	30.5	6.8	2,269.4	底高が高く、平面で裏地で覆うので、裏地を中 心に持ち、口底へいくほど反す。口 底に持つて、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色		
3	土壌層	裏	(19.3)	—	7.5	2,258.3	底高が高く、平面で裏地で覆うので、裏地を中 心に持ち、口底へいくほど反す。口 底に持つて、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色			
4	上野谷	裏	15.6 <5.1>	—	223.2	口底が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色				
5	土壌層	裏	(19.7) <3.3>	—	106.3	底高が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色				
6	6 2 2 (仕)	裏	—	<4.2>	8.1	229.8	裏地が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色			
7	土壌層	裏	<9.9>	3.2	182.5	裏地が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色				
8	土壌層	裏	16.9	14.7	14.4	675.4	裏地が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色			
9	土壌層	裏	18.3	14.3	14.2	739.4	裏地が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色			
10	上野谷	高付	16.2	14.4	14.6	683.7	裏地が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色			
11	上野谷	高付	16.5	13.7	12.2	638.7	裏地が高く、裏地へいくほど、裏地へ覆 及ぶ。裏地帯が壁面となる。	「複数層は板子アザ」。 頭部前面は「一次構 成」の為斜面で、頭部背面は「二次構 成」の為板子アザ。	良好	砂利多く、長手・短手・小塊多 い。素は少々。	0.07m ³ 以下に於ける 「複数層」の頭部 「複数層」の頭部	色調	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色	褐色			

表5 猿物観察表(2)

No.	遺傳	種類	若種	11頭・ 頭骨・ 骨盤	若種・ 頭骨・ 骨盤	若種の特徴	他の形態	性別・ 年齢	性別・ 年齢	性別	性別	性別	性別	参考
12	土糞	高石	高石	17.0	14.9	14.4	719.0	上端部は下部よりやかに内側へ、U字形及び頭部は内外両面共に瘤状なナード。頭部は幅く、頭部に凹みがある。頭部には細かい、外見しながる、薄く、	頭部多い、白色底了、瘤状多く、	頭好	内面2.317(6頭)	外面517(6頭)	新次郎	
13	上頭部	高石	—	<9.6>	—	214.2	やや膨らみ、有する頭部である。上所頭部は頭部共にナード。頭部内部に瘤状なナード。	上端部及び頭部は外見して瘤状である。上所頭部は頭部共にナード。頭部内部に瘤状なナード。	頭部多く、表面には瘤状な頭部である。上所頭部は頭部共にナード。頭部内部に瘤状なナード。	7.5(8) 4浅茎鈍	頭頂部のみ			砂岩
14	不製品	鷹石	—	—	—	1,388.3	上・下頭部を確認して置いてある。部分的に瘤状が確認される。火災時の痕跡。							砂岩
15	溶石製造品	原石	原石	12.1	8.7	5.4	520.6	塊状の原石。表面には少少の付着が確認される。部分的に瘤状が確認されるが、「下同面」に「この工具による手足の痕跡が確認される。						溶石
16	溶石製造品	原石	原石	11.6	9.7	2.6	372.5	板状の原石。側面は堅硬の工具によくちぎれが確認される。						加工痕及び、 溶石
17	溶石製造品	原石	原石	10.4	7.0	3.86	290.4	堅硬の原石。上面は底面を削り、裏面は打ち削られている。						加工痕及び、 溶石
18	溶石製造品	原石	原石	5.6	2.9	1.3	25.0	やや厚めの板状を示す。上下両面に特によどみから引の筋筋が確認されるものの、形成が角度ではない上部原石と判断した。						加工痕及び、 溶石
19	溶石製造品	丸剣	丸剣	6.3	2.9	1.3	29.5	中間に優しく有する溝及び、刃部を確認して削られた最初の段階と判明した。						溶石
20	溶石製造品	丸剣	丸剣	5.3	2.9	0.65	10.7	薄い底状に打ち込まれたものの、刃部を確認するものである。先端部がやや落葉状である。口上への剥離の位置の可能性がある。						溶石
21	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.6	3.1	0.9	7.5	短範囲の工具使用跡と打ち込まれたものの、鏡面の優美さが確認できる。内面の丸削りは底部の可能性がある。						溶石
22	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.2	2.56	0.5	4.4	短範囲に打ち込まれたものの、刃部を確認するものである。先端及び円弧の場合はやや落葉状である。口上への剥離の位置に鑿行						溶石
23	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.1	2.0	0.8	2.4	短範囲として丸削りを行っている。刃部を確認するものである。						溶石
24	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.1	1.58	0.5	2.4	短範囲として丸削りを行っている。刃部を確認するものである。						溶石
25	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.26	1.7	0.5	3.1	短範囲として丸削りを行ったものの、やり取りよく丸削りとして確認されている。						溶石
26	溶石製造品	丸剣	丸剣	0.9	1.15	0.2	0.3	短範囲で研磨も認められない。丸削りの剥離の位置に鑿行						溶石
27	溶石製造品	丸剣	丸剣	5.1	1.9	0.7	6.4	短範囲として丸削りされたもの、刃部の研磨を確認して剥離しているが、丸削りとして剥離されたものとの判断される。						溶石
28	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.16	2.15	0.5	3.8	短範囲として丸削りされたものの、刃部の研磨を確認して剥離しているが、丸削りとして剥離されたものとの判断される。						溶石
29	溶石製造品	丸剣	丸剣	2.7	1.65	0.8	4.2	短範囲に加工化が施されたものの、削除的ではあるが削除が確認されている。						溶石
30	溶石製造品	丸剣	丸剣	1.65	1.7	0.4	1.4	刃部の剥離が確認できる。上面は優れた丸削りである。下面は丸削りである。刃部は丸削りである。穿孔は上面より行われている。						丸削り
31	溶石製造品	丸剣	丸剣	3.0	1.75	0.65	8.2							丸削り

表6 道物鑑定表(3)

番号	原産地	種類	11種・ 12種 共通	13種・ 14種 共通	細胞の特徴	細胞の特徴	胎土	色調	感覚	備考	
32	渋谷製造場	剣	4.7	1.85	0.65	5.9	網状の網状成形品である。表面は上面の「小」字面倒である。穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.4	
33	渋谷製造場	剣	4.4	1.55	0.6	6.0	網状の網状成形品である。表面は上面の「小」字面倒である。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	3.146.0.15	
34	渋谷製造場	剣	4.55	1.85	0.7	6.5	網状の網状成形品である。表面は上面の「小」字面倒である。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	3.146.0.15	
35	渋谷製造場	剣	4.1	1.4	0.5	3.4	網状の網状成形品である。表面は上面の「小」字面倒である。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.15	
36	渋谷製造場	剣	3.4	1.6	0.4	4.4	網状の網状成形品である。「小」字面倒である。下皿は平盤に開けている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.15	
37	渋谷製造場	剣	3.6	1.2	0.2	2.1	網状の網状成形品である。表面は上面の「小」字面倒である。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.15	
38	号	剣	3.6	1.4	0.35	2.0	合掌の合掌成形品である。上皿は平盤に開けている。穿孔が底盤からある。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.15	
39	仕	渋谷製造場	剣	3.0	1.3	0.35	1.6	網状の網状成形品である。表面は上面に開けている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.15
40	渋谷製造場	有孔口盤	2.8	2.9	0.65	6.8	円盤の円盤成形品である。やや多孔形に近づいた形状が並んで行なわれている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	穿孔は上面に並んで開けられている。	4.146.0.15	
41	渋谷製造場	有孔口盤	2.6	2.6	0.4	6.4	円盤の円盤成形品である。はげ足形である。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	4.146.0.15	
42	渋谷製造場	有孔口盤	2.2	2.3	0.35	2.7	円盤の円盤成形品である。はげ足形。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	4.146.0.15	
43	渋谷製造場	有孔口盤	2.2	1.9	0.35	2.3	円盤の円盤成形品である。はげ足形。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	4.146.0.15	
44	渋谷製造場	有孔口盤	1.75	1.8	0.35	1.9	円盤の円盤成形品である。はげ足形。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	4.146.0.15	
45	鉢	4.0	3.5	3.5	0.4	9.9	円盤状とする。表面に網状の模様が施される。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	4.146.0.15	
46	手工作	坪	(17.2)<2.0>	—	6.6	円盤状とする。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	穿孔は中心部に丸孔の穿孔がある。	4.146.0.15	
47	手作	鍔	(18.4)<3.1>	—	24.5	口縁部を彫み「十」字。	口縁部を彫み「十」字。	内面少々黒。黑色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。黑色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。黑色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	
48	+35器	匙	(20.3)<5.9>	—	14.7	口縁に直しの直角を付つ。口縁はくの内側に外側を拂子。口縁はくの内側に外側を拂子。	口縁に直しの直角を付つ。口縁はくの内側に外側を拂子。口縁はくの内側に外側を拂子。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	
49	土師器	匙	(22.0)<7.2>	—	44.5	口縁はこの字形に外張し、口縁部は圓形である。	口縁はこの字形に外張し、口縁部は圓形である。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	
50	手作	高付坪	—	<2.2>	7.6	高付坪は「手作」に付される。内面無釉。	高付坪は「手作」に付される。内面無釉。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	
51	手作	高付坪	—	<2.4>	16.1	高付坪は「手作」に付される。内面無釉。	高付坪は「手作」に付される。内面無釉。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	内面少々黒。口白色子・口白色子 やや口立つ。蓋無少量。	

No.	地名	種類	形態	口径・ 長さ	底質・ 深さ	鑿出の特徴	地質	土質	被覆	管名
52	2号生	灰岩鷹鳴	皿	(15.0) <1.5>	—	6.3 口部内部灰白色、表面に26匹海星。	良好。	粘土。	1番鉄片	
53	土壤層	要	20.0	<24.4>	(9.8)	98.5 底小孔灰褐色の砂から黒い風化上位に 粘土層、15匹海星。Cの下に外底。C層削除。 開削下トロリ。開削下トロリ。	良好。 2次孔 多く、底質少塵。	良好。 砂質少塵、黑色近似。質に少塵。 スコア痕。	内面7.5R/7.4R 外面7.5R/7.4R 底面下平～底 部1/4	口端一鋼板上 内面7.5R/7.4R 底面下平～底 部1/4
54	土壤層	盤	(34.0)	(20.8)	190.1 底小孔灰褐色の砂から風化上位に 粘土層、外底に26匹海星。	11枚は外壁面アラ。開削内部チ ーク、外側ヘラクズ。端部は山登りされ ている。	良好。	良好。 砂質少塵、黑色近似。質に少塵。 スコア痕。	内面7.8、底面 外側10.6、41.5% 底面	口端7.8、底面 内面7.8、底面 外側10.6、41.5% 底面
55	土壤層	坪	(13.4)	4.2	7.1	81.7 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
56	土壤層	坪	(12.6)	4.1	7.4	74.5 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
57	上部泥	坪	(13.6)	3.95	6.8	41.1 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
58	3号生 在	土壤層	坪	(13.6) <3.7>	—	38.6 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
59	土附層	坪	(13.4)	4.0	6.7	96.3 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
60	土壤層	坪	(12.8)	3.9	8.0	89.5 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
61	土壤層	坪	(13.0)	4.1	6.8	46.5 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
62	1番砂	坪	(13.2)	4.3	(7.7)	93.9 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
63	土壤層	坪	(13.6)	5.3	8.4	77.0 内側は9.1に立つ。器漏れ。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面
64	土壤層	坪	(14.4) <4.1>	—	47.1 底部は平底。全体的に滑らか。	良好。 外側10.5R/7.3R 内面7.5R/7.3R 底面	良好。 底面少塵。	内面10.5R/7.3R 外側10.5R/7.3R 底面	口端一鋼板上 内面10.5R/7.3R 底面	

No.	標柄	種類	長さ	幅×高さ	重量(g)	圓形の特徴	盤形の特徴	底板	塗土	航行	備考
65	土砂砲	高砲付外	<2.8>	8.6 10.7		高台は(へ)の字に付され、底面が斜め。切りの底面台付がされる。	底面は(へ)の字に付され、底面が斜め。切りの底面台付がされる。	底板	内面0.076/3.5cm 黄鉄 外面0.5/TS.4/5cm 地	進歩5/4	内面黒色見事 外面白銀色見事
66	魚雷砲	先	—	—	56.9	外側等部切込、内側等部切込。	内側等部切込、外側等部切込。	内面0.076/1.5cm 黄鉄 外面0.5/TS.4/5cm 地	横前1/4 横後1/4	不明、外側白銀色 付、内面銀色 付。船頭、船尾 付。	
67	火薬砲	裏	—	—	315.0	外側等部切込、内側等部切込、ナ シ。	内側等部切込、外側等部切込。	内面0.077/1.5cm 白 外面0.6/1.5cm 地	底面5/4	湖面付、 内面銀色見事付 。	
68	魚雷砲	裏	—	—	42.8	内側等部切込。	内側等部切込。	内面0.076/1.5cm 黄鉄 外面0.5/TS.4/5cm 地	横前1/4 横後1/4	船頭付	
69	3 号 住	魚雷砲	先	—	—	48.3	外側等部切込、内側等部切込。	内側等部切込。	内面0.076/1.5cm 黄鉄 外面0.5/TS.4/5cm 地	横前1/4 横後1/4	船頭付
70		機械器	機	—	<4.7>	1/2回転等である。	1/2回転等。	内側等部切込。	内面0.076/1.5cm 黄鉄 外面0.5/TS.4/5cm 地	横前1/4 横後1/4	船頭付
71	底脚物	皿	(14.2)	<1.9>	—	10.8 なし。	体部は薄板に開き、11番筋丁番筋を ロクロ巻き。	底脚	内面0.5/2.2cm白 外面0.5/8.4cm白	口桿等片	黒面0.9cm
72	底脚車	蓋保6.7厚0.8 升60.8	24.3	丸21.0	10.7	研磨により、底脚が下へ。 丸21.0	丸21.0	底脚	内面0.5/2.2cm白 外面0.5/8.4cm白	1/2	船頭付、船尾付 (底脚用)
73	土製品	平 ^二	絶1.2	幅1.6 丸1.5 0.5	2.6	所面等部等半分を削る。丸は 中央に付けてい。	所面等部等半分を削る。丸は 指による感触。	底脚	107.6/7.0cm 黄	107.6/7.0cm 黄	107.6/7.0cm 黄
74	十箇品	平 ^二	絶1.0	幅1.6 丸1.6 0.5	4.1	所面等部等半分を削る。丸は 中央に付けてい。	所面等部等半分を削る。丸は 指による感触。	底脚	107.6/8.4cm黄	107.6/8.4cm黄	107.6/8.4cm黄
75	土始箱	裏	(20.0)	<7.0>	—	76.3 11番筋付込み上げ。	内外両口端部は削アラ、側面はア ラ。	底脚等多く且石、石炭やや 少或。	内面0.076/1.5cm 白 外面0.5/TS.4/5cm 地	口桿 — 横前上 — 横後 — 1/4	常見付
76	土始箱	坪	(13.6)	<4.0>	(7.0)	30.6 口縁等で塗り付けてある。	内外両口端部は削アラ、側面はア ラ。	底脚等多く且石、石炭やや 少或。	内面0.076/1.5cm 白 外面0.5/TS.4/5cm 地	117.6/— 117.6/— 1/4	常見付
77	土砂砲	坪	(16.0)	<4.8>	(6.0)	35.2 底部は底板か、体部は底板に内層へ。 底部は底板か、外層へ。	底部は底板か、体部は底板に内層へ。 底部は底板か、外層へ。	底脚等多く且石、石炭やや 少或。	内面0.076/1.5cm 白 外面0.5/TS.4/5cm 地	117.6/— 117.6/— 1/4	常見付
78	土砂砲	坪	(14.2)	<5.0>	—	20.5 底部は底板か、外層へ。	底部は底板か、体部は底板に内層へ。 底部は底板か、外層へ。	底脚等多く且石、石炭やや 少或。	内面0.076/1.5cm 白 外面0.5/TS.4/5cm 地	117.6/— 117.6/— 1/4	常見付

表9 濃物規定表(6)

No.	通欄	種類	形態	口徑・ 高さ	體長・ 幅さ	全長(6) 幅さ	器部の特徴	器部の特徴	施土	施肥量 施肥子(公分母量)	施肥量 施肥子(公分母量)	色調	種子	備考
79	上耕器	高台付型	-	<2.3>	-	75.9	器部は筋状火炎形。体部下端に瘤状に突出する。体部外側 にハサク巻きの瘤状突起がある。底部は平ら。口部は 半円筒～喇叭形。	器部は筋状火炎形。体部下端に瘤状に突出する。体部外側 にハサク巻きの瘤状突起がある。底部は平ら。口部は 半円筒～喇叭形。	良好	内面17.5/16.6/16 外面17.5/17.6/16	内面17.5/16.6/16 外面17.5/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
80	第四型	燒	(27.1)	19.6	13.1	1,050.6	内面真横にて骨部付近が丸子形である。外面部断面半径 内外が半球形である。内面部断面半径 ひびきははねテテス。内面部断面半径 口部ははねテテス。	内面真横にて骨部付近が丸子形である。外面部断面半径 内外が半球形である。内面部断面半径 ひびきははねテテス。内面部断面半径 口部ははねテテス。	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
81	4号 往	燒	[32.0]	[<18.8>]	-	267.1	コ様部外側は圓柱形状で、骨部上端は平 行状。下端ははねテテス。骨部ははねテテス。 内面部はミキナ。	コ様部外側は圓柱形状で、骨部上端は平 行状。下端ははねテテス。骨部ははねテテス。 内面部はミキナ。	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
82	須加器	燒	-	<21.0>	(17.6)	829.2	底面平滑、周縁部周筋に立上筋あり。下端 より骨部には坂本毛が立ち、内部には 当筋有り。	底面平滑、周縁部周筋に立上筋あり。下端 より骨部には坂本毛が立ち、内部には 当筋有り。	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
83	須加器	燒	-	-	124.4	精神性と思われる穴が地頭部間に穿たれ る。	精神性と思われる穴が地頭部間に穿たれ る。	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎	
84	土耕器	燒	(18.2)	<5.8>	-	52.6	筋状やや渦心へし筋 Cの字に近似 し筋 Cの字に近似 し筋 Cの字に近似	筋状やや渦心へし筋 Cの字に近似 し筋 Cの字に近似	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
85	土耕器	燒	-	<13.2>	(10.4)	423.2	進退久燃、休耕部後へは横筋張出 横へ	進退久燃、休耕部後へは横筋張出 横へ	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
86	5号 往	燒	(17.4)	<6.1>	-	30.7	高台は「H」の字に近似され、焼削部は直角 り化される。休耕部後へ	高台は「H」の字に近似され、焼削部は直角 り化される。休耕部後へ	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
87	土耕器	高台付型	11.0	6.8	8.0	161.3	高台は筋状火炎形。休耕部後へは横筋張出 横へ	高台は筋状火炎形。休耕部後へは横筋張出 横へ	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
88	1.5号 往	高台付型	(14.4)	<4.9>	-	61.8	高台は筋状火炎形。休耕部後へは横筋張出 横へ	高台は筋状火炎形。休耕部後へは横筋張出 横へ	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
89	石輪山	燒	燒(4.6)	燒(4.1)	燒(2.6)	31.5	小輪の輪筋であるかの筋溝はくぼんでいい。力筋をもつ。施用部は上下同じ に大きくなっている。	小輪の輪筋であるかの筋溝はくぼんでいい。力筋をもつ。施用部は上下同じ に大きくなっている。	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
90	7号 往	上耕器	[46]	[<4.0>]	-	10.7	高台は筋状火炎形。休耕部後へはやや外反筋張出 横へ	高台は筋状火炎形。休耕部後へはやや外反筋張出 横へ	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎
91	須加器	高台付型	-	<4.1>	-	237.0	のと焼(2.5)	のと焼(2.5)	良好	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	内面16.9/16.6/16.5 外側17.2/17.6/16	口緑～黒紫色 茎	球形	口緑～黒紫色 茎

表10 遺物観察表(7)

土壤試験表(表10-2) 土壌の物理的性質									
試験番号	試験用土	土壤種類	土壤組成	土壤肥沃度	土壤の特徴	測定項目	測定値	測定方法	備考
表面	深度	表面	深度	表面	深度	表面	深度	表面	深度
92	土壌試験用土	重	(18.8)<20.2>	647.8	腐葉物はやや多い。口渴感は弱い。下層は重砂質である。口渴感は特に外層に強く、下層は弱い。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
93	土壌試験用土	重	<8.8>	12.0	表面は重質で底質は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	次良	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
94	土壌試験用土	小半重	12.6	<6.5>	表面は重質で底質は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
95	土壌試験用土	糞	11.0	4.1	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
96	土壌試験用土	JF	(13.4)	3.6	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
97	土壌試験用土	糞	(14.4)<3.4>	—	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
98	土壌試験用土	糞	(17.8)	6.1	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
99	土壌試験用土	JF	<2.4>	—	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
100	土壌試験用土	糞	—	—	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
101	土壌試験用土	糞	15.1	5.9	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
102	土壌試験用土	糞	(01.4)<21.6>	367.2	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
103	土壌試験用土	糞	—	—	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
104	土壌試験用土	糞	(18.0)<8.4>	—	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし
105	土壌試験用土	糞	<24.1>(9.2)	562.3	底質は重質で底層は砂質である。口渴感は弱い。下層は重砂質である。	表面	良好	外曲10TR6/15cm 外面10TR6/15cm 黄褐色	口渴～病害なし

表11 遊歩地帯が表(8)

No.	流域	流域	面積	河床高・ 底高 差	底質 長さ	底質・ 底量(6)	地形の特徴	地形の特徴	地成	土石	汚染	備考	
106	土砂崩	塊	(1.4) <7.9>	-	119.9	野原は広がり、上流部は「く」字に外流し る。下流部は「Y」字に外流される。	口岸部内外流は保テア。頭部以外は はナダ。	野原やや多い。長石・石英や砂 多い。	良好	口壁・断面 半山	中等	常緑帶を有す。	
107	1所谷	小形塊	(1.2) <3.5>	-	18.3	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は四角い「クズ」外 流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利多い。長石・金剛石多 い。	良好	相引礁量。白色粒子・漂母微粒。 外山2.5YR8/4に近い。 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山	
108	1所谷	坪	14.9	5.0	8.6	251.9	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利多い。長石・金剛石多 い。	良好	相引礁量。白色粒子・漂母微粒。 外山2.5YR8/4に近い。 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
9号	土砂崩	坪	(12.6) <3.0>	-	53.0	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母微粒。	良好	小山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山	
109	1所谷	坪	<3.0>	7.0	7.0	72.1	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母微粒。	良好	小山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
110	4所谷	坪	-	<3.0>	7.0	70.1	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母微粒。	良好	小山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
111	十所谷	坪	-	<2.2>	(7.0)	72.1	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母微粒。	良好	小山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
112	土砂崩	細谷付近	1.2.3	2.4	5.4	148.8	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利多い。長石・石英・漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
113	+1所谷	裏	20.2	<21.6>	-	699.6	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
114	+1所谷	坪	13.4	4.3	8.2	156.2	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
115	十所谷	坪	(14.2)	4.3	9.5	114.7	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
116	須走	塊	-	<11.7>	-	309.0	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
117	1号	焼	-	<7.2>	(16.0)	173.8	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底部下層は面積 の「クズ」外流体部下層は特に「クズ」。外 はナダ。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
118	土砂崩	小空巣	-	<2.3>	-	9.0	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山
119	12号住	坪	(17.2)	6.2	(8.0)	42.9	流域は平底。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	ロクリ灘場。底質は底や外層は 砂。内層は泥。小形の塊もある。	砂利少々。漂母多 い。	良好	内山55.5/17根 外山2.5YR8/6根	中等	口壁・断面 半山

表12 植物観察表(9)

No.	学名	種類	被覆	花被 長さ	花被 幅さ	花被 厚さ	花被 重量(g)	花被の形状	花被の特徴	花被 性状	花被 輪数	花被 色調	被覆	備考	
120	12 号 住	土蜘蛛	平	(20.0) <4.1>	—	61.2	11倍又はそれ以上の外反する。入射光の下で、 10倍又はそれ以下の内反する。	クロロ葉形。内面はさわやか。	良好	12月前半。花被子・雌蕊黄色。	平面1.577/2.576 黄緑	平面1.076/2.576 黄緑	口被1.3体節7/5小山黒色毛葉		
121		灰蜘蛛	輪	(17.6) <5.0>	—	36.6	11倍又はそれ以下の内反する。入射光の下で、 10倍又はそれ以下の外反する。入射光の下で、 10倍又はそれ以下の内反する。入射光の下で、 10倍又はそれ以下の外反する。	クロロ葉形。体被毛が下縁に沿って多く、 ケズリが見られる。	良好	1月後半。	平面1.577/2.576 黄緑	平面1.258/2.576 黄緑	平面1.159/2.576 黄緑	口被1.3体節7/5小山黒色毛葉	
122		土蜘蛛	仄	12.9	3.8	7.0	118.4	クロロ葉形。基部が輪形からラグリ形、全体は 底面がやや下側へ傾いていて、側面は直立する。 底面がやや下側へ傾いていて、側面は直立する。 底面がやや下側へ傾いていて、側面は直立する。	良好	植物少量。ゴム子・白根新枝 物質・葉質へや多い。小花被無。	平面1.577/2.576 黄緑	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.17/2.在 山山黒色毛葉		
123		土蜘蛛	紺	12.4	4.2	5.4	95.2	クロロ葉形。底面が輪形からラグリ形、全体は 底面がやや下側へ傾いていて、側面は直立する。 底面がやや下側へ傾いていて、側面は直立する。	良好	植物少量。ゴム子・白根新枝 物質・葉質へや多い。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.17/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉	
124		土蜘蛛	坪	—	<1.4>	(7.2)	42.6	クロロ葉形。体被毛・葉被毛・底面は直立する。 ケズリ形、内面はミガ有り。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉	
125		土蜘蛛	坪	—	<1.75>	6.2	65.7	近縁形は底面が直立する。底面が輪形から直立する。 底面が輪形から直立する。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉	
126	13 号 住	土蜘蛛	糸糸	(20.0) <9.3>	—	149.8	クロロ葉形。体被毛が輪形から内反する。内面は 輪形からラグリ形が混在する。内面は 輪形からラグリ形が混在する。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉		
127		土蜘蛛	高子付糸	13.4	3.2	6.8	175.0	高子付糸への子で行き止り。体被毛は輪形 約1.5倍大。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉	
128		土蜘蛛	直	(13.2) <1.9>	—	29.5	底面大輪。体被毛は直線的に入き止り輪形。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉		
129		土蜘蛛	直	(14.0) <1.9>	—	27.2	底面大輪。体被毛は直線的に入き止り輪形。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉		
130		須毛蟲	垂	(24.0) <10.8>	—	111.2	須毛蟲が輪形から小輪形にひらく。10倍で、 他の半分は圓山黒す。口被は輪形も「だげ」 後にに輪形もあればある。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉		
131		石蠅蟲	丸	6.45	6.1	2.35	110.8	輪形から分離形を呈する。輪形は底面や輪形と 上下両面に使用が認められた。輪形は底面や輪形と 上下両面に使用が認められた。輪形は底面や輪形と	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉	
132	14 号 住	上野忍	丸	(28.9) <19.2>	—	824.2	底面が輪形。輪形は輪形と上下に接つ 輪形は輪形と上下に接つ。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉		
133		土蜘蛛	小形號	(13.0) <3.8>	—	15.8	小形號が輪形から直線形にひらく。10倍で、 他の半分は外反する。輪形は輪形と上下に接つ 輪形は輪形と上下に接つ。	良好	植物少量。葉被毛・カリア少量。	平面1.1/2.在 山山黒色毛葉	平面1.076/2.576 黄緑	部被1.1/2.在 山山黒色毛葉	外 面行葉		

表13 漆物類(点10)

No.	漆物	種類	部屋	形状 11号、 12号、 13号、 14号	直徑 — <4.2> (8.7) 123.4	直形の特徴 外周は厚壁で、内部は 底は立つ。	直形の特徴 外周には木彫があり、面部外周は ヘタツクリ、西面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	色調 内面101/06.3/16~灰 輪船 外面7/27/06/4/15~ 白	焼け 無理下下~灰 輪船 外面7/27/06/4/15~ 白	参考	
134	上油瓶	瓶	—	—	29.6	直筒的に圓く、 直筒的で体部は 内面はナダ。	直筒には木彫があり、面部外周は ヘタツクリ、西面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	直面木彫張	
135	土瓶	瓶	—	<2.6>	(12.0)	直筒的に圓く、 直筒的で体部は 内面はナダ。	直筒には木彫があり、面部外周は ヘタツクリ、西面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	直面木彫張	
136	牛角瓶	瓶	(9.8)	3.0	4.8	33.6	内面の外から、正面は半球形で体部は 直筒的に圓く、 内面はナダ。	直筒的で、面部外周は ヘタツクリ、内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛
137	土瓶	瓶	(14.4)	<3.8>	—	直筒的で、体部は直筒的圓く、 正面は半球形で体部下端は直筒的圓く、 内面はナダ。	直筒的で、面部外周は ヘタツクリ、内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛	
138	土瓶	瓶	—	<2.05><9.1>	16.1	正面は半球形で体部下端は直筒的圓く、 内面はナダ。	直筒的で、面部外周は ヘタツクリ、内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛	
139	1号 高台付瓶	瓶	(19.6)	<5.6>	—	高台付瓶、面部は直筒的圓く、 内面はナダ。	高台付瓶、面部は直筒的圓く、 内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛	
140	1号 高台付瓶	瓶	—	<2.1>	(7.4)	21.6	高台付瓶、面部は直筒的圓く、 内面はナダ。	高台付瓶、面部は直筒的圓く、 内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛
141	1号 高台付瓶	瓶	(18.6)	<9.2>	—	体部は直筒的圓く、 内面はナダ。	体部は直筒的圓く、 内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛	
142	土瓶	瓶	(16.8)	<4.6>	—	体部は直筒的圓く、 内面はナダ。	体部は直筒的圓く、 内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛	
143	漆水瓶	瓶	—	<3.58>	(7.8)	87.7	直筒的で、面部は直筒的圓く、 内面はナダ。	直筒的で、面部は直筒的圓く、 内面はナダ。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛
144	瓦輪水瓶	瓶	(12.5)	<2.4>	5.0	99.7	仕事は水平にして開く、 11面輪水瓶	仕事は水平にして開く、 11面輪水瓶	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛
145	石製品	金石	11.7	9.6	9.2	147.8	直筒的の裏面、輪郭として引合木と押切される。朴質は黄豆青。	直筒的の裏面、輪郭として引合木と押切される。朴質は黄豆青。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛
146	石製品	金石	12.9	11.4	5.0	653.0	直筒的の裏面、輪郭として引合木と押切される。朴質は黄豆青。	直筒的の裏面、輪郭として引合木と押切される。朴質は黄豆青。	丸底 良好	丸底 良好	施土 良好	10YR 7/4に近い黄緑	10YR 7/5	内面黒色刷毛

(cm・g)

表11 遺物観察表(11)

No.	遺物	種類	形態	口径・底径 ・高さ	施釉・ 施色	蓋重(4)	器形の特徴	施釉	色調	焼付	備考	備考
147	14号住	石製品	金運石	7.1	6.6	3.2	172.7	自然面の塊状。頭より下部削り落して、切削した金運石で作成される。材質は花崗岩質。				
148		土器胎	壺	(19.6)	<7.1>	—	93.8	頭部は施釉から口縁はくの字形を呈し、腹部はくの字形を呈する。内面は施釉なし。外縁は施釉なし。口縁部分が少しひびきがある。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。口部施釉なし。	白灰	17.4	口縁・頭部上 部
149		土器胎	壺	(22.8)	<5.7>	—	72.4	頭部は施釉から、口縁はくの字形を呈し、腹部はくの字形を呈する。内面は施釉なし。外縁は施釉なし。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。外縁少量。	白灰	17.4	口縁・頭部上 部
150		土器胎	小形壺	(14.0)	<4.0>	—	18.4	口縁はくの字形である。口縁部は施釉なし。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。	白灰	17.8	口縁・頭部上 部
151		土器胎	壺	—	<4.8>	7.9	191.2	頭部は施釉なし。頭部下端部はやや直角の内面ナデ。内面はナデ。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	14.4	頭部元形
152		土器胎	壺	—	<2.7>	6.0	33.5	底面は平底で、頭部下端部はやや直角の内面ナデ。内面はナデ。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	14.4	頭部元形
153	1.倒湯		J	(13.2)	4.3	8.3	123.6	底面は平底で、頭部下端部は内面ナデ。後腹から外反して開く。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	14.4	頭部元形
154	1.倒湯		J	—	<2.9>	9.2	86.6	底面は平底で、頭部下端部は内面ナデ。直腹部に開く。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	12.5	頭部元形
155		土器胎	坪	(13.0)	4.5	7.5	81.4	底面は平底で、全体部は内側向外の後腹斜傾から外反する。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	17.8	頭部元形
156		土器胎	坪	(12.8)	4.4	(6.5)	47.2	底面は平底で、全体部は内側向外の後腹斜傾から外反する。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	17.8	頭部元形
157		土器胎	J	—	<2.7>	7.4	32.0	底面は平底で全体部下端部は内側向外の後腹斜傾から外反する。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	17.8	頭部元形
158		土器胎	J	(14.0)	<4.8>	—	32.1	底面は平底で全体部下端部は内側向外の後腹斜傾から外反する。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	17.8	頭部元形
159		土器胎	J	(13.5)	4.05	(8.2)	191.7	底面は平底で全体部は内側向外の後腹斜傾から外反する。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	17.8	頭部元形
160		土器胎	坪	—	13.05	8.0	175.8	底面は平底で全体部は内側向外の後腹斜傾から外反する。	内面少量、頭部や底部に施釉なし。口縁部少量。内面ナデ。口縁部ナデ。	白灰	17.8	頭部元形

- 32 -

No. 15 薄物組合形(1.2)

No.	種類	幅面	幅面	11.6 長さ 幅	幅面 長さ 幅	重さ g	表面特徴	形狀の特徴	焼成	施土	焼成	焼成	焼成	
161	土師器	坪	坪	- <3.1>	(8.2) 94.8	11.6 重さ 底面は平底で、体部下端は内側に凹んで、外側は丸み。 底部へ張り出る。表面は内側した部分は鋸歯状。	(クロロ酸化) 外側は丸み。 内側はヘラガラ形。	底面は円筒形～底面削り出し形。具好 多い。エナメル・白色・黑色・丁寧な色や 少々。青色や多め。	少々。青色や多め。	7.576g/6枚 外側7.576g/24枚	7.576g/6枚 外側7.576g/24枚	7.576g/6枚 外側7.576g/6枚	7.576g/6枚 外側7.576g/6枚	
162	土師器	坪	坪	(11.8) <3.7>	-	23.2	底面2半径。体部はやや外反弧度に開 口クロロ酸化。外側表面は下端へ押す形 で内側に上に凹む。外側は丸み。焼成は 柔軟な形状が印象的。手付は「手」。底部は斜 形。底面は手付跡が入る。	良好	形状多い。白色丸み多め。スクリ ップ盤。小付。中付多い。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
163	土師器	灯明皿	灯明皿	10.6	3.2	5.1	底面2半径。体部はやや外反弧度に開 口クロロ酸化。外側表面は下端へ押す形 で内側に上に凹む。外側は丸み。焼成は 柔軟な形状が印象的。手付は「手」。底部は斜 形。底面は手付跡が入る。	良好	形状多い。白色丸み多め。スクリ ップ盤。小付。中付多い。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
164	土師器	坪	坪	(14.0)	94.2	115.3	底面2半径。外側表面は下端へ押す形 で内側に上に凹む。外側は丸み。	良好	白粉飾子・黑色仕上げ。黒粉飾子・ 白色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
165	十酒器	高台付坪	高台付坪	- <4.7>	(8.0)	96.8	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
166	十酒器	高台付坪	高台付坪	- <2.45>	-	21.7	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
167	号付	高台付皿	高台付皿	(14.0) <1.8>	-	32.0	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
168	土師器	高台付皿	高台付皿	(14.0) <1.9>	-	35.6	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
169	十酒器	高台付皿	高台付皿	13.4	4.0	7.0	198.8	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚
170	上酒器	高台付皿	高台付皿	(13.4)	2.55	6.4	98.8	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚
171	土師器	高台付皿	高台付皿	- <2.3>	6.8	61.3	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	
172	土師器	火舟	火舟	5.1	-	<1.65>	85.7	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚
173	十酒器	桶坪	桶坪	-	<3.6>	-	62.0	底面2半径。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。外側表面及び体部下端は直角 な形状。	良好	形状少々。白色粉飾子・黑色仕上げ。 黒粉飾子・黑色仕上げ。	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚	内側65.6g/6枚

No.	遺構	標記	種性	性別・年齢・ 性別・年齢	表面の特徴 （傷跡・斑点・ 裏面）	骨形の特徴 （骨頭部・骨幹部・ 骨端部）	焼成度	施土	色調	灰字	備考
174	上部部	左足	♂成	(18.1) <5.9>	-	43.6	骨頭部が黒ずみ、骨幹部が赤く焼成する。口吻は削り取られている。	コクヨ墨。白色で、断面見たところは少々黒ずみ。	内面0.976/3.5cm、外面10.78cm、高さ5.4cm	口縁～体頂上 底面～外腹	口縁～体頂上 底面～外腹
175	土器部	左足	♂成	(19.0) <5.8>	-	26.9	体形は円錐して筒状で底が平たくなっている。口吻は削り取られている。	コクヨ墨。表面が本体面に沿って凹凸がある。	門面0.576/8cm、高さ10.78cm、幅4.1cm	口縁～体頂上 底面～外腹	口縁～体頂上 底面～外腹
176	土器部	左脚	-	<6.6>	-	38.5	体形は円錐して筒状で底が平たくなっている。口吻は削り取られている。	コクヨ墨。表面が本体面に沿って凹凸がある。	門面0.576/8cm、高さ10.78cm、幅4.1cm	口縁～体頂上 底面～外腹	口縁～体頂上 底面～外腹
177	折れ器	奥	♀成	(33.0) <5.9>	-	93.4	上縁はくびれた外腹と外反し口吻部は瘤み、上上げられる。開閉外腹は瘤み、半開閉する。内腹には下がった底が焼成される。	骨頭部が黒ずみ、表面見たところは少々黒ずみ。	内面0.576/3.5cm、外面0.576/2cm	口縁～体頂上 底面～外腹	口縁～体頂上 底面～外腹
178	折れ器	奥	♀成	(34.0) <8.5>	-	183.6	口縁はくびれた外腹と外反し口吻部は瘤み、上上げられる。口縫は大きめで少しして瘤み、口唇部を上に上げられる。	口縫部が黒ずみ、頭部外腹は平ら真好	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	口縁～体頂上 底面～外腹	口縁～体頂上 底面～外腹
179	折れ器	裏	♀成	(35.6) <3.1>	-	57.5	口縫は大きめで少しして瘤み、口唇部を上に上げられる。	口縫部が黒ずみ、頭部外腹は平ら真好	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	口縁～体頂上 底面～外腹	口縁～体頂上 底面～外腹
180	15号生	折れ器	裏	-	-	193.1	外腹は平行形状で、内腹に相当して直角あり。	骨頭部が黒ずみ、表面見たところは少々黒ずみ。	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	骨頭部～外腹	骨頭部～外腹
181	折れ器	裏	-	<28.1>	-	418.5	口縫はくびれた外腹と外反し口吻部は瘤み、上上げる。体形は円錐で筒状で外反する。	骨頭部が黒ずみ、表面見たところは少々黒ずみ。	内面0.576/2.5cm、外面0.576/4cm	骨頭部～外腹	骨頭部～外腹
182	折れ器	左	♀成	(12.4) 4.75	5.4	79.1	通称は平底で口縫部が瘤み、上上げる。	コクヨ墨。表面は手触りで手触り感がよくわかる。	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	骨頭部～外腹	骨頭部～外腹
183	深皿	右側面	♂成	(14.3) (4.4)	8.0	181.5	通称は平底で口縫部が瘤み、上上げる。	コクヨ墨。表面は手触りで手触り感がよくわかる。	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	骨頭部～外腹	骨頭部～外腹
184	折れ器	右側面	♂成	(13.3) (4.7)	(7.4)	110.4	通称は平底で口縫部が瘤み、上上げる。	コクヨ墨。表面は手触りで手触り感がよくわかる。	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	骨頭部～外腹	骨頭部～外腹
185	深皿	左側面	♂成	(18.1) <4.1>	-	25.3	通称は平底で口縫部が瘤み、上上げる。	コクヨ墨。表面は手触りで手触り感がよくわかる。	内面0.576/1cm、外面0.576/1cm	骨頭部～外腹	骨頭部～外腹

表17 潜物現状表(14)

No.	種類	種類	形態	表面の特徴	形状の特徴	形状の特徴	形状	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	色調	波打	備考	
186	灰褐色樹	灰	- <12.2>	- 67.4	表面より剥離が付けて薄くで解剖でやや淡く外縁等。	クロロ墨形。外側は上平～所縁が立つ。底の方子葉	底色子葉やや厚め、白色子葉子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/3	葉反差	
187	砂質製品	細型か	2.7 5.1	2.3 77.5	砂質の製品である。上面は直角曲で解剖の付着が観察される。底部は直角曲でないが全く直角に直角に切り斜り定常では化している。	クロロ墨形。外側は上平～所縁が立つ。底の方子葉	底色子葉やや厚め、白色子葉子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/3	葉反差	
188	砂質製品	細型か	4.2 4.55	1.9 33.3	砂質の製品である。上面は直角曲で解剖の付着が観察される。底部は直角曲でないが全く直角に直角に切り斜り定常では化している。	クロロ墨形。外側は上平～所縁が立つ。底の方子葉	底色子葉やや厚め、白色子葉子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/3	葉反差	
189	砂質製品	細型	3.7 2.6	1.7 18.7	砂質の製品である。上面は直角曲で解剖の付着が観察される。底部は直角曲でないが全く直角に直角に切り斜り定常では化している。	クロロ墨形。外側は上平～所縁が立つ。底の方子葉	底色子葉やや厚め、白色子葉子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/3	葉反差	
190	土鰐	土鰐	C.5 (1.35)	孔(2.7) 3 2.7	結節形を呈するものと判別されないが、底部は大筋隔する。長軸方向に孔が貫通せず、斜め	白色子葉子葉少子葉子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打		
191	石鰐	金剛石	19.2 16.8	10.9 4.96/0.6	塊状の自然石を用いたりで、表面に斜めはねと横筋が顕著である。	白色子葉子葉少子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打		
192	1号漢	小頭	5.9 3.3	1.96 8.2	粗面の塊。表面には夷状の筋が付着した様で固まっている。	クロロ墨形	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
193	土師質土器	内耳焼か	(39.0) <5.8>	- 86.4	底部には直角曲で解剖の付着が付いて、口部内面に隙を有する。	クロロ墨形	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
194	土師質土器	内耳焼か	(30.0) <6.5>	- 118.8	底部には直角曲で解剖の付着が付いて、口部内面に隙を有する。	クロロ墨形	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
195	土師質土器	内耳焼	- -	- 74.2	口部底面に耳を付けてある。裏側子葉部分	クロロ墨形	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
196	土師質土器	内耳焼	- -	- 83.4	口部底面に耳を付けてある。裏側子葉部分	クロロ墨形	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
197	3号漢	土師質土器	(7.0) <2.1>	(2.9) 5.8	底部は直角、体側直角部分。	クロロ墨形。	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
198	土師質土器	小頭	(6.1) 1.95	3.7 21.2	底部は直角、体側は直角で、口縁	クロロ墨形。底部は直角で、口縁	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
199	1号質土器	小頭	- <1.5>	(5.4) 3.9	底部は直角、体側は直角で、口縁	クロロ墨形。底部は直角で、口縁	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
200	陶器	甌	(58.0) <6.6>	195.5	口縁部で外縁突起に盛立する。	クロロ墨形。底部は直角で、口縁部で外縁突起に盛立する。	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
201	陶器	甌	- -	- 37.9	底部は平底で体側下部は直角的で開	クロロ墨形。底部は直角的で開	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	
202	土師器	甌	- <4.1>	(3.9) 46.6	底部は平底で体側下部は直角的で開	クロロ墨形。底部は直角的で開	底色子葉少。	射し:	内面7.5/86.1K白 外面7.5/86.1K白	黒	1/2	波打	

%	種類	標識	網標	口径・ 底質 深さ	底盤・ 蓋さ	底盤・ 蓋さ	網形の特徴	網形の特徴	地底	底土	色調	模様	備考
203	魚	平真	—	—	245.5	—	凹面は布口底、凸面は繩口引引き。	良好	長砂・石英混在で多量。	内面S7/2底白 外面S7/2底灰	少	—	—
204	上製品	羽1 <3.5>	外径 長	—	34.3	—	羽1頭部に繩張りがあり分かれ化。軽薄付着する。 (乱号4.0)	—	—	—	—	—	—
205	3 号	上製品 羽1 <3.5>	外径 長	—	136.2	—	羽1頭部が極めて丸くガババヒ。軽薄付着する。 (乱号3.0)	—	—	—	—	—	—
206	漁	泡泡浮	11.5	5.5	5.4	251.7	—	—	—	—	—	—	—
207	石製品	金糸石	12.6	9.9	7.0	1,427.6	—	—	—	—	—	—	—
208	石製品	石輪舟	17.5	20.2	12.3	4,500.0	—	—	—	—	—	—	—
209	下製品	坪	(13.3)	4.1	9.0	74.0	—	—	—	—	—	—	—
210	上耕耙	坪	(14.2)	3.9	(8.2)	47.3	—	—	—	—	—	—	—
211	4 号	箱形耙	—	—	—	—	154.8	—	—	—	—	—	—
212	深基盤	坪	13.8	4.6	5.4	81.4	—	—	—	—	—	—	—
213	上耕耙	木金剛 筋筋	6.8	4.4	3.3	153.5	—	—	—	—	—	—	—
214	1 号	箱形耙	(13.0)	4.0	7.6	109.6	—	—	—	—	—	—	—
215	土耕耙	坪	—	—	—	7.5	底部は底盤。	—	—	—	—	—	—
216	1 号 井口	箱耙器	(30.0)	<8.0>	—	132.7	圓形は底面直角的にひき、口縫はくの字 に外反し口付部は縫み上げられる。	—	—	—	内面S9/5底灰 外面S7/6底灰	少	—
217	箱耙器	坪	—	—	—	164.1	—	—	—	—	—	—	—
218	箱耙器	坪	(14.0)	3.5	(6.0)	29.2	—	—	—	—	—	—	—
219	2 号 井口	土耕耙	(18.0)	5.2	(7.2)	66.2	—	—	—	—	—	—	—
220	箱耙器	坪	—	—	—	139.3	—	—	—	—	—	—	—

表19 遺物編目録(16)

No.	遺物	種類	器種	口径・ 高さ ・底径 ・厚さ	器形の特徴	器形の特徴	焼成	残存	備考	
221	2号限 土瓶	土瓶	平	- <1.7>	-	底部は平底で外側下端は内側して、 口部は直筒形、底部下端は内側して、 内面はミヤギ。	底部少量、口縁少量、 白色粒子少量。 立つ。白色粒子少量。	内面N1.5/無 外面10/766/3/-5/-1/ 灰褐色	内面黒色足端、 外面灰褐色	
222	1号土瓶	土瓶	燒	(20.0) <1.1> -	94.7 54.6	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	外面2.5/3/無 外面2.5Y1/1/無灰 半1/4	口縁～脚部上 新J.A.	
223	3号土瓶	土瓶	燒	(22.0) <1.9>	-	94.7 54.6	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	外面1.5/5/無 外面10/747/3/-5/-1/ 灰褐色	口縁～脚部上 内面黒色足端
224	4号土瓶	土瓶	燒	(22.0) <6.6> -	40.1	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	外面1.5/5/無 外面10/748/4/-5/-1/ 灰褐色	口縁～脚部上 内面黒色足端	
225	5号土瓶	土瓶	燒	- <2.5>	7.9	41.5 20.3	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	外面7.5/6/無 外面10/748/4/-5/-1/ 灰褐色	口縁～脚部上 内面1.4
226	10号土瓶	土瓶	燒	-	-	23.1	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	N3/灰	口縁部分 内面少量、 底が平ら と低い。開口部
227	11号土瓶	土瓶	燒	(13.0) <2.3>	-	23.1	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	5/6/2/無セリーブ 5/6/2/無セリーブ	口縁～脚部上 1/4
228	15号土瓶	土瓶	燒	13.0	4.5	92.8	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	内面N1.5/無 外面10/765/3/-5/-1/ 灰褐色	内面黒色足端
229	10号壺	壺	燒	(21.0) <1.5>	-	245.5 153.2	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	内面10/755/4/-5/-1/ 外面5/755/6/無 半1/4	口縁～脚部上 1/2
230	10号壺	壺	燒	(18.0) <9.0>	-	245.5 153.2	底部は直筒形で口縁はくの字に外反し 内面は幅広で内側下端は内側上に突出。 口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面はミヤギ。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で口縁はくの字に外 反し。口部は直筒形で内側下端は内側上に 突出。内面はミヤギ。	内面10/765/3/-5/-1/ 外面10/765/6/無 半2/5	口縁～脚部上 高流壺變化
231	土瓶	小形壺	平	<2.4>	-	11.3	口部はくの字に外反する。小形の壺である。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	内面5/5/無セリーブ 5/5/無セリーブ	口縁～脚部上 内面黒色足端
232	土瓶	小形壺	平	<3.3>	-	25.9	口部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	外面10/747/4/-5/-1/ 外面5/747/5/無 半1/4	口縁～脚部上 内面黒色足端
233	土瓶	平	平	(13.6) 3.6	(7.0) 55.2	底部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	内面10/747/4/-5/-1/ 外面10/747/5/無 半1/4	口縁～脚部上 内面黒色足端	
234	土瓶	平	平	(12.8) 4.2	(6.6) 33.4	底部は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	口部外側少量、 内面少量。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。 立ちは瓶は直筒形で内側下端は内側上に突出。 内面は直筒形で内側下端は内側上に突出。	内面10/747/4/-5/-1/ 外面10/747/5/無 半1/4	口縁～脚部上 内面黒色足端	

表20 遺物観察表(7)

No.	差構	種類	石種	口径・ 長さ	器高・ 幅	重量(g)	器形の特徴	器形の特徴	施工	焼成	焼成・ 灰	色調	焼成下平～延 期1/3	焼成	焼成
236	土師器	瓶	灰	<2.6>	(8.5)	43.2	直筒は平底で底内側黒青である。 もへタリズ。蓋は切口の様子で、 内面にはガサ。	ソクロ型形。蓋は切口の様子で、 内面にはガサ。 クロロ型形。	良好	相応焼成。全蓋多々、スコアア 好。やや月よつ、白色化了無。	外面7.5765/6/密 内面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面	
236	土師器	瓶	灰	(15.6)<4.2>	-	41.0	腰縁欠損。外面部内側に底口横溝下 で腰くびれ無く腰口部に有る。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
237	土師器	瓶	灰	-	-	2.0	内腹子るがの体形器である。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
238	土師器	高台付皿	(13.6)<2.1>	-	33.2	底部欠損。外底はやや内側底板に無い 外底は由内由下に底板を一気に下 外底した後口縁を至る。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。全蓋多々、スコアア 好。やや月よつ、白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面			
239	土師器	高台付皿	-	<2.1>	8.3	57.6	内腹子るがの体形器である。	内腹子るがの体形器である。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
240	須毛器	甕	(18.9)<7.6>	-	98.1	腰縁は缺損する。内腹子るがの体形器である。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面			
241	須毛器	甕	-	<4.9>	-	36.3	二輪足外反、口縁部上下に輪が付す。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
242	石製品	鋸面器	-	1.0	23.7	-	-	-	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
243	骨器	骨器	糠	<4.2><4.3>	0.4	11.9	底部は平底で底部下部は内側凹へ テクロ型形。蓋は切口の様子で、 内面はガサ。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
244	P26	土師器	瓶	-	<2.1>	7.0	56.3	底部は平底で底部下部は内側凹へ テクロ型形。蓋は切口の様子で、 内面はガサ。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面	
245	J44	陶器	罐	(28.0)<4.0>	-	33.0	底部は平底で底部下部は内側凹へ テクロ型形。蓋は切口の様子で、 内面はガサ。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
246	P159	土師器	瓶	-	-	7.1	高台は包みハーフ字に付される。体部下 部は内側凹へテクロ型形。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
247	十角器	高台付甕	-	<1.9>	5.8	50.8	高台は包みハーフ字に付される。体部下 部は内側凹へテクロ型形。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
248	須毛器	甕	(27.6)<9.0>	-	156.2	腰縁はやや内側底板に立ち、口縁は 内側に外反して輪郭は輪み上づけられ る。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面			
249	火油壺	瓶	-	<3.2>	(7.6)	27.8	腰縁はやや内側底板に立ち、口縁は 内側に外反して輪郭は輪み上づけられ る。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
250	上部蓋土器	小瓶	-	<1.8>	(5.6)	11.6	底部は平底。体形は直筒形の三脚。	ロクロ型形。内面はガサ。	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		
251	陶器	甕	-	-	60.1	-	-	-	良好	相応焼成。蓋はやしらぎア、 スコアア。白色化了無。	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面7.5765/6/密 外面7.5766/6/密	内面黑色瓦面 外面黑色瓦面		

表21 遺物観察表(縄文・弥生土器)

遺物名	ノリット	種類番号	残存高(cm)	重量(g)
包含層	U-11	252	5.8	42.9
	N-10	253	3.1	16.2
	R-11	254	3.6	28.3
	R-11	255	6.2	48.3
	R-11	256	6.7	43.5
	O-11	257	3.9	11.4
	37号土坑	258	4.8	22.8
	包含層	R-11	259	5.8
	30号土坑	Z-9	5.3	22.8
	13号土坑	261	5.4	41.7
	包含層	K-11	262	5.7
		U-11	264	4.5
	D-11	265	2.0	4.6

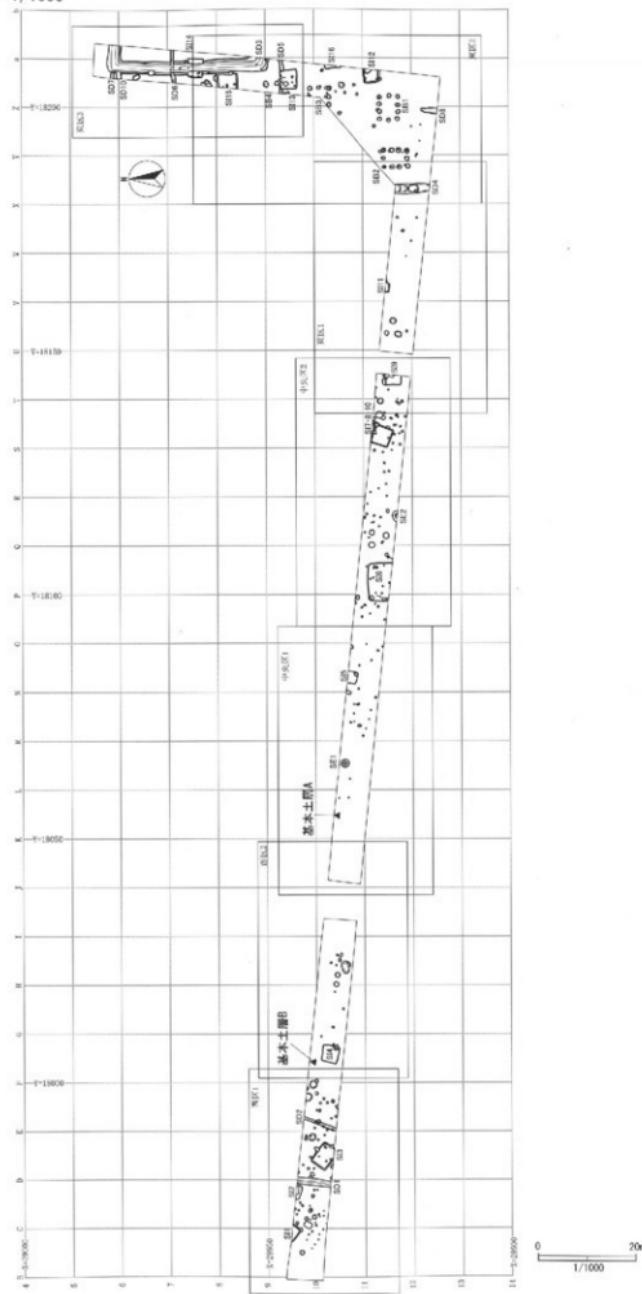
表22 遺物観察表(石器)

遺物名	ノリット	報告番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
11号住	266	剥片	メテ	4.6	3.5	0.7	9.9	
3号溝	267	使用有り剥片	珪質頁岩	5.15	5.25	0.9	29.0	
3号溝	268	石核	チャート	4.1	3.3	1.5	21.9	
8号溝	Z-12	剥片	黒曜石	3.5	2.2	0.75	4.3	

表23 未揭露遗物重量表

遗物		重量	量方	量方	重量	量方	量方	重量	量方	量方
6号住	滑石	3.3	滑石		228.6			19.1		
	2.5	滑石			13.9			54.8		
	1.2	滑石			1.360.1			13.6		
	6.0	滑石			521.9			6.1		
	21.0		门齿		969.0			6.8		
			刮削器		41.2			11.2		
7号住	刮削器	1.0	刮削器		11.8			2.3		
	骨刮器	5.1	骨刮器		1.973			2.9		
	1.0	骨刮器			226.3			29.8		
8号住	骨刮器	3.4	骨刮器		81.4			9.4		
	1.0	骨刮器			1.073			615.3		
	85.1		刮削器		10.6					
9号住	滑石	5.4	滑石		23.4					
	4.2	刮削器			74.4					
	189.4	花岗岩			金星石					
10号住	滑石	2.285.1	滑石		6.0					
	1.0	滑石			11.4					
	62.9	2号土坑			2.9					
11号住	贝壳器	2.7	贝壳器		4.9					
	44.6	3号土坑			1.073					
	0.8	4号土坑			54.2					
12号住	上颌骨	662.4	6号土坑		1.210.0					
	31.9	刮削器			85.8					
	3.668.7	7号土坑			5.5					
13号住	滑石	295.5	8号土坑		8.6					
	3.660.0	刮削器			9.6					
	26.7	8号土坑			67.2					
14号住	灰陶器	1.690.1	9号土坑		1.073					
	10.1	刮削器			18.8					
	715.2	12号毛板			47.2					
15号住	滑石	439.5	13号土坑		55.6					
	61.0	刮削器			81.1					
	89.1	14号土坑			37.1					
16号住	土质器	1.627.0	15号土坑		94.2					
	255.3	刮削器			15号土坑					
	5.4	刮削器			4.9					
17号住	滑石	1.350.9	16号土坑		78.8					
	1.0	刮削器			29号土坑					
	1.0	刮削器			1.073					
18号住	滑石	294.7	20号土坑		1.727.5					
	4.8	刮削器			375.9					
	40.4	23号土坑			795.2					
19号住	上颌骨	1.073	23号土坑		7.4					
	1.073	刮削器			27.0					
	49.8	29号土坑			5.8					
20号住	中颌骨	12.7	31号土坑		2.4					
	1.073	刮削器			27.3					
	255.3	32号土坑			17.5					
21号住	刮削器	11.2	33号土坑		100.7					
	40.4	刮削器			4.1					
	1.073	34号土坑			55.5					
22号住	滑石	915.5	35号土坑		5.2					
	101.3	刮削器			—					
	4.085.1	36号土坑			3.8					
23号住	滑石	575.0	37号土坑		50.2					

図 版



図版 2

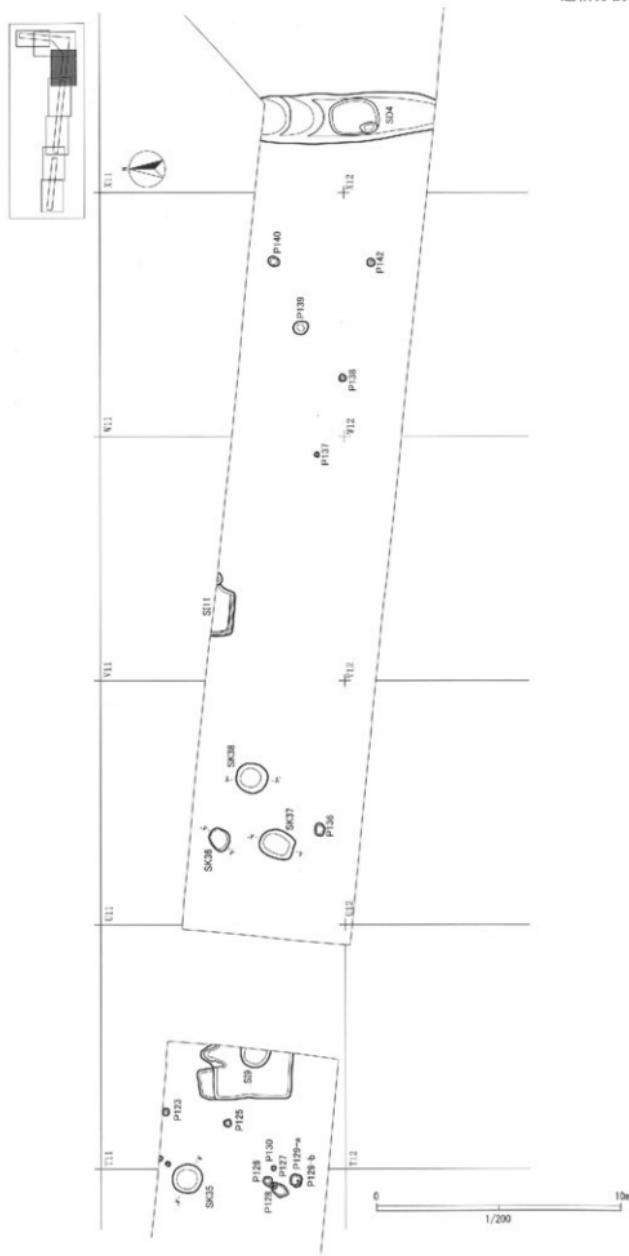
遺構分割図(1) 西区 1・2



遺構分割図(2) 中央区1・2

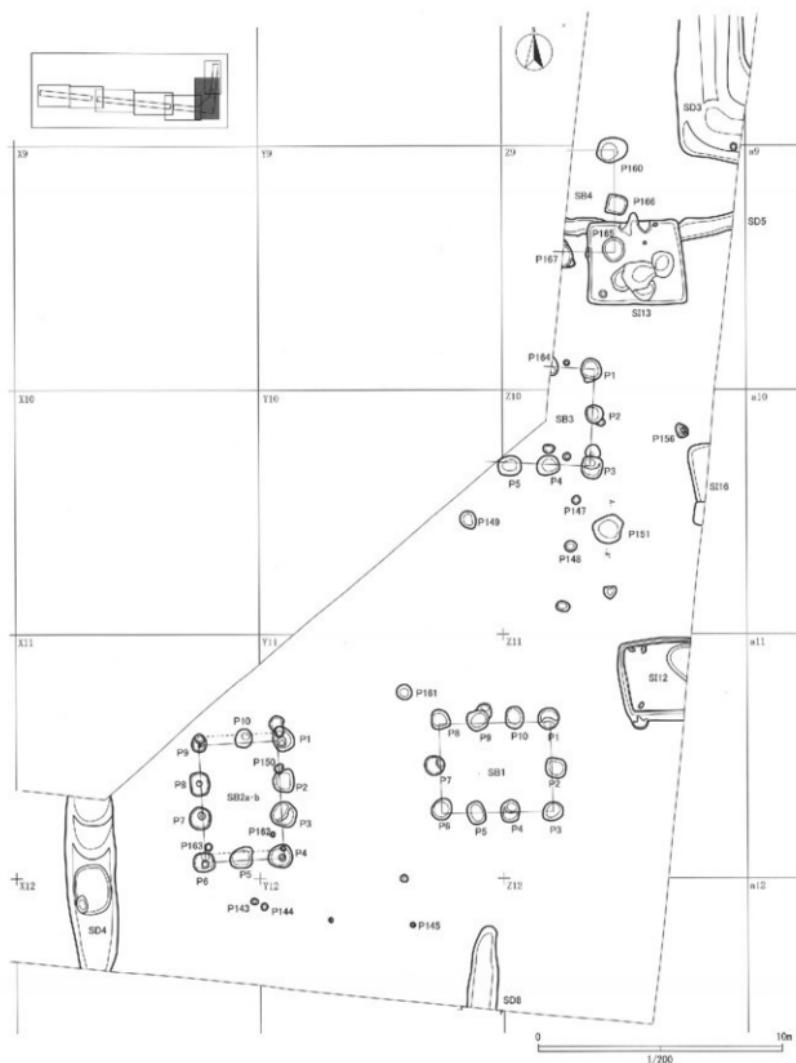
図版3

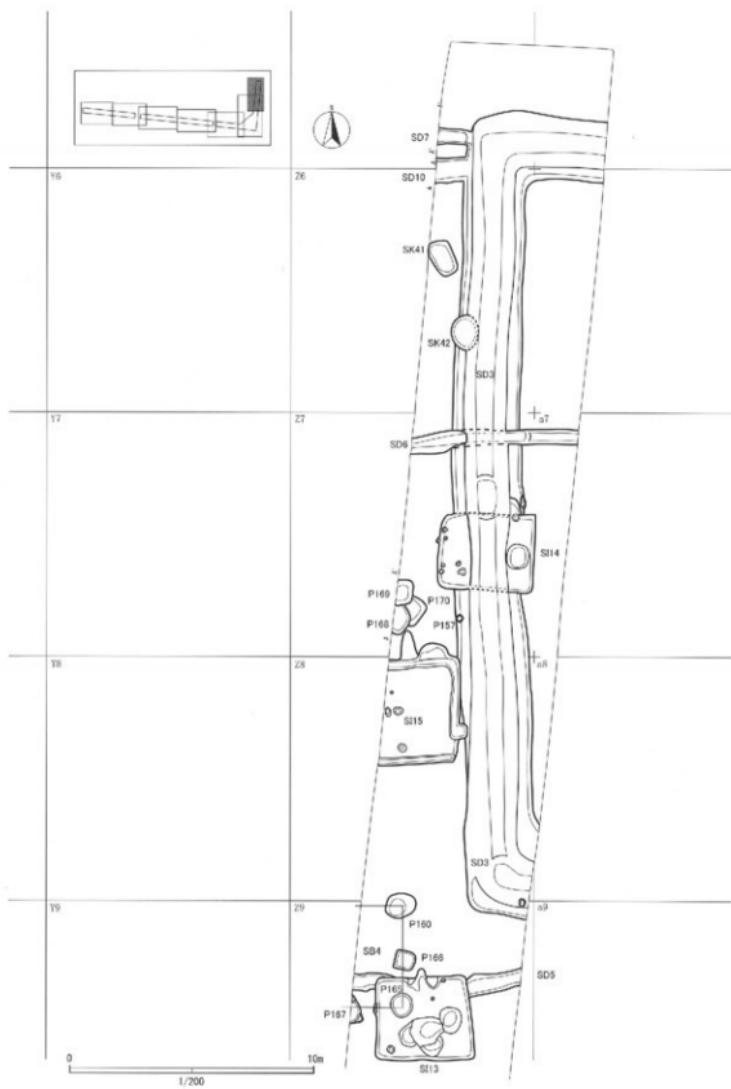




遺構分割図(4) 東区2

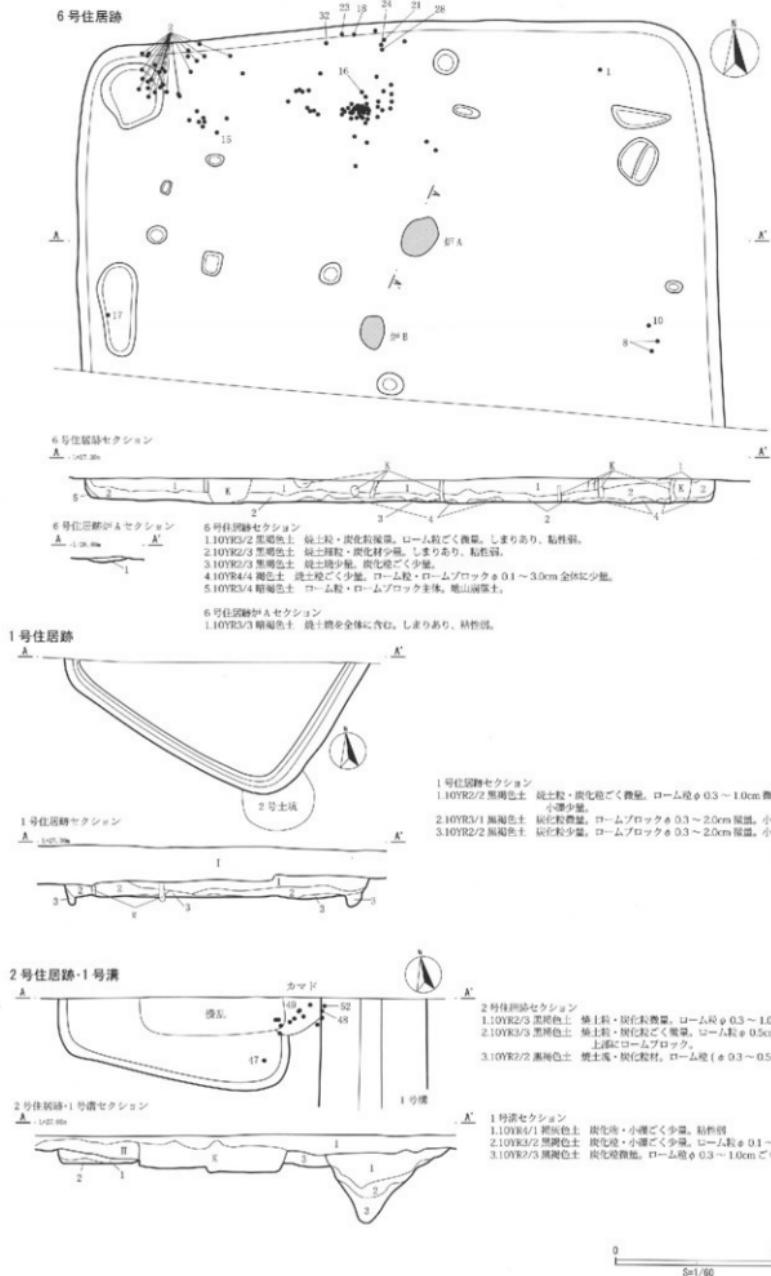
図版 5





遺構個別図(1) SI1・2・6、SD1

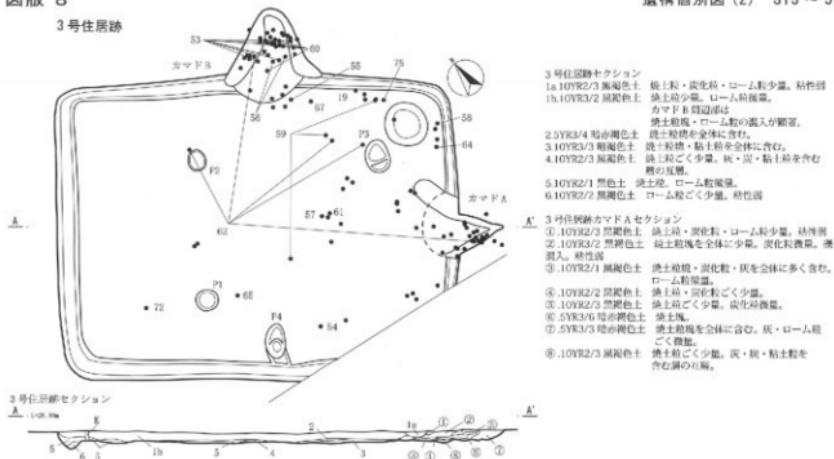
図版 7



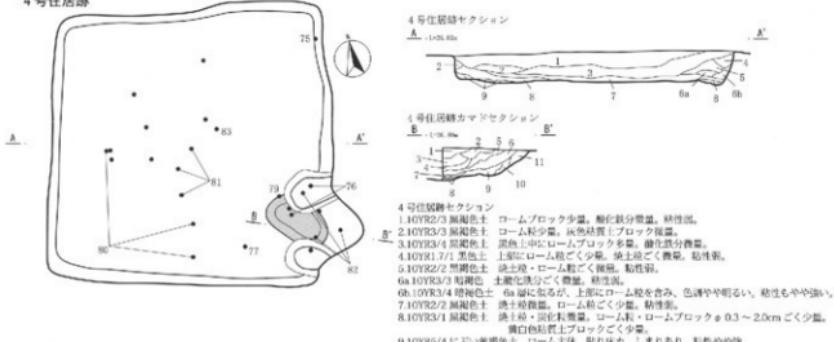
図版 8

遺構個別図(2) S13~5

3号住居跡



4号住居跡

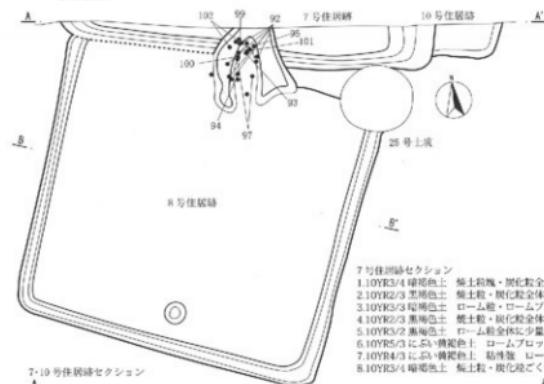


4号住居跡カドAセクション



遺構個別図(3) S17~11

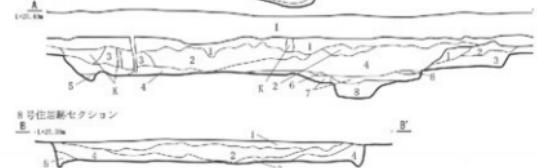
7・8・10号住居跡



7号住居跡セクション

- 1.10YR3/3 黒褐色土 植生地・炭化穀全体に少量。ローム粒ごく少量。
2.10YR2/3 黑褐色土 植生地・炭化穀全体に少量。ローム粒 ϕ 0.5cm 少量。
3.10YR2/3 黑褐色土 植生地・炭化穀全体に少量。ローム粒 ϕ 0.1 ~ 0.5cm 少量。
4.10YR2/3 黑褐色土 植生地・炭化穀全体に少量。ローム粒・ロームブロック ϕ 0.3 ~ 2.0cm 全体に混入。
5.10YR3/2 黑褐色土 ローム全体に少量。
6.10YR5/5 黑褐色土 植生地上・粘性強 ローム粒・ロームブロック ϕ 0.5 ~ 5.0cm 全体に含む。堅い。
7.10YR4/3 黑褐色土 植生地上・粘性強 ローム粒・ロームブロック ϕ 0.3 ~ 2.0cm 全体に含む。
8.10YR3/4 黑褐色土 植生地上・粘性強 ローム粒・ロームブロック ϕ ~ 3.0cm 少量。

7-10号住居跡セクション



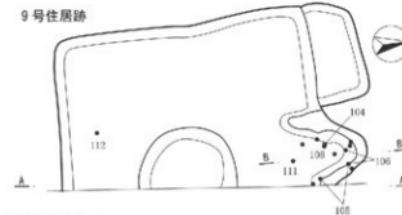
8号住居跡セクション

- 1.黑褐色土 汚土層・炭化穀少量。ローム粒 ϕ 0.1 ~ 0.5cm、ロームブロック ϕ 1.0cm 下部にごく微量。
2.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化穀少量。ローム粒全体に少量。褐色黏土質ブロック ϕ 2.0cm 少量。
3.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化穀少量。ローム粒 ϕ 0.1 ~ 0.5cm 少量。ロームブロック ϕ 0.2 ~ 1.0cm 主に下部に少量。2層に似るが、色調かすかに明るい。
4.10YR2/3 黑褐色土 ローム粒 ϕ 0.2 ~ 1.0cm 全体に少量。炭化穀ごく微量。
5.10YK3/3 黑褐色土 ローム粒・ロームブロック主。

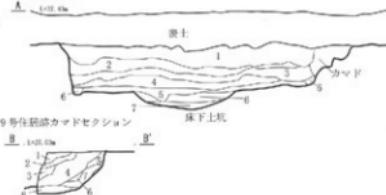
10号住居跡セクション

- 1.10YR3/4 緑褐色土 植生地・炭化穀全体に少量。ローム粒ごく少量。7号住居跡カマド残石。
2.10YR2/3 黑褐色土 植生地・炭化穀全体に少量。ローム粒 ϕ 0.3 ~ 0.5cm ごく少量。
3.10YR2/3 黑褐色土 植生地・炭化穀全體に微量。ローム粒・ロームブロック主。

9号住居跡



9号住居跡セクション



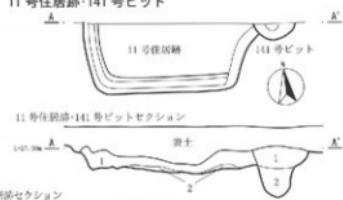
9号住居跡セクション

- 1.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化穀微量。ローム粒 ϕ 0.1 ~ 1.0cm 少量。
2.10YR3/2 黑褐色土 汚土層・炭化物・ローム粒・ロームブロック ϕ 0.1 ~ 3.0cm 全体に少量。
3.10YR3/2 黑褐色土 汚土層・炭化物・ローム粒・ロームブロック ϕ 0.1 ~ 2.0cm 全体に少量。
4.10YR3/3 緑褐色土 汚土層・炭化穀ごく少量。ローム粒・ロームブロック ϕ 0.1 ~ 1.0cm 少量。
5.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化穀ごく少量。ロームブロック混入。やや堅い。
6.10YR3/3 緑褐色土 ローム粒・ロームブロック ϕ 0.2 ~ 2.0cm 全体に少量。
7.10YR3/4 緑褐色土 ローム主。

9号住居跡カマドセクション

- 1.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化穀微量。ローム粒 ϕ 0.1 ~ 1.0cm 少量。
2.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化物・ローム粒・ロームブロック ϕ 0.1 ~ 3.0cm 全体に少量。
3.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・炭化物・ローム粒・ロームブロック ϕ 0.1 ~ 2.0cm 全体に少量。
4.10YR3/3 緑褐色土 汚土層・炭化穀ごく少量。ローム粒・ロームブロック ϕ 0.1 ~ 1.0cm 少量。
5.10YR2/3 黑褐色土 汚土層・ローム粒ごく少量。炭化穀微量。
6.10YR2/3 黑褐色土 汚土層ごく少量。灰化物・ローム粒微量。
7.10YR3/4 緑褐色土 汚土層全體に含む。炭化穀微量。ローム粒微量。
8.10YR2/2 黑褐色土 汚土層・炭化穀全體多量。白い色質土質ブロック少量。

11号住居跡



11号住居跡セクション

- 1.10YR3/2 黑褐色土 汚土層・炭化穀微量。白色粒 ϕ 0.1 ~ 0.2cm、ローム粒 ϕ 0.1 ~ 0.3cm ごく少量。しまりあり粘性弱。
2.10YR3/4 緑褐色土 ローム主。汚土層・炭化穀ごく微量。しまりあり粘性弱。

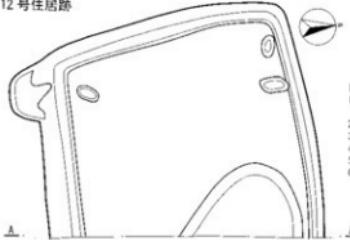
141号ピットセクション

- 1.10YR2/3 黑褐色土 炭化穀・ローム粒微量。しまりあり粘性弱。
2.10YR3/2 黑褐色土 植生地・炭化穀・ローム粒 ϕ 0.1 ~ 0.5cm 微量。しまりあり。

0 2m
8m/60

図版 10

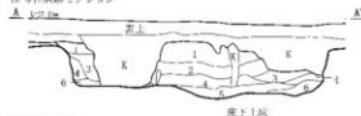
12号住居跡



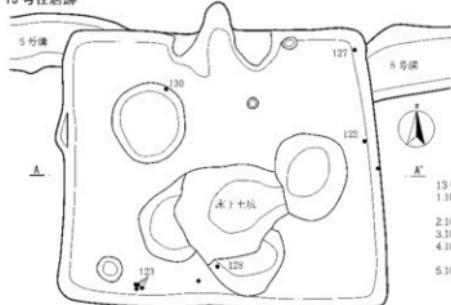
12号住跡セクション

- 1.10YR2/2 黄褐色土 しまりあり。純土粒塊 $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ 少量。炭化粒微量。
1-1ム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 1.0\text{cm}$ ごく少額。
- 2.10YR2/2 黄褐色土 痕跡細粒微量。ローム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 5.0\text{cm}$ 全体に少量。
- 3.10YR2/1 黄褐色土 痕跡細粒微量。ローム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 3.0\text{cm}$ ごく少額。
- 4.10YR2/3 黄褐色土 痕跡細粒・炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 2.0\text{cm}$ 少量。
- 5.10YR2/2 黄褐色土 炭化粒 $\phi 1.0\text{cm}$ 少量。ローム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 1.5\text{cm}$ 少量。粘性根。
- 6.10YR3/2 黑褐色土 粘性筋 13-ム粒 $\phi 0.2 \sim 0.8\text{cm}$ 全体に少額。

12号住跡セクション



13号住居跡



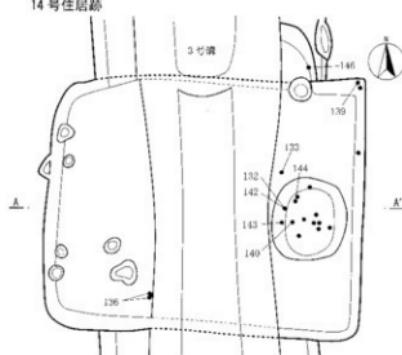
13号住跡セクション

- 1.10YR2/3 黑褐色土 硬土粒 $\phi 0.2 \sim 0.6\text{cm}$ 、炭化粒 $\phi 0.3\text{cm}$ 微量。
1-1ム粒・1-1ムブロック $\phi 0.2 \sim 2.0\text{cm}$ を全体に少額。
- 2.10YR2/2 黑褐色土 黑褐色土・二重壁構造・柱跡ごく微量。
- 3.10YR4/4 黑褐色土 ローム粒・炭化粒微量。
- 4.10YR2/2 黑褐色土 粘性筋・ローム粒・ロームブロック $\phi 0.2 \sim 2.0\text{cm}$ ごく少量。
- 5.10YR2/2 黑褐色土 硬土粒・炭化粒ごく少額。
1-1ム粒・ロームブロック $\phi 0.3 \sim 1.0\text{cm}$ 少額。

13号住跡セクション



14号住居跡



14号住跡セクション

- 1.10YR3/3 黄褐色土 純土粒・炭化粒微量。
ローム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 1.0\text{cm}$ 全体に少額。
- 2.10YR2/3 黑褐色土 純土粒・炭化粒微量。
ローム粒・ロームブロック $\phi 0.1 \sim 1.0\text{cm}$ 少量含む。
しまりあり。粘性筋。
- 3.10YR2/3 黑褐色土 13-ム粒 $\phi 0.5\text{cm}$ 少量。しまりあり粘性筋

14号住跡セクション

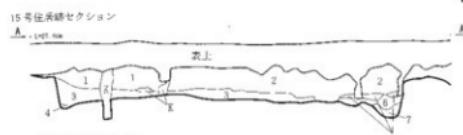
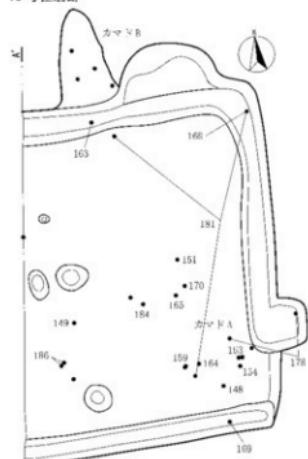


遺構個別図(4) SI12～14

図版 11

遺構個別図(5) SI15・16、SB1

15号住居跡



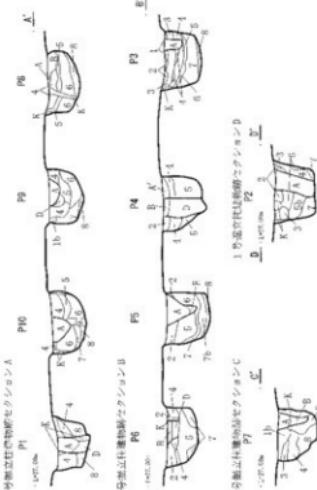
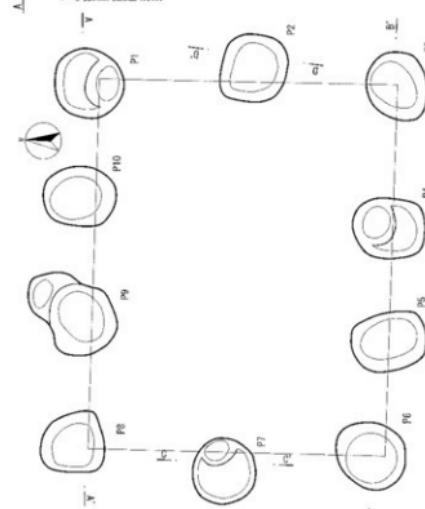
7.10YR2/3 黑褐色土 硫酸鉄粒、硫化鉄鉱粒ごく少量、1~1.5cm粒φ 0.2~1.0cm 全体。
8.10YR2/3 黑褐色土 硫酸鉄粒、硫化鉄鉱粒ごく少量、1~1.5cm粒φ 0.2~1.0cm 全体。
9.10YR2/3 黑褐色土 硫酸鉄粒、硫化鉄鉱粒ごく少量、1~1.5cm粒φ 0.2~1.0cm 全体。

16号住居跡



3.10YR2/2 黑褐色土 φ 0.5~5.0cm 褐色。
4.10YR2/3 黑褐色土 1層に似るが、褐色質十プロック

1号掘立柱建物跡



横断面測定セクション共通寸法(好)

A.10YR2/2 黑褐色土(表土上)ごく微量。硫化鉄微量。ローム粒、ロームブロックφ 0.1~2.0cm 全体に少量含む。
A.10YR2/2 黑褐色土 A 領するが、ロームはほとんど見られない。

B.10YR2/2 黑褐色土(炭化粒)ごく微量。ローム粒、ロームブロックφ 0.2~1.5cm 全体に含む。

C.10YR2/2 黑褐色土の土塊、炭化粘微量。ローム粒φ 0.1~0.5cm 少量。

D.10YR2/2 黑褐色土・ローム粒、ロームブロックφ 0.5~3.0cm 少量含む。

E.10YR2/2 黑褐色土(炭化粒)ごく微量。ローム粒、ロームブロックφ 0.3~1.0cm 褐量含む。

1号掘立柱建物跡セクション

A.10YR2/3 黑褐色土 硫酸鉄粒・ローム粒φ 0.1~0.5cm 少量。

B.10YR2/3 墓地土 1層全体。

C.10YR2/3 黑褐色土 硫酸鉄粒、硫化鉄粒ごく微量。ローム粒・ムーム粒・ロームブロックφ 0.1~3.0cm 少量。

D.10YR2/2 黑褐色土(炭化粒)ごく微量。ローム粒・ムーム粒・ロームブロックφ 0.1~5.0cm 全体に少量。

E.10YR2/2 黑褐色土(炭化粒)ごく微量。ローム粒・ムーム粒・ロームブロック全層に含む。

F.10YR2/2 黑褐色土、3層に似るが、ローム粒上位にやや少量。

G.10YR2/3 1層全体、1層に似る、黒褐色土、5層に似る、ローム全層。

H.10YR2/3 黑褐色土、3層に似るが、ローム粒・ムーム粒・ロームブロック全層に含む。

I.10YR2/2 黑褐色土、3層に似るが、ローム粒上位にやや少量。

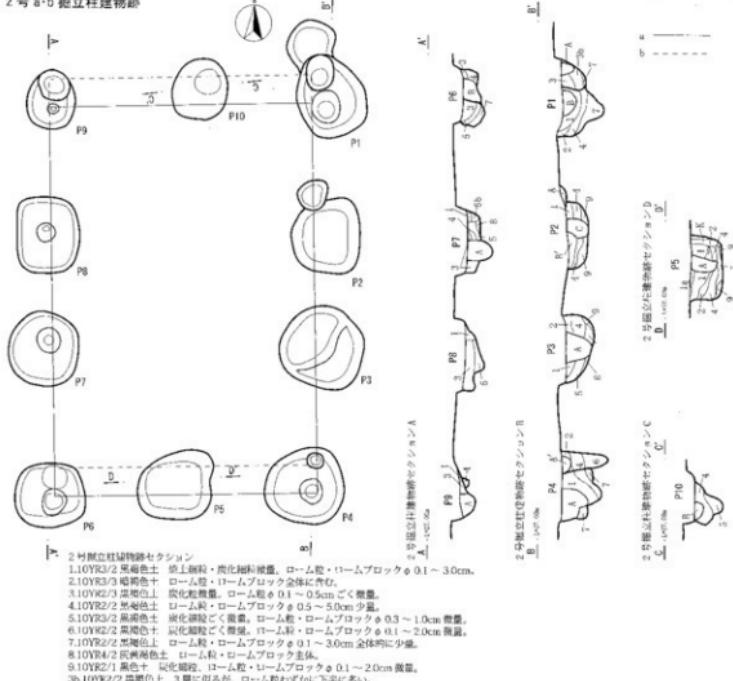
J.10YR2/3 1層全体、1層に似る、黒褐色土、5層に似る、ローム全層。

K.10YR2/3 1層全体、1層に似るが、ローム粒・ムーム粒・ロームブロック多く含む。

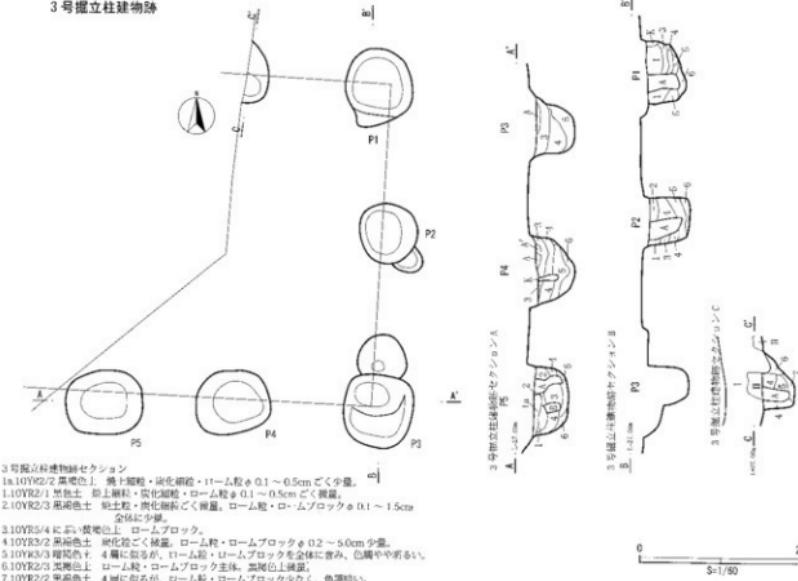
2m
S=1/60

図版 12

2号 a-b 据立柱建物跡



3号据立柱建物跡

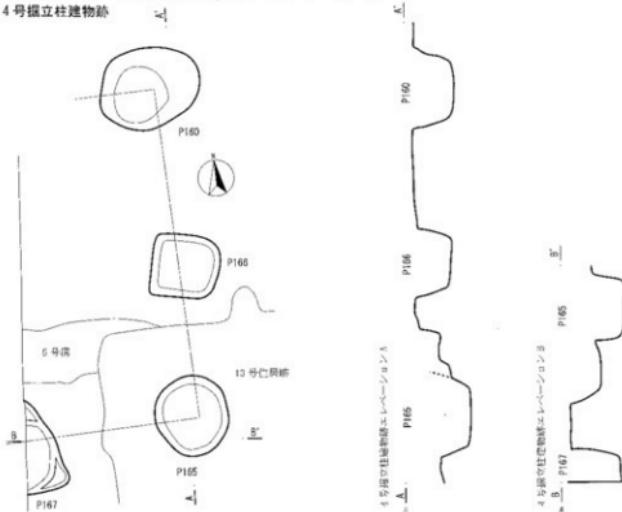


遺構個別図 (6) SB2ab・3

図版 13

遺構個別図(7) SB4、SE1・2、SD2～4・6～8・10

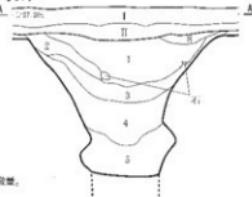
4号標柱付跡



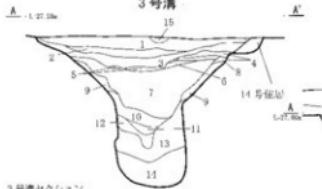
1号井戸



2号井戸



3号溝



3号溝セクション

1.Y0YR2/3 黒褐色土 塩土層。純土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.1～20cm ごく少量。しまりあり。粘性弱。

2.Y0YR2/2 黑褐色土 滲水層。炭化粒・ローム粒。薄白色土層とロームブロック ø 1.0cm 離散。

3.Y0YR2/3 黑褐色土 働き土・粘土・炭化粒・薄白色土層。

4.Y0YR2/2 黑褐色土 純土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.1～0.5cm ごく微量。炭化粒微量。

5.Y0YR2/2 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.1～20cm。少額。しまりや少額。

6.Y0YR2/2 黑褐色土 2層以上あるが、薄色や少額。

7.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック ø 0.1～1.0cm ごく微量。右半に薄土層 ø 0.2～1.0cm ごく微量。

8.Y0YR2/4 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック (山形層底土) 少額。粘性弱。

9.Y0YR2/4 黑褐色土 1.1号井戸・ロームブロック ø 0.1～3.0cm 全体に少額。粘性弱。

10.Y0YR2/4 黑褐色土 同上。

11.Y0YR2/4 黑褐色土 同上。

12.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.1～20cm。少額。

13.Y0YR2/4 ない 黄褐色土 黄褐色土と白い砂質土の互層。既分やや多く合む。

14.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層・炭化粒・ローム粒 ø 0.1～0.5cm ごく微量。

15.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層・炭化粒・ローム粒 ø 0.1～0.5cm ごく微量。しまりあり。粘性弱。

4号溝セクション

1.Y0YR2/3 黑褐色土 塩化粒ごく少額。ローム粒・ロームブロック ø 0.1～1.0cm 頂下平に少額。

2.上半は既分を含む。しまりあり。粘性や少額。

3.Y0YR2/3 黑褐色土 ローム粒・ロームブロック ø 0.1～1.0cm ごく少額。

4.Y0YR2/3 黑褐色土 既分をわずかに含む。

5.Y0YR3/4 黑褐色土 ローム粒・ロームブロック 全体に少額。細い、液性や少額。

6号溝セクション

1.Y0YR2/2 黑褐色土 土層厚 0.3cm。ローム粒・ロームブロック ø 0.2～1.0cm ごく少額。炭化粒微量。

2.Y0YR2/3 黑褐色土 炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック ø 0.2～1.0cm ごく少額。

3.Y0YR3/4 細褐色土 ローム粒・ロームブロック 全体に少額。

10号溝

1.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.3～5.0cm 頂上にごく少額。

2.しまりやなし。粘性弱。

6号溝

1.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.2～1.0cm 全体に少額。小液性量。粘性弱。

2.上半に薄土層 ø 0.2～1.0cm ごく少額。

3.少額。粘性弱。

2号溝

1.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.2～1.0cm 全体に少額。小液性量。粘性弱。

2.少額。粘性弱。

7号溝

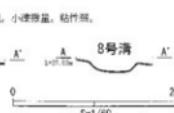
1.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.2～1.0cm 全体に少額。小液性量。粘性弱。

2.少額。粘性弱。

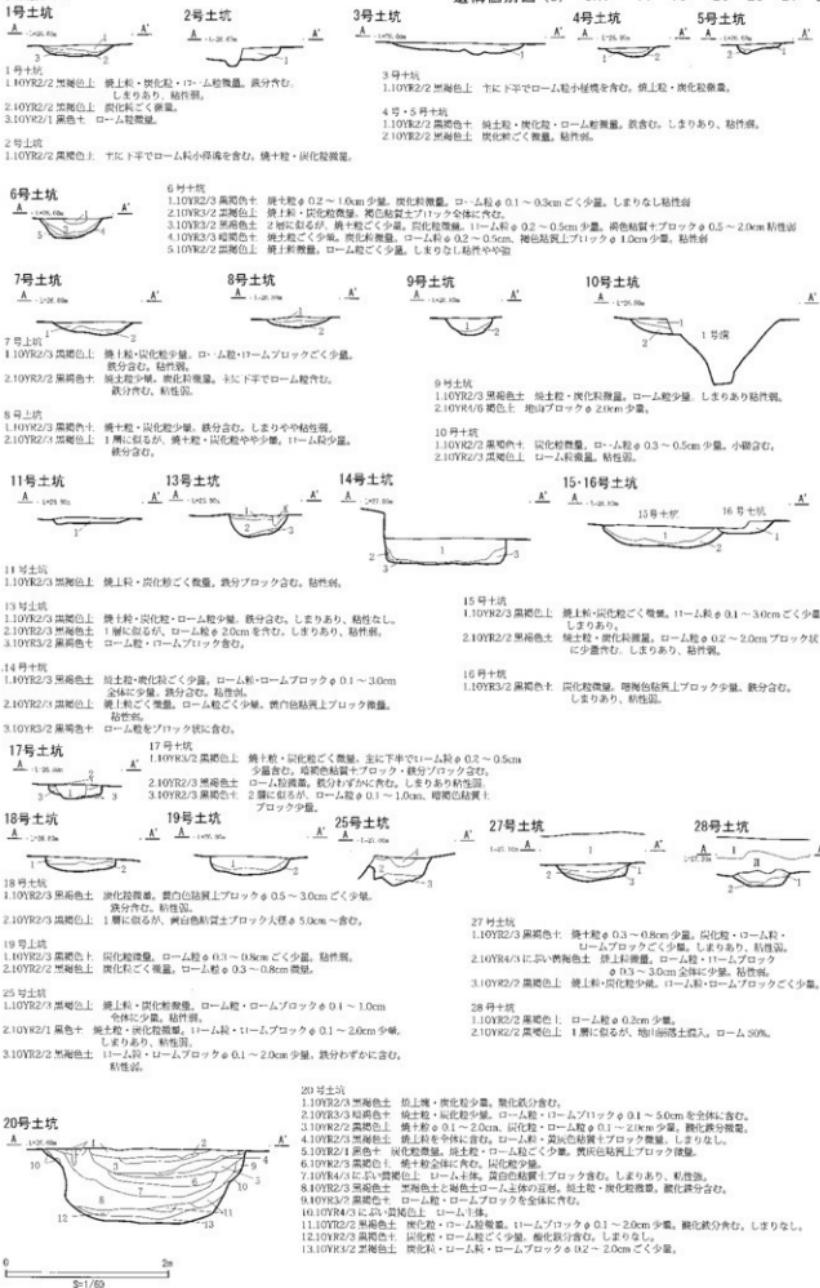
8号溝

1.Y0YR2/3 黑褐色土 塩土層。ローム粒・ロームブロック ø 0.2～1.0cm 全体に少額。小液性量。粘性弱。

2.少額。粘性弱。

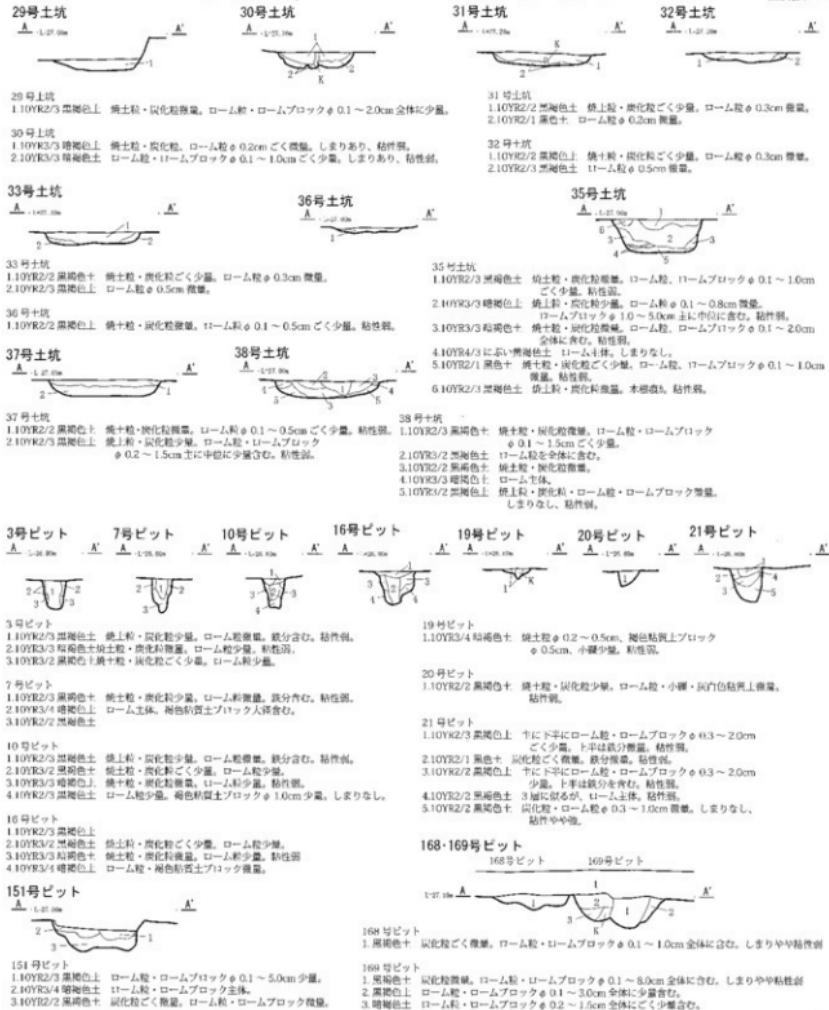


図版 14



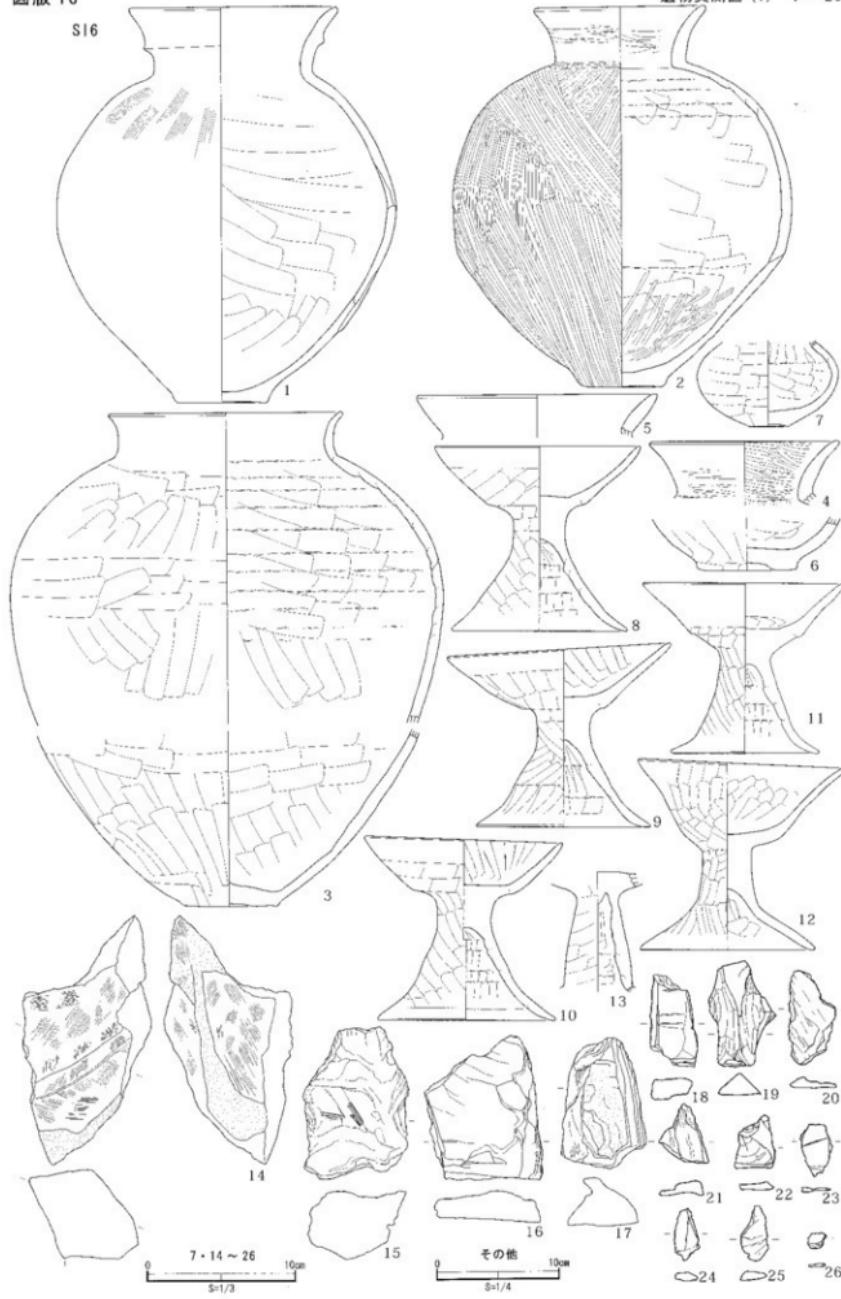
図版 15

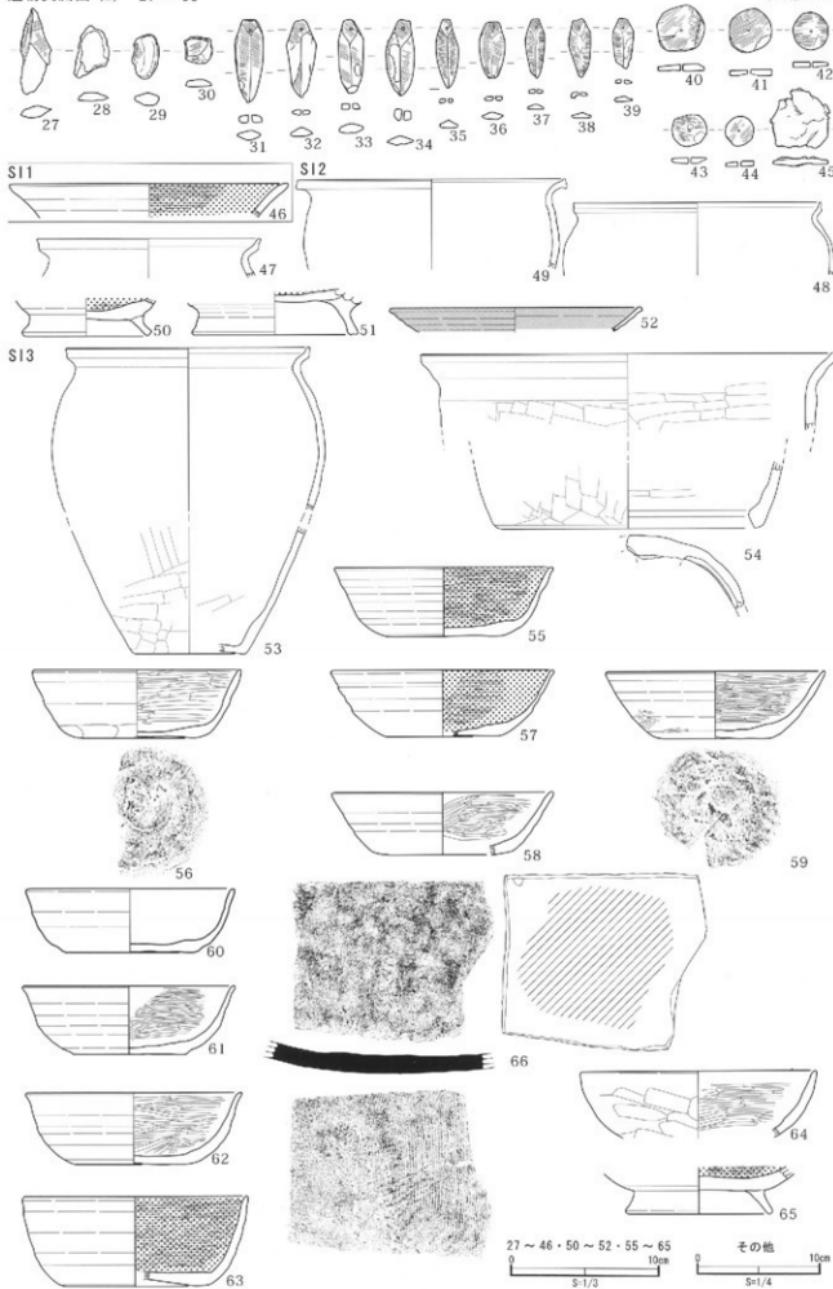
遺構個別図(9) SK29～33・35～38、P3・7・10・16・19～21・151・168・169



0 2m
S=1/60

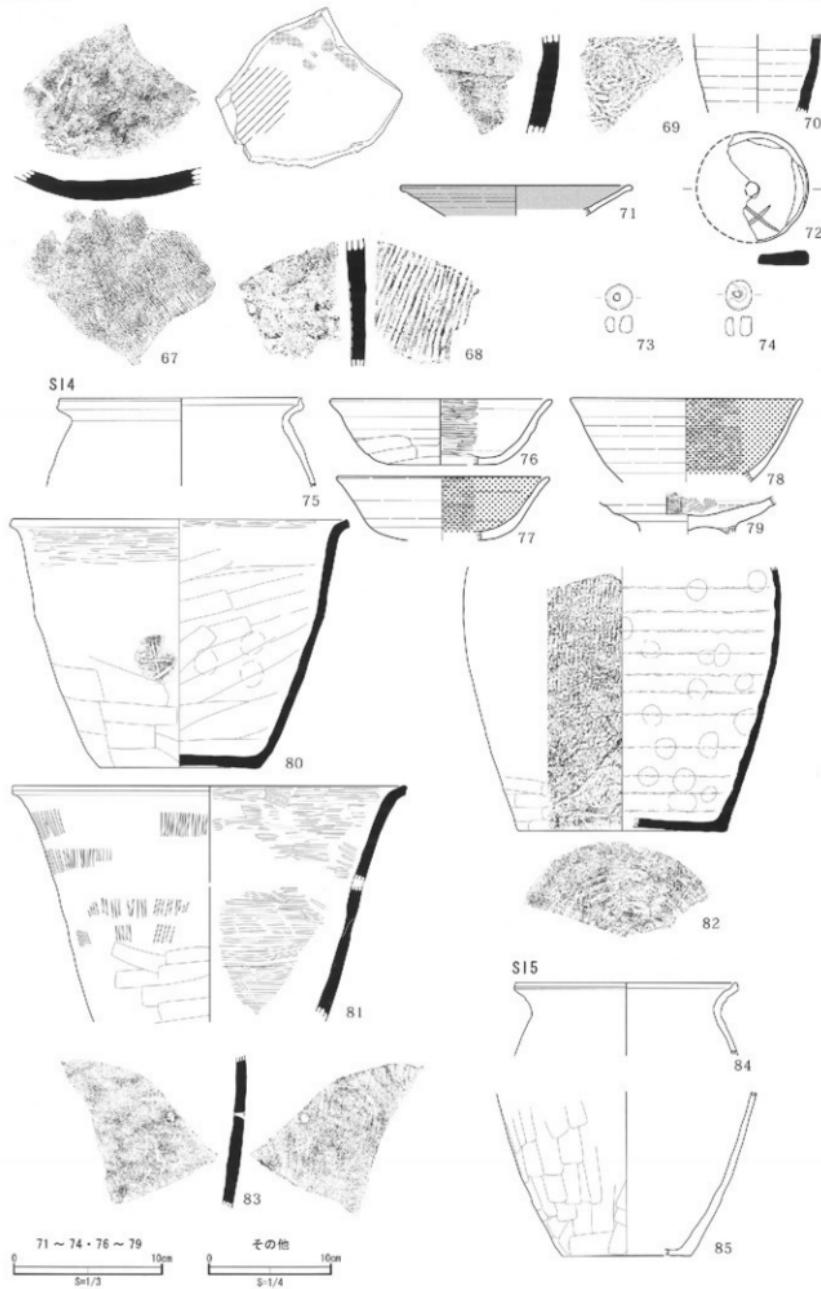
S16





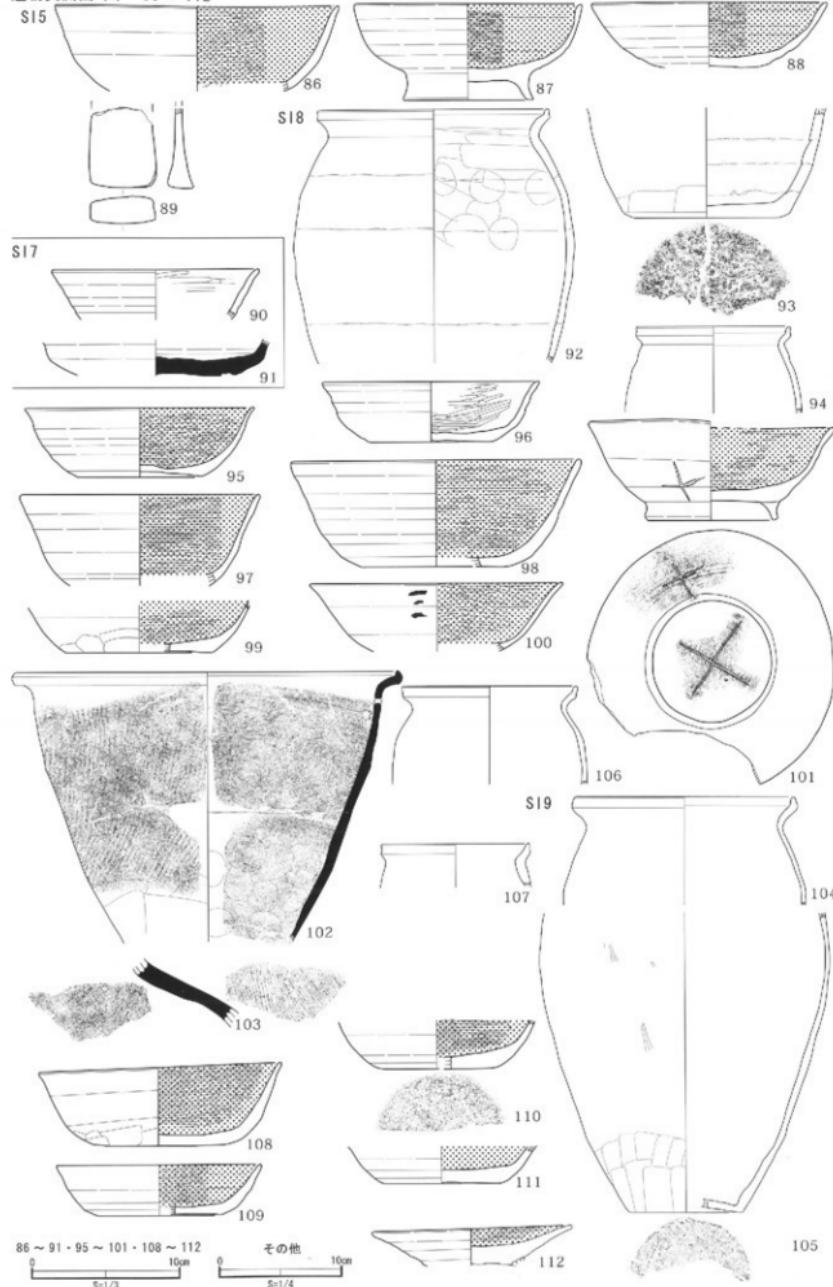
27 ~ 46 • 50 ~ 52 • 55 ~ 65
0 10cm
5-1/3

その他
0 10cm
5-1/4



遺物実測図(4) 86~112

図版 19



86 ~ 91 ~ 95 ~ 101 ~ 108 ~ 112
S=1/3 10cm

その他
S=1/4 10cm

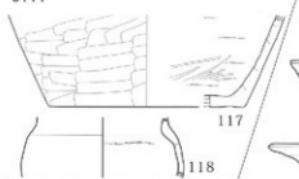
105

図版 20

S110



113



118



122



124



126



128



130



132



134



136

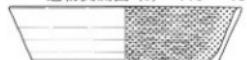


138

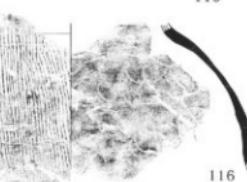


139

遺物実測図(5) 113~139



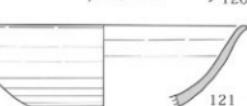
115



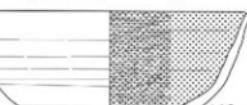
116



120



121



119



131



132



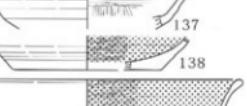
133



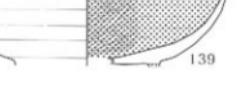
134



135



136



137



138



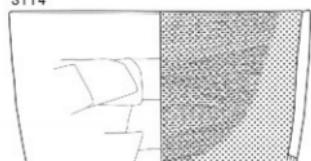
139

114・115・118～125・
127～129・131・135～138
10cm

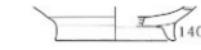
Se1/3

0 その他 10cm
Se1/4

S114



141



140



142



146



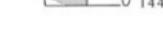
147

143

S115



148



144

145



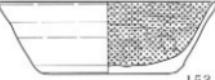
149



151



152



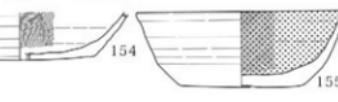
153



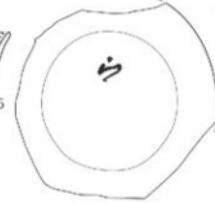
150



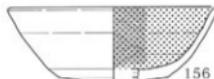
154



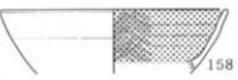
155



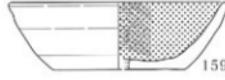
156



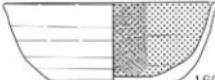
157



158



159



160



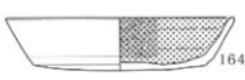
161



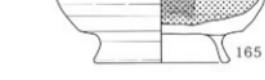
162



163



164



165



166



166

160・141・143～147・
153～169・171

10cm

S-1/3



168



10cm

S-1/4



170



171



172

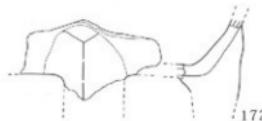
その他

図版 22

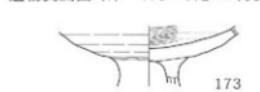
SI15



170



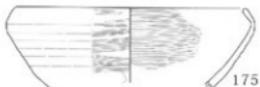
172



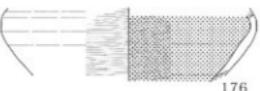
173



174



175



176



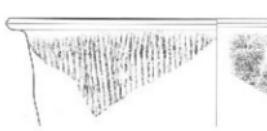
177



178



179



180



182



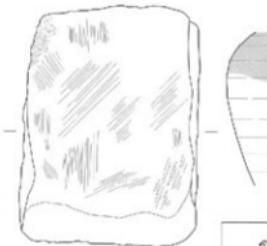
181



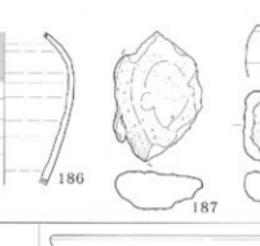
183



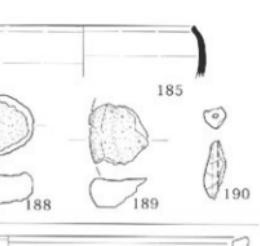
184



185



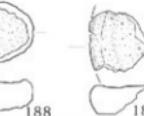
186



187

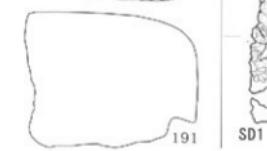


188

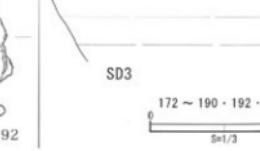


189

190

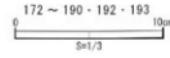
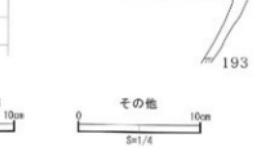


191



SD1 192

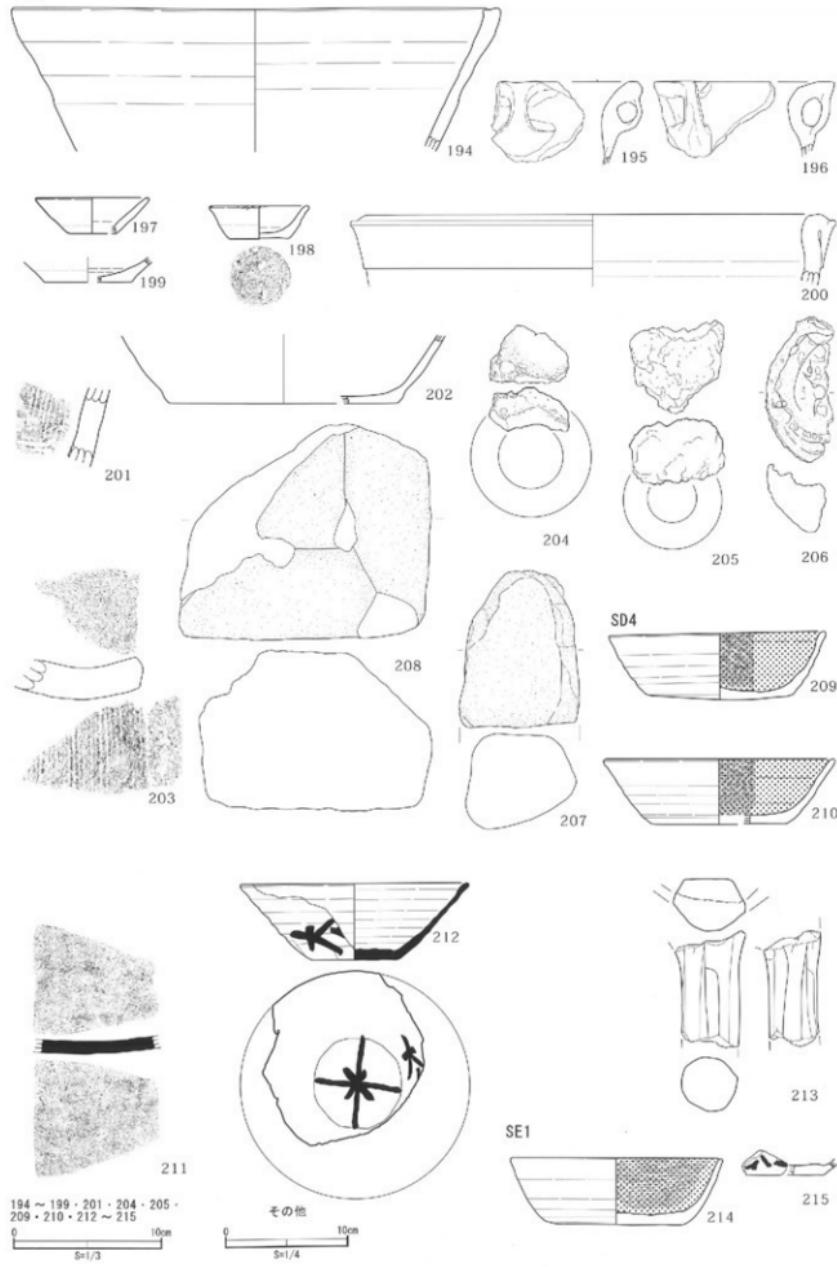
SD3

172 ~ 190 · 192 · 193
10cm
5x1/3その他
10cm
5x1/4

193

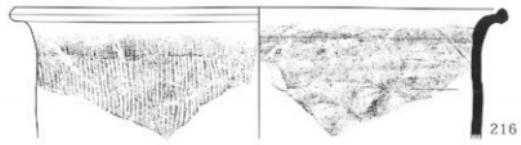
遺物実測図(7) 170・172~193

SD3

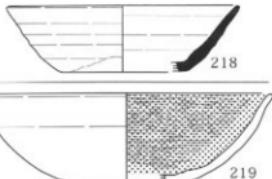


図版 24

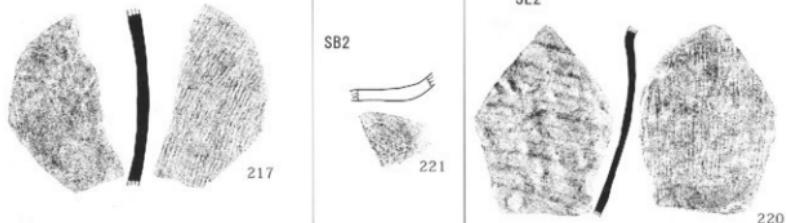
SE1



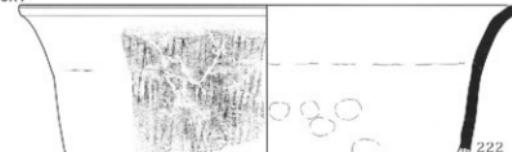
遺物実測図 (9) 216 ~ 232



SE2



SK1



SK8



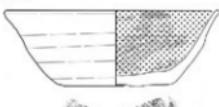
SK3



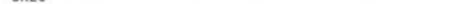
SK14



SK15



SK20



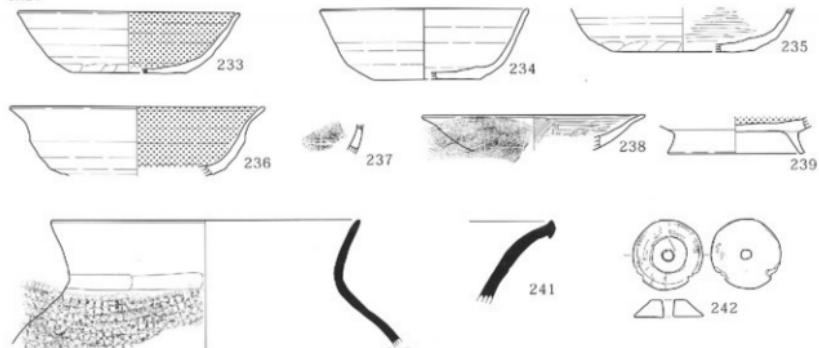
228



218・219・221・225・
227・228・231・232 10mm
S=1/3

その他 10mm
S=1/4

SK20

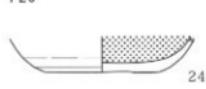


SK40

P26

P44

P150



244

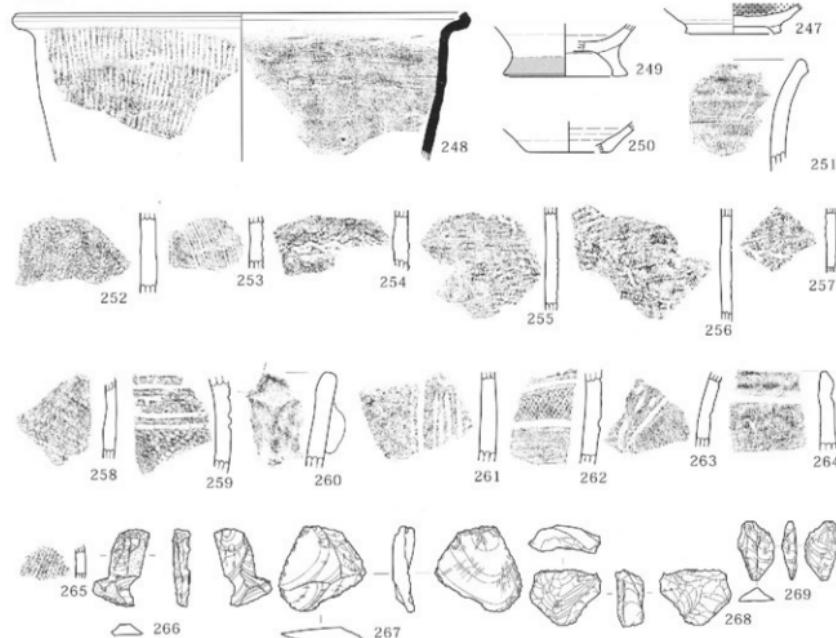
245



246



包含層

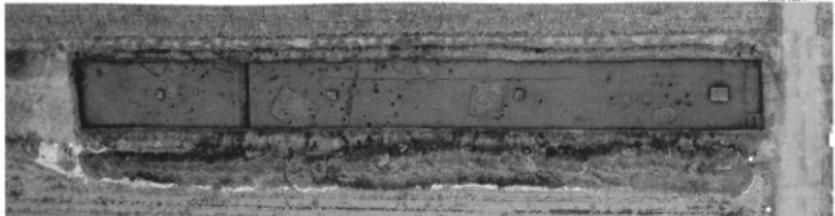


233 ~ 239 · 242 ~ 247 ·
249 ~ 250 · 252 ~ 269
S=1/3 10cm

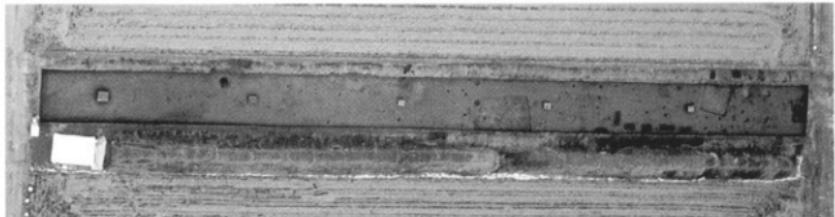
その他
S=1/4 10cm



遺跡全景 西から



調査区西側 南から



調査区中央 南から



調査区東側 東から



6号住居跡セクション 東から



同 遺物出土状況 西から



6号住居跡完掘状況 西から



1号住居跡完掘状況 南西から



2号住居跡セクション 南から



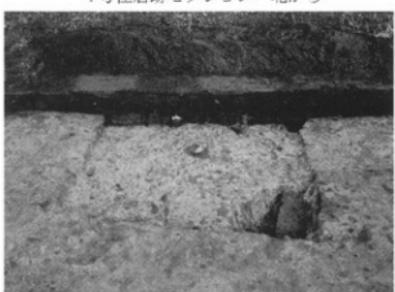
3号住居跡セクション 北西から



4号住居跡セクション 北から



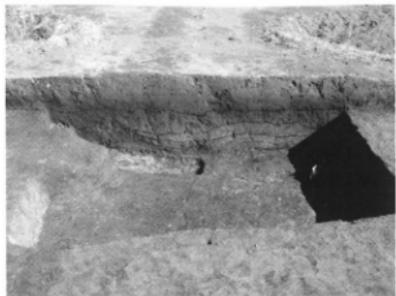
4号住居跡遺物出土状況 西から



5号住居跡セクション 南から



7・8・10号住居跡完掘状況 南から



9号住居跡セクション 西から



11号住居跡セクション 南から



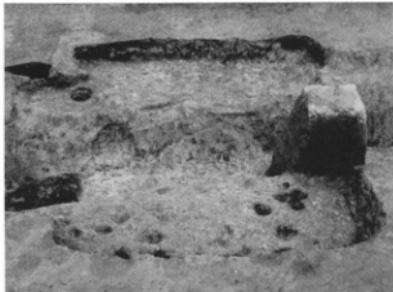
12号住居跡完掘状況 西から



13号住居跡セクション 南西から



13号住居跡・5号溝完掘状況 西から



14号住居跡完掘状況 西から



15号住居跡セクション 東から



15号住居跡完掘状況 西から

図版 30



16号住居跡セクション 北西から



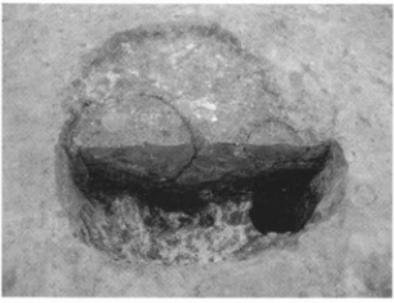
1号掘立柱建物跡P2セクション 西から



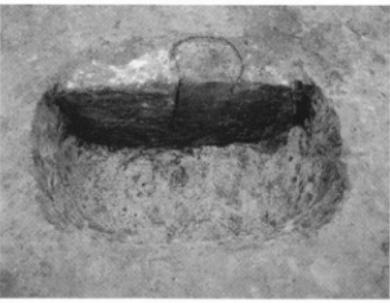
1号掘立柱建物跡P8セクション 北から



1号掘立柱建物跡完掘状況 東から



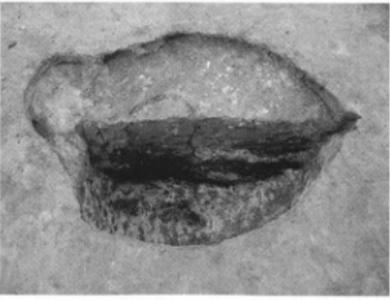
2号掘立柱建物跡P4セクション 東から



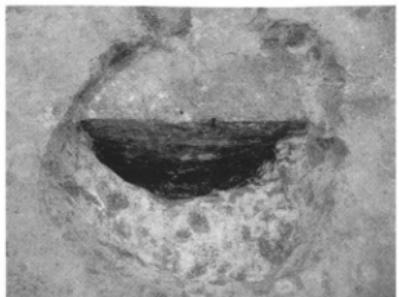
2号掘立柱建物跡P5セクション 南から



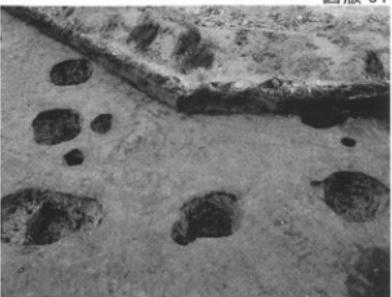
2号掘立柱建物跡完掘状況 西から



3号掘立柱建物跡P1セクション 東から



3号掘立柱建物跡P3セクション 南から



3号掘立柱建物跡完掘状況 東から



1号溝セクション 南から



2号溝完掘状況 北から



3号溝遺構確認状況 北から



3号溝セクション 南から



3号溝完掘状況 北から

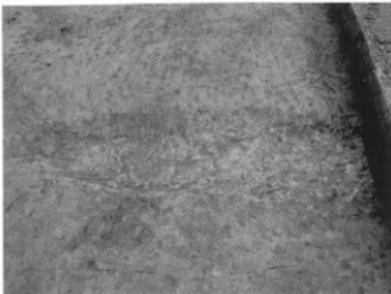


4号溝完掘状況 南から

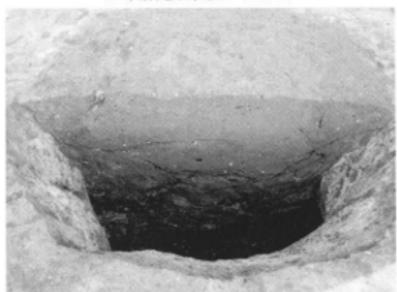
図版 32



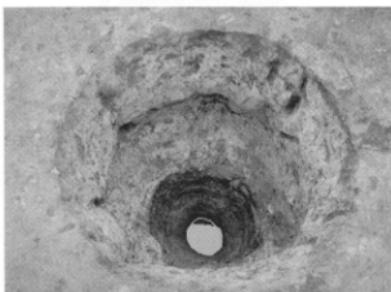
6号溝完掘状況 西から



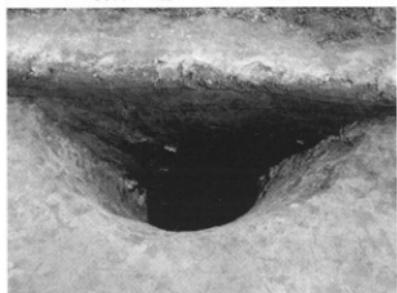
7号溝完掘状況 北から



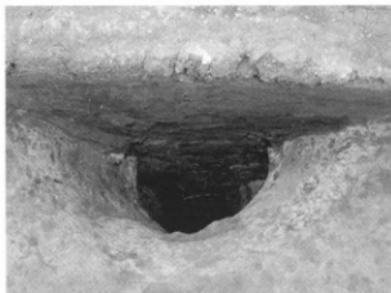
1号井戸上層セクション 南から



1号井戸完掘状況 南から



2号井戸上層セクション 北から



2号井戸完掘状況 北から



20号土坑セクション 南西から

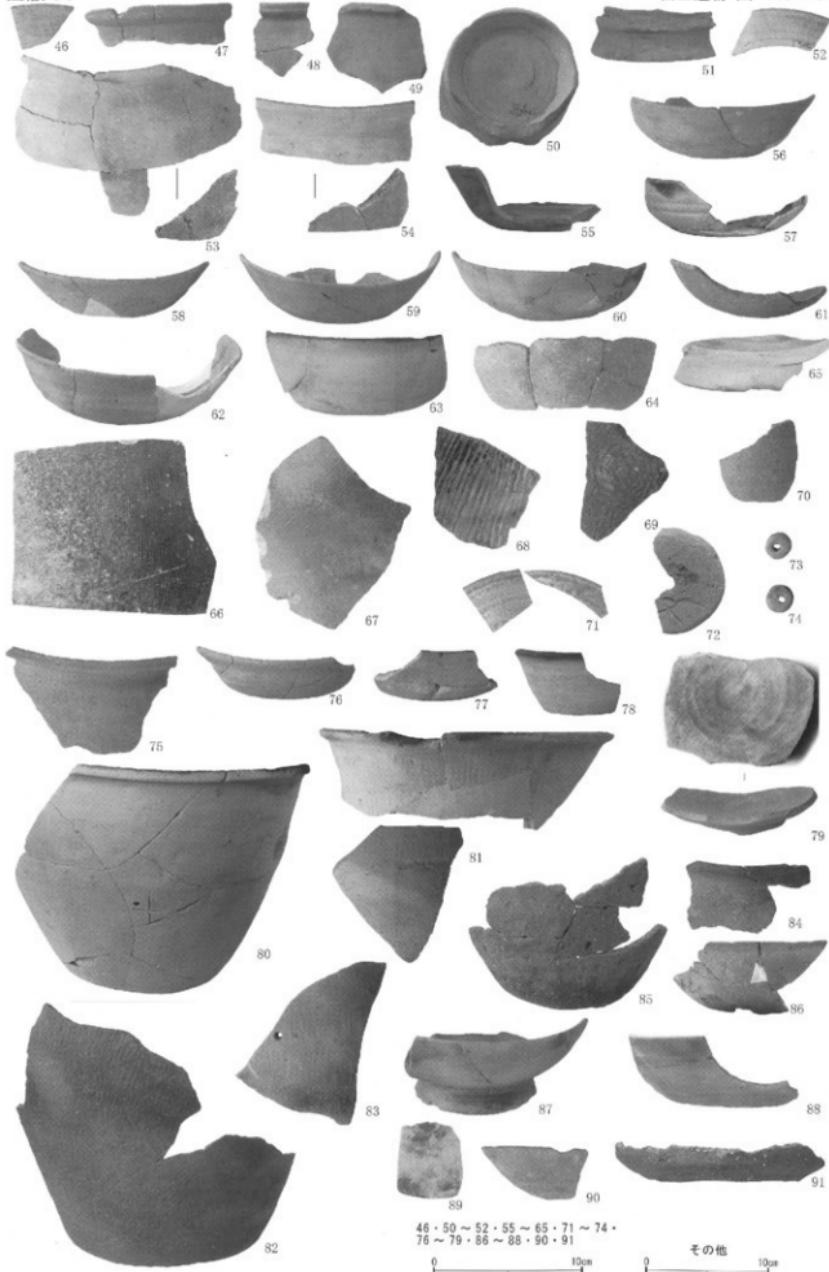


20号土坑完掘状況 南から



图版 34

出土遗物 (2) 46 ~ 91

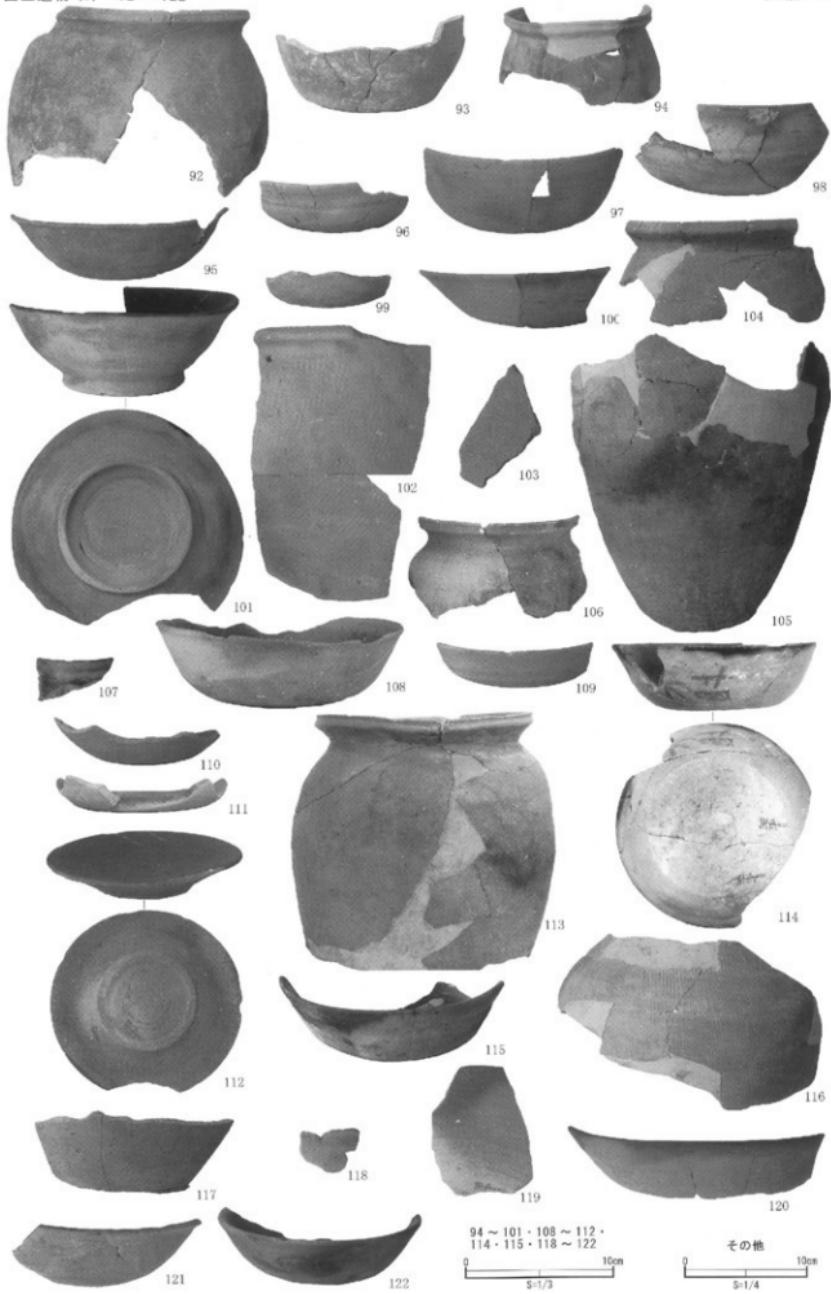


46 · 50 ~ 52 · 55 ~ 65 · 71 ~ 74 ·
76 ~ 79 · 86 ~ 88 · 90 · 91

0
5=1/3
10cm

その他

0
5=1/4
10cm



94~101・108~112・

114・115・118~122

0 5:1/3 10cm

その他

0 5:1/4 10cm

図版 36

出土遺物(4) 123~174

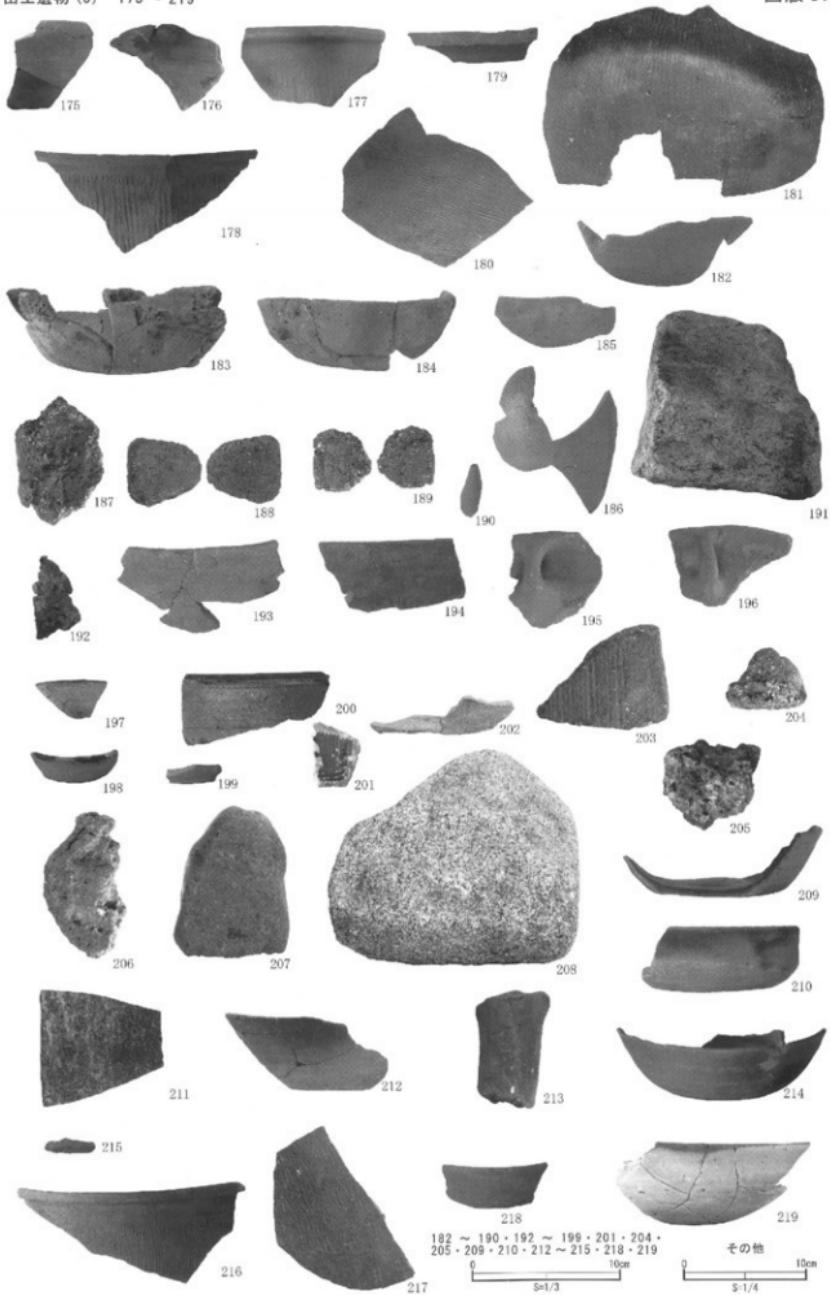


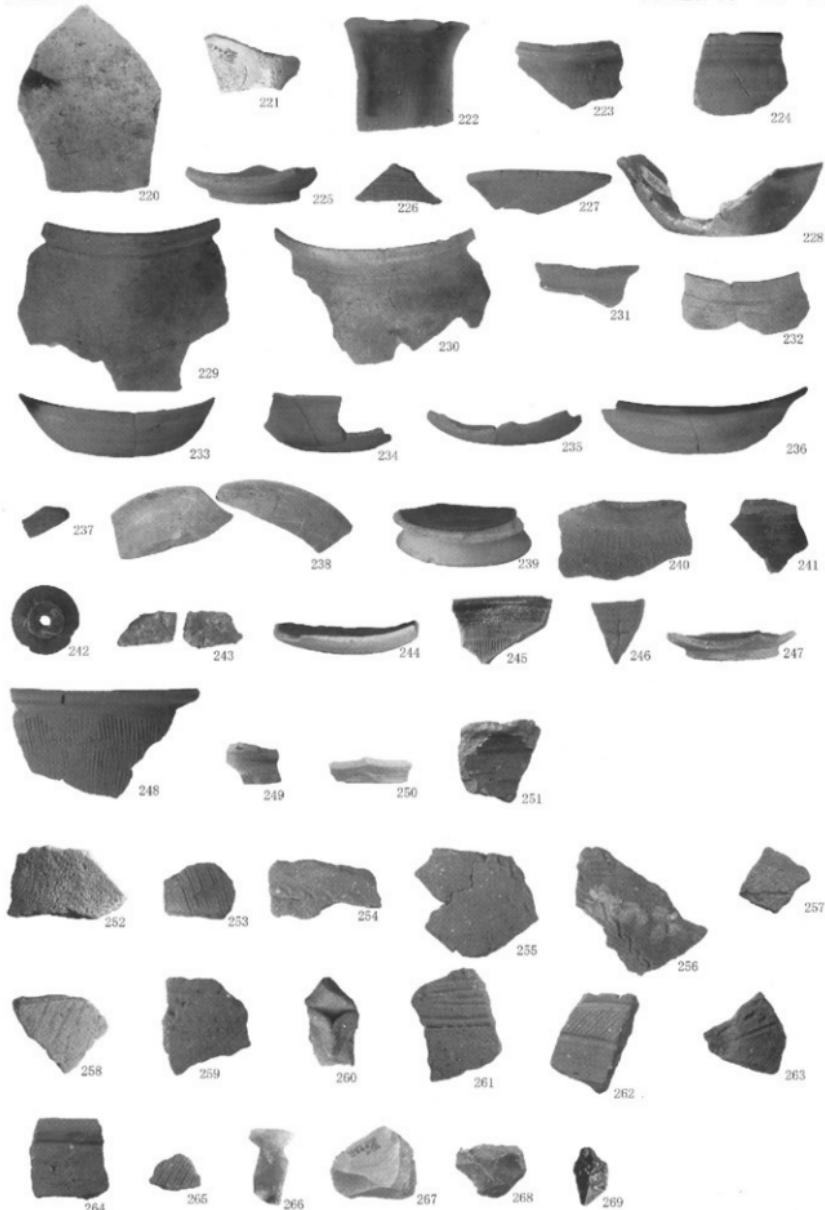
123~125・127~129・131~
135~141・143~147・153~173

10cm
5×1/3

その他

10cm
5×1/4



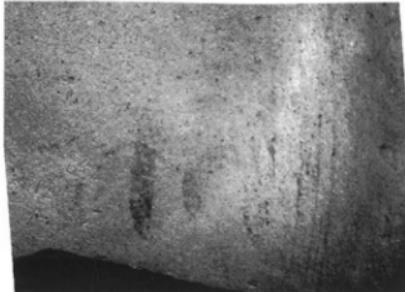


221 ~ 225 · 227 · 228 · 231 ~ 239 ·
242 ~ 247 · 249 · 250 · 252 ~ 269

0 10cm
S=1/3

0 10cm
S=1/4

その他

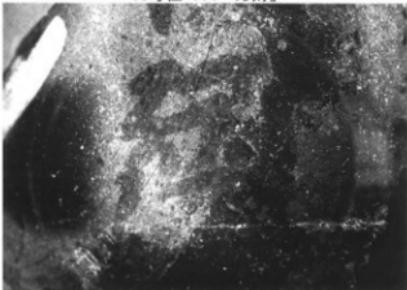


8号住 100 「口」

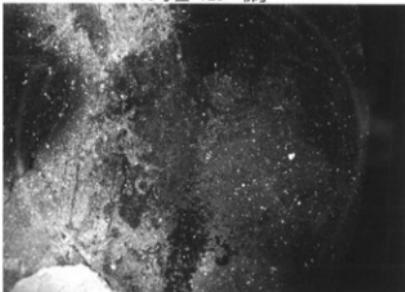
10号住 114 「万財」



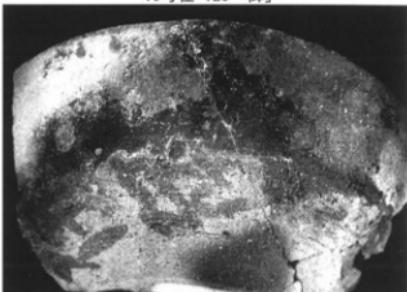
13号住 123 「佛」



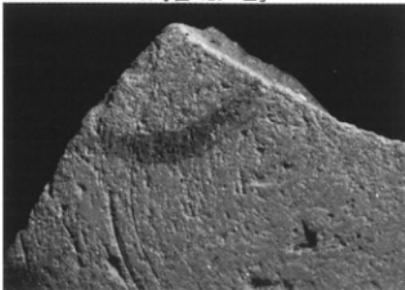
13号住 123 「御」



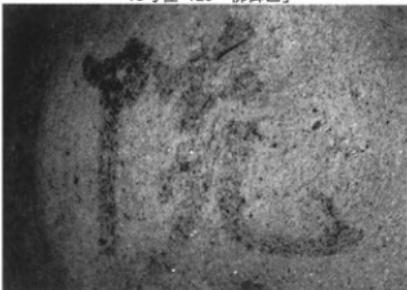
13号住 123 「口」



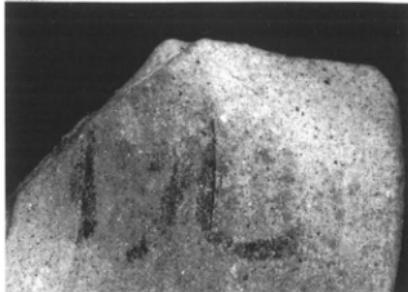
13号住 123 「佛御口」



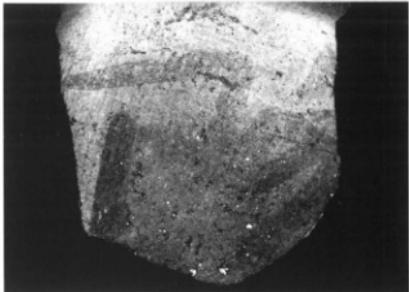
13号住 124 「口」



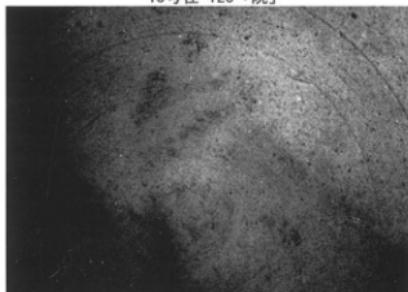
13号住 127 「院」



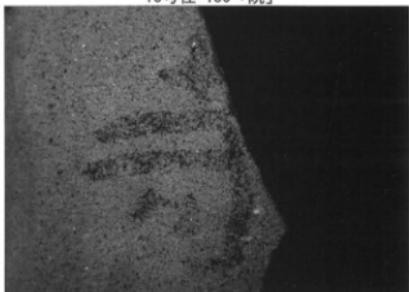
13号住 128 「院」



13号住 130 「院」



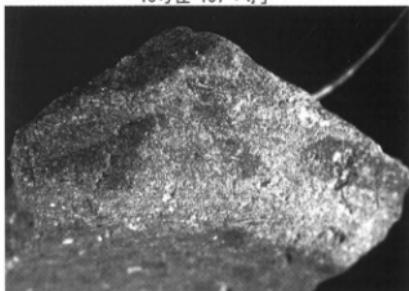
15号住 153 「口(家カ)」



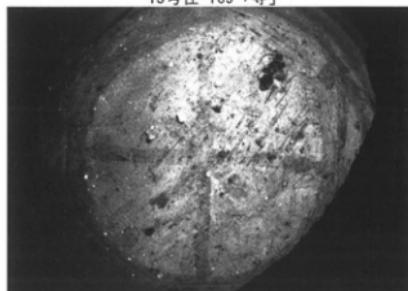
15号住 157 「寺」



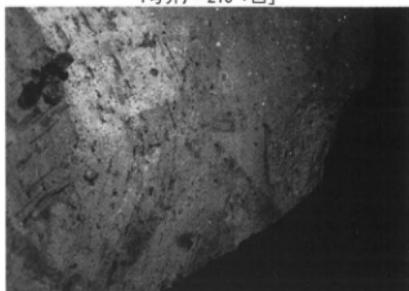
15号住 169 「寺」



1号井戸 215 「口」



4号溝 212 「米」



4号溝 212 「太」

報告書抄録

ふりがな	すみやきどひがしいせき						
書名	炭焼戸東遺跡						
副書名	つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	3						
シリーズ名	筑西市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第6集						
編著者名	田中 駿徳・大賀 健・大賀 さつき						
編集・発行	筑西市教育委員会 〒308-0031 水城県筑西市丙360番地 TEL0296(22)0183						
機関所在地	有限会社 勾玉工房Mogi 〒286-0203 千葉県富里市久能238 100 TEL0476(92)0658						
発行年月日	西暦2009年3月10日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
すみやきどひがしいせき 炭焼戸東遺跡	いばらきけんちくせいし 茨城県筑西市 まことら 松原 599番地他	502061	36° 14' 00"	140° 02' 00"	20080925 ~ 20081126	2200 m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
炭焼戸東遺跡	集落跡	古墳時代	磐穴住居跡	土師器、滑石製模造品(刺形、有孔円板) 滑石(原石、片割)	古墳時代中期の住居跡から滑石製模造品とその製作工程に関わる遺物が出土した。		
		平安時代	磐穴住居跡、獨立柱 建物跡、井戸跡、 溝跡、土坑、ピット	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、鍛錬窓、 輪形壺、羽口、金環石、墨書き土器、私用鏡	平安時代の集落跡である。「院」「寺」等の墨書き土器、転用鏡、仏像、火舎、灰釉陶器、須恵器等が出土した。		
		中世	溝跡	内耳鏡、土師實上器、陶器	平安時代の集落跡である。「院」「寺」等の墨書き土器、転用鏡、仏像、火舎、灰釉陶器、須恵器等が出土した。		

要 約

- 調査時代は遺物のみであるが、早期～後期にかかる上器片が出土した。弥生時代は後期のト稽古段階と見られる土器片が出土した。
- 古墳時代は中期末の磐穴住居跡1軒しか検出されなかつたが、滑石製模造品の製作工程を復元できる砾石一枚までの資料が出土した。
- 遺跡の主体となる9世紀前半～10世紀前半には独立柱建物跡、磐穴住居跡で構成される集落が形成された。遺構は3時期の変遷を考えられるが、Ⅰ期(9世紀中～後期)がピークであり、隣接する調査区との関連が見られる。特に独立柱建物跡は1～4号建物と隣接調査区のSB05・06とは施方位置を離れ、近接しているため同一建物群と想定されるが、両方のSB01～04については時期や性格の異なる建物群の可能性が考えられる。また、洋書土器「院」「寺」や転用鏡、仏像、火舎、灰釉陶器、須恵器など仏教関連遺物の出土からは村落内に寺院が存在したことが想定される。
- 中世の遺構は清財のみとなるが、3号溝は「コ」字状を呈し、隣接調査区へと延伸する。本調査区以外に周辺で検出された溝跡群と同方位であり、南に存在する海ヶ島城と並行する時期の遺構と考えられる。

茨城県筑西市 筑西市埋蔵文化財調査報告書第6集 炭焼戸東遺跡 つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書3-
印刷・発行 平成21年3月10日
編集 筑西市教育委員会
印刷 有限会社 勾玉工房Mogi 株式会社 エイティー 〒289-1115 千葉県八街市ほ211